

筑西市国民健康保険
第二期データヘルス計画
(見直し計画)

令和2年11月
筑西市

第1章 計画策定について	
1. 背景	5
2. 計画期間	5
3. 基本方針	6
4. データヘルス計画の位置づけ	7
5. 実施体制・関係者連携	7
第2章 現状と課題把握	
1. 保険者の特性把握	8
(1) 基本情報	8
(2) 医療費等の状況	11
(3) 特定健康診査受診状況及び特定保健指導実施状況	12
(4) 介護保険の状況	16
(5) 主たる死因の状況	20
(6) 死亡数及び標準化死亡比	22
2. 過去の取り組みの考察(平成29年度～平成31年度の振り返り)	23
3. 医療情報分析結果	29
(1) 基礎統計	29
(2) 高額レセプトの件数及び医療費	31
(3) 疾病別医療費	37
(4) 生活習慣病に係る医療費	51
4. 保健事業実施に係る分析結果	54
(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析	54
(2) 特定健康診査に係る分析	55
(3) 特定保健指導に係る分析	57
(4) 健診異常値放置者に係る分析	59
(5) 生活習慣病治療中断者に係る分析	61
(6) 糖尿病性腎症重症化予防に係る分析	63
(7) 脳梗塞・心筋梗塞の発症予防に係る分析	67
(8) 受診行動適正化に係る分析	68
(9) ジェネリック医薬品普及率に係る分析	71
(10) 薬剤併用禁忌に係る分析	74
(11) 服薬情報に係る分析	76
(12) ロコモティブシンドロームに係る分析	78
5. 分析結果に基づく健康課題の把握	81
(1) 分析結果	81
(2) 分析結果に基づく課題とその対策	88
第3章 保健事業実施計画	
1. 各事業の目的と概要一覧	89
2. 全体スケジュール	91
3. 各事業の実施内容と評価方法	92
(1) 特定健康診査受診勧奨事業	92
(2) 人間ドック健診費助成事業	93

	(3) 特定保健指導事業	94
	(4) 糖尿病性腎症重症化予防事業	95
	(5) 高血圧症重症化予防事業	96
	(6) 受診行動適正化指導事業(重複・頻回受診、重複服薬)	97
	(7) ジェネリック医薬品差額通知事業	98
第4章 その他		
	1. データヘルス計画の見直し	99
	(1) 評価	99
	(2) 評価時期	99
	2. 計画の公表・周知	99
	3. 個人情報の取り扱い	100
	4. 地域包括ケアに係る取組及びその他の留意事項	100
【参考資料】		
地区分析		
	1. 大分類による疾病別医療費地区別統計	102
	2. 中分類による疾病別医療費地区別統計	107
年度別 特定健康診査結果分析		
	1. 有所見者割合	113
	2. 質問別回答状況	122
巻末資料		
	1. 「指導対象者群分析」のグループ分けの見方	139
	2. 用語解説集	140
	3. 疾病分類表(2013年版)	141
	4. 分析方法	145

第1章 計画策定について

1. 背景

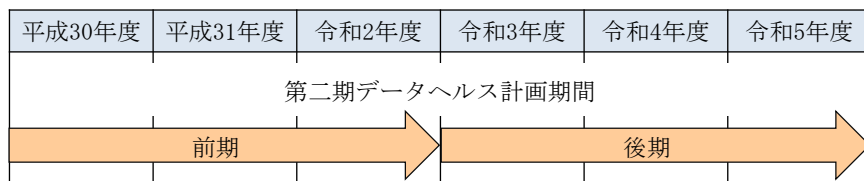
「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)においては、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータの分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市区町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」としている。データヘルス計画には健康・医療情報(健康診査の結果やレセプト等から得られる情報)を活用し、健康状態や健康課題を客観的な指標を用いて示すこととある。また、これら分析結果を踏まえ、直ちに取り組むべき健康課題、中長期的に取り組むべき健康課題を明確にし、目標値の設定を含めた事業内容の企画を行うこととしている。実施計画に基づく事業の実施に当たっては、費用対効果を考慮することや、レセプトを活用し、生活習慣の改善により予防効果が大きく期待できる者を明確にし、優先順位をつけて行うこととある。

また、「日本再興戦略2016」(平成28年6月2日閣議決定)においては、「データヘルス計画を通じた企業や保険者等による健康・予防に向けた取組を強化する。」としている。こうした背景を踏まえて策定した第一期データヘルス計画を見直すとともに、被保険者の健康維持増進を図るため第二期データヘルス計画を策定した。本計画はその第二期計画の中間年度において、前期事業の評価を行い、後期事業の実施内容及び目標の見直しをするものである。

2. 計画期間

本データヘルス計画の計画期間は、「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」第4の5において、「特定健康診査等実施計画及び健康増進計画との整合性を踏まえ、複数年とすること」とされていることから、第3期特定健康診査等実施計画期間である、平成30年度から令和5年度の6年間とする。その中間年度である令和2年に、前期3年間の事業の評価を行い、後期3年間の事業の見直しを行う。

■ 計画期間



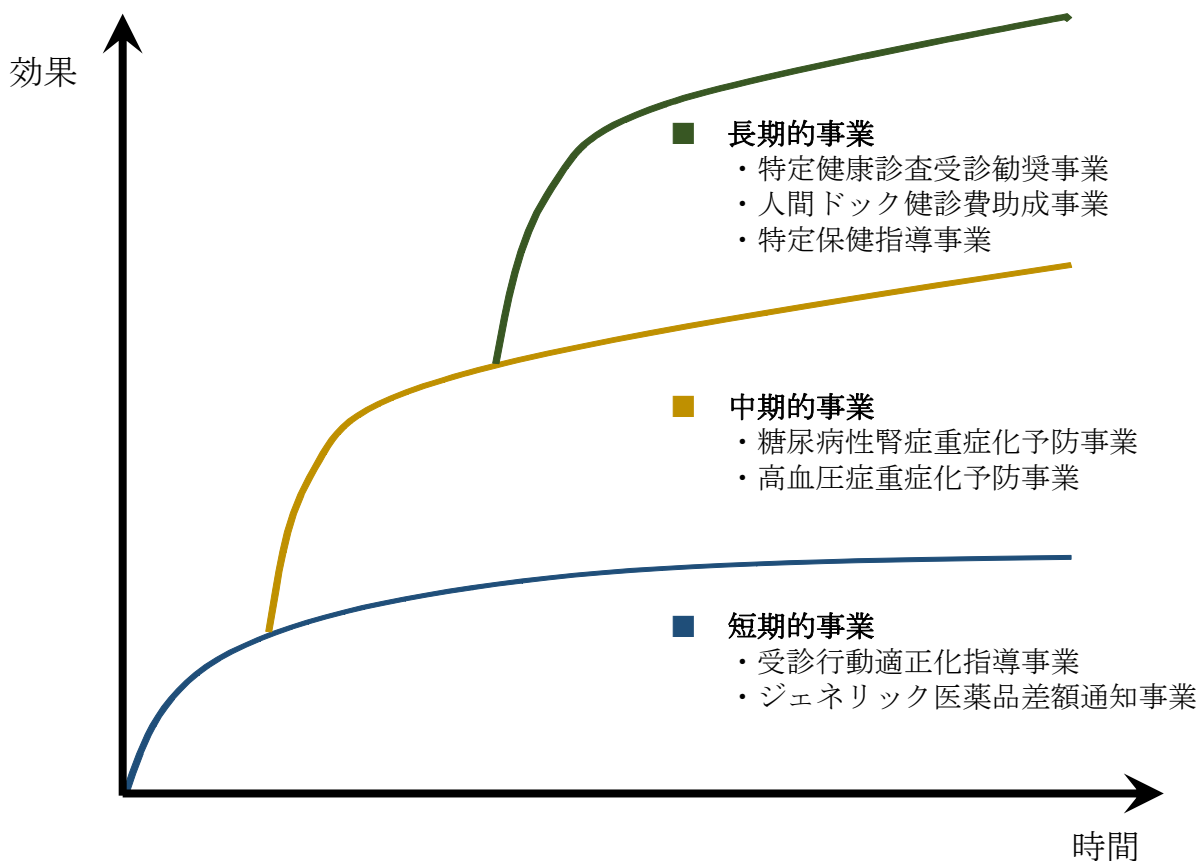
3. 基本方針

データヘルス計画では、短期的に取り組むべき対策と、中長期的に取り組むべき対策について、それぞれの段階にあった事業を行うことを計画する。

目標とする成果を達成するために、以下の基本方針でデータヘルス計画を策定する。

1. 潜在する課題を確認するため、疾病ごとの医療費比較、高額レセプトの発生状況や発生源となる疾病の把握を行い課題を明確にする。
2. 明確となった課題より、「短期的な対策」・「中長期的な対策」を選択する。費用対効果の見込める集団を特定し、PDCAサイクルを意識した継続的な事業を実施する。
3. データヘルス計画には、実施事業に対する明確な目標を設定し、記載する。またこの目標を達成することのできる効果的な実施方法を検討し、明示する。目標に対する客観的な効果測定が必要であることから、事業実施後の効果測定方法についても記載することとする。

事業には、即効性があるが効果額が小さい短期的事業と、即効性はないが将来の大きな医療費削減につながる中・長期的な事業がある。下記の保健事業を筑西市国民健康保険の実情に合わせて、効率良く実施する。



4. データヘルス計画の位置づけ

「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21(第二次))」に示された基本方針を踏まえるとともに、「都道府県健康増進計画」及び「市町村健康増進計画」で用いた評価指標を用いる等、それぞれの計画と整合性を図る必要がある。

5. 実施体制・関係者連携

本データヘルス計画の遂行に当たっては、保険担当部局が主体となり、関係部局(保健衛生、介護部門等)・保健師・栄養士等の専門職と共同で事業を推進する。そのために、課題や評価について共有する場としてのプロジェクトチーム等を設置し、一体となって保健事業の実施に当たる。

また、学識経験者、地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、栄養士会等の保健医療関係者等の外部有識者や被保険者が議論に参画できる協議の場として、既存の協議会等の活用、または新たな会議体の設置、被保険者向け説明会等を行い、外部有識者からの支援体制を強化し、被保険者自身が当事者意識を持って主体的・積極的に取り組める体制を整備しながら事業を運営する。

■ データ分析期間

- ・ 国保データベース(KDB)システムデータ
平成29年度～平成31年度(3年分)
- ・ 入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト
単年分析
平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)
年度分析
平成29年度…平成29年4月～平成30年3月診療分(12カ月分)
平成30年度…平成30年4月～平成31年3月診療分(12カ月分)
平成31年度…平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)
- ・ 健康診査データ
単年分析
平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)
年度分析
平成29年度…平成29年4月～平成30年3月健診分(12カ月分)
平成30年度…平成30年4月～平成31年3月健診分(12カ月分)
平成31年度…平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)

第2章 現状と課題把握

1. 保険者の特性把握

(1) 基本情報

本市の平成31年度における、人口構成概要を以下に示す。高齢化率(65歳以上)は28.0%であり、県との比較でほぼ等倍、同規模との比較でほぼ等倍となっている。また、国民健康保険被保険者数は26,022人で、市の人口に占める国民健康保険加入率は25.0%である。国民健康保険被保険者平均年齢は53.5歳である。

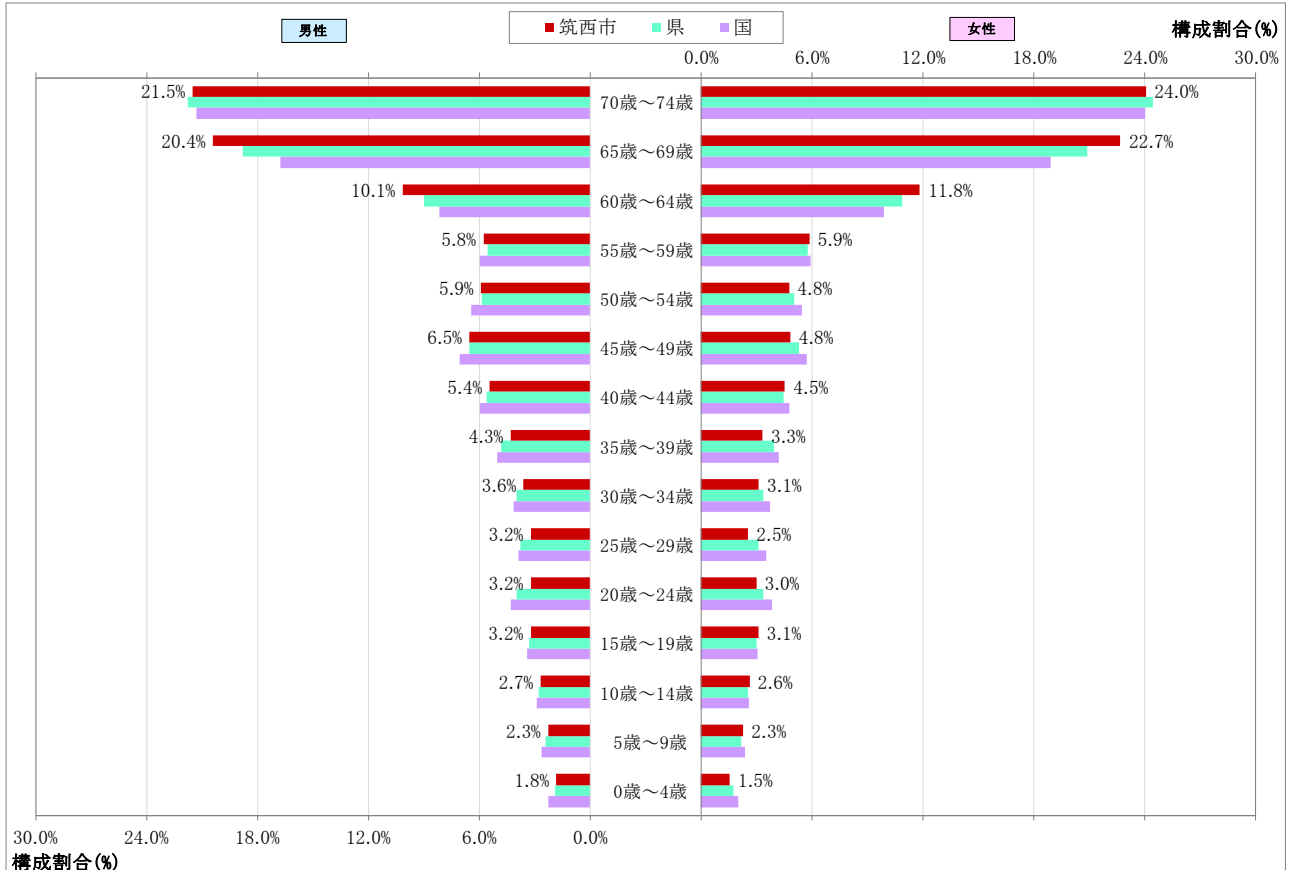
人口構成概要(平成31年度)

	人口総数(人)	高齢化率(65歳以上)	国保被保険者数(人)	国保加入率	国保被保険者平均年齢(歳)	出生率	死亡率
筑西市	104,253	28.0%	26,022	25.0%	53.5	7.1%	12.2%
県	2,883,341	26.8%	694,757	24.1%	52.7	7.5%	10.8%
同規模	120,865	26.7%	26,400	21.8%	53.3	7.9%	10.1%
国	125,640,987	26.6%	29,893,491	23.8%	51.6	8.0%	10.3%

※「県」は茨城県を指す。以下すべての表において同様である。

出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

男女・年齢階層別 被保険者数構成割合ピラミッド(平成31年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「人口及び被保険者の状況」

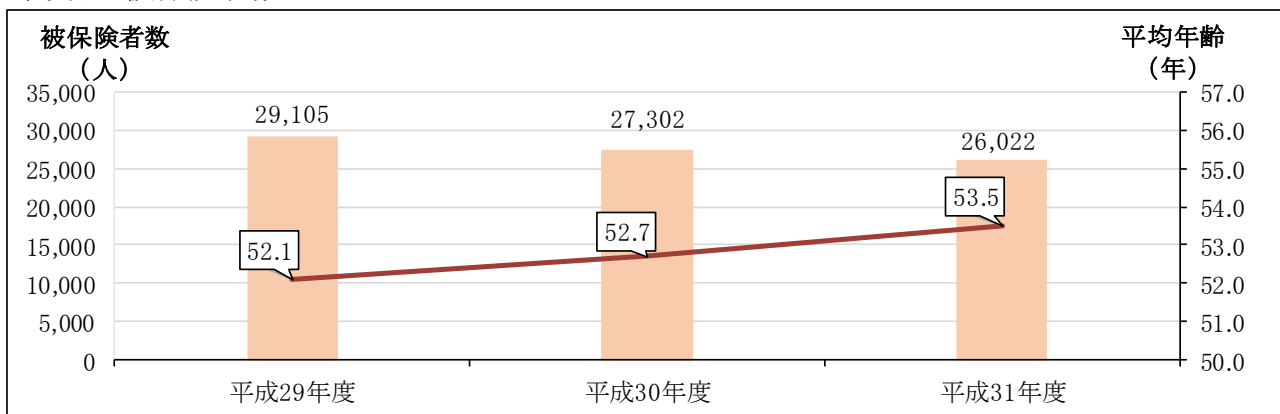
本市の平成29年度から平成31年度における、人口構成概要を年度別に示す。平成31年度を平成29年度と比較すると、国民健康保険被保険者数26,022人は平成29年度29,105人より3,083人減少しており、国民健康保険被保険者平均年齢53.5歳は平成29年度52.1歳より1.4歳上昇している。

年度別 人口構成概要

区分		人口総数 (人)	高齢化率 (65歳以上)	国保被保険者数 (人)	国保加入率	国保被保険者 平均年齢(歳)	出生率	死亡率
筑西市	平成29年度	104,253	28.0%	29,105	27.9%	52.1	7.1%	12.2%
	平成30年度	104,253	28.0%	27,302	26.2%	52.7	7.1%	12.2%
	平成31年度	104,253	28.0%	26,022	25.0%	53.5	7.1%	12.2%
県	平成29年度	2,883,341	26.8%	765,420	26.5%	51.8	7.5%	10.8%
	平成30年度	2,883,341	26.8%	723,426	25.1%	52.2	7.5%	10.8%
	平成31年度	2,883,341	26.8%	694,757	24.1%	52.7	7.5%	10.8%
同規模	平成29年度	120,884	26.8%	28,436	23.5%	52.7	7.9%	10.2%
	平成30年度	120,652	26.8%	27,239	22.6%	53.0	7.9%	10.2%
	平成31年度	120,865	26.7%	26,400	21.8%	53.3	7.9%	10.1%
国	平成29年度	125,640,987	26.6%	31,587,591	25.6%	51.1	8.0%	10.3%
	平成30年度	125,640,987	26.6%	30,811,133	24.5%	51.3	8.0%	10.3%
	平成31年度	125,640,987	26.6%	29,893,491	23.8%	51.6	8.0%	10.3%

出典：国保データベース (KDB) システム 「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

年度別 被保険者数



出典：国保データベース (KDB) システム 「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

男女・年齢階層別被保険者数を年度別に示す。

年度別 男女・年齢階層別国民健康保険被保険者数

単位：人

年齢階層	平成29年度			平成30年度			平成31年度		
	男女計	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	男性	女性
0歳～4歳	602	317	285	539	283	256	438	241	197
5歳～9歳	653	342	311	616	321	295	591	301	290
10歳～14歳	841	435	406	769	408	361	688	354	334
15歳～19歳	1,088	545	543	919	481	438	822	427	395
20歳～24歳	912	476	436	857	444	413	807	426	381
25歳～29歳	880	482	398	798	443	355	751	426	325
30歳～34歳	1,091	597	494	978	519	459	874	477	397
35歳～39歳	1,246	720	526	1,124	646	478	995	570	425
40歳～44歳	1,615	915	700	1,439	810	629	1,301	721	580
45歳～49歳	1,691	952	739	1,537	885	652	1,481	865	616
50歳～54歳	1,469	804	665	1,419	802	617	1,390	782	608
55歳～59歳	1,741	917	824	1,607	826	781	1,513	765	748
60歳～64歳	3,577	1,660	1,917	3,139	1,441	1,698	2,855	1,343	1,512
65歳～69歳	6,423	3,163	3,260	6,065	2,989	3,076	5,597	2,700	2,897
70歳～74歳	5,276	2,532	2,744	5,496	2,625	2,871	5,919	2,846	3,073
合計	29,105	14,857	14,248	27,302	13,923	13,379	26,022	13,244	12,778

出典：国保データベース(KDB)システム「人口及び被保険者の状況」

(2) 医療費等の状況

本市の平成31年度における、医療基礎情報をみると、千人当たりの病院数は、県・同規模・国を下回っており、千人当たりの医師数も同様に下回っている。千人当たりの診療所数は同規模・国より下回っているが、県より高くなっている。また、一件当たり医療費は、県・同規模・国を下回っている。

医療基礎情報(平成31年度)

医療項目	筑西市	県	同規模	国
千人当たり				
病院数	0.2	0.3	0.3	0.3
診療所数	3.1	2.5	3.4	3.4
病床数	43.1	45.5	58.4	52.0
医師数	4.7	7.9	9.9	10.7
外来患者数	715.8	649.1	703.1	682.3
入院患者数	17.6	16.8	20.1	18.7
受診率	733.4	665.9	723.2	701.0
一件当たり医療費(円)	34,830	36,320	37,960	37,230
一般(円)	34,850	36,330	37,960	37,230
退職(円)	16,160	31,710	34,930	36,040
外来				
外来費用の割合	63.8%	61.9%	58.7%	59.4%
外来受診率	715.8	649.1	703.1	682.3
一件当たり医療費(円)	22,760	23,050	22,910	22,710
一人当たり医療費(円)	16,290	14,960	16,110	15,500
一日当たり医療費(円)	15,080	16,000	15,090	14,960
一件当たり受診回数	1.5	1.4	1.5	1.5
入院				
入院費用の割合	36.2%	38.1%	41.3%	40.6%
入院率	17.6	16.8	20.1	18.7
一件当たり医療費(円)	526,390	550,210	565,000	567,030
一人当たり医療費(円)	9,250	9,220	11,340	10,600
一日当たり医療費(円)	32,040	36,340	34,550	36,070
一件当たり在院日数	16.4	15.1	16.4	15.7

出典: 国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

(3) 特定健康診査受診状況及び特定保健指導実施状況

① 特定健康診査

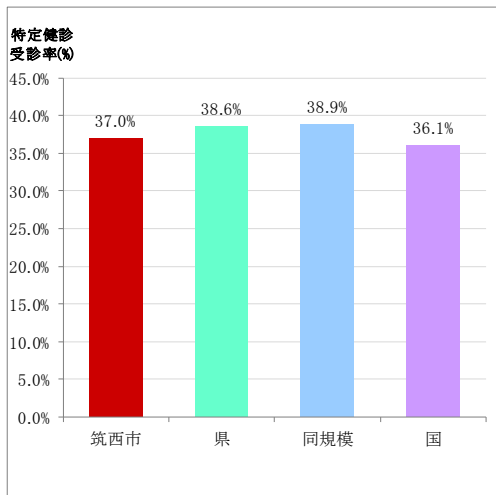
本市の平成31年度における、40歳から74歳の特定健康診査の受診率をみると、受診率は県・同規模を下回っているが、国より高くなっている。

特定健康診査受診率(平成31年度)

	特定健診受診率
筑西市	37.0%
県	38.6%
同規模	38.9%
国	36.1%

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

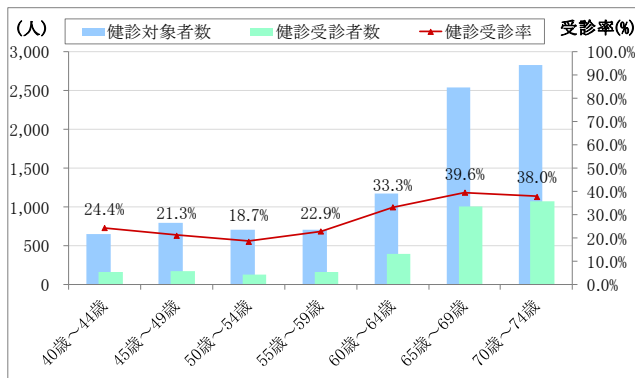
特定健康診査受診率(平成31年度)



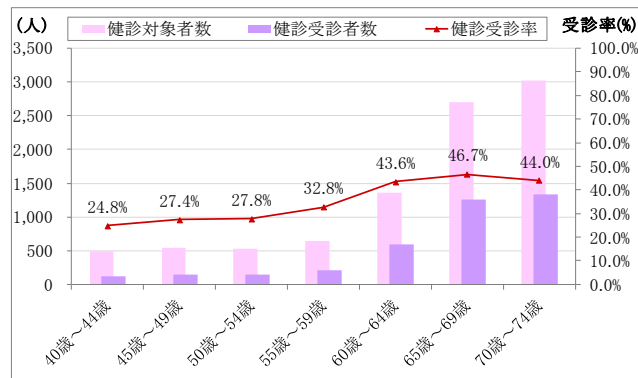
出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

男女別・年齢階層別特定健康診査受診率をみると、男女ともに年代が高いほど受診率が高い傾向がある。

(男性)年齢別特定健康診査受診率(平成31年度)



(女性)年齢別特定健康診査受診率(平成31年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

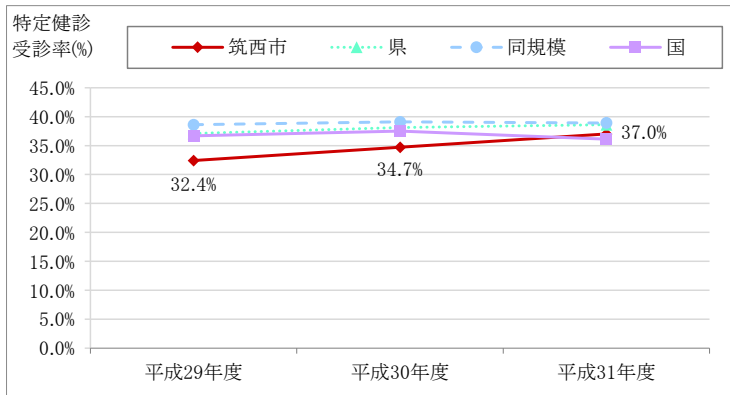
本市の平成29年度から平成31年度における、40歳から74歳の特定健康診査受診率を年度別に示す。平成31年度の特定健康診査受診率37.0%は平成29年度32.4%より4.6ポイント上昇している。

年度別 特定健康診査受診率

	特定健診受診率		
	平成29年度	平成30年度	平成31年度
筑西市	32.4%	34.7%	37.0%
県	37.1%	38.1%	38.6%
同規模	38.6%	39.1%	38.9%
国	36.7%	37.5%	36.1%

出典: 国保データベース (KDB) システム 「地域の全体像の把握」

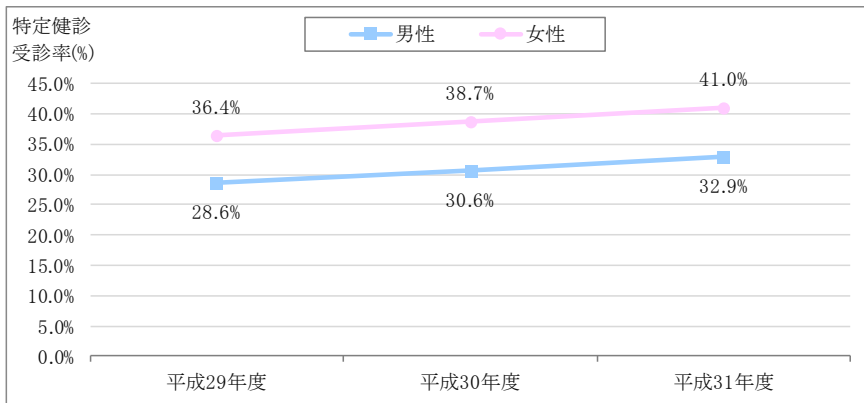
年度別 特定健康診査受診率



出典: 国保データベース (KDB) システム 「地域の全体像の把握」

男女別の特定健康診査の受診率をみると、男性の平成31年度受診率32.9%は平成29年度28.6%より4.3ポイント上昇しており、女性の平成31年度受診率41.0%は平成29年度36.4%より4.6ポイント上昇している。

年度・男女別 特定健康診査受診率



出典: 国保データベース (KDB) システム 「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

②特定保健指導

本市の平成31年度における、特定保健指導の実施状況をみると、支援対象者数割合は県より低く、同規模・国より高い。特定保健指導の実施率は県・同規模・国より著しく低い状況である。

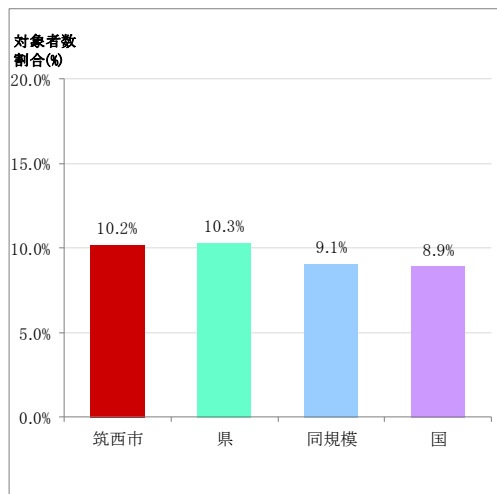
特定保健指導実施状況(平成31年度)

	動機付け支援対象者数割合	積極的支援対象者数割合	支援対象者数割合	特定保健指導実施率
筑西市	10.2%	3.3%	13.4%	7.8%
県	10.3%	3.6%	13.9%	19.3%
同規模	9.1%	2.6%	11.6%	12.4%
国	8.9%	3.1%	12.0%	11.2%

動機付け支援対象者数割合・積極的支援対象者数割合・支援対象者数割合…特定健康診査を受診した人に対する割合。
 特定保健指導実施率…最新データ反映前のため、最終結果とは異なる。

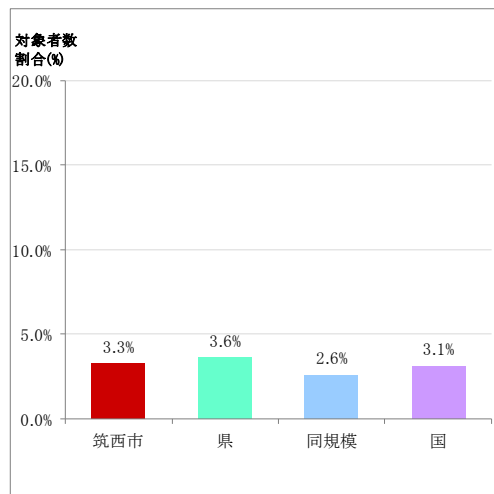
出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

動機付け支援対象者数割合(平成31年度)



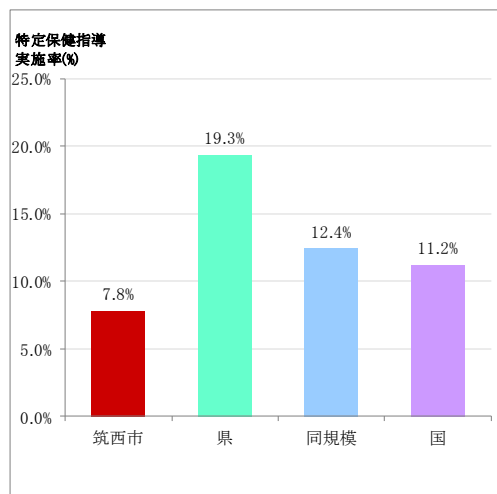
出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

積極的支援対象者数割合(平成31年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

特定保健指導実施率(平成31年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

本市の平成29年度から平成31年度における、特定保健指導の実施状況を年度別に示す。平成31年度の特定保健指導実施率7.8%は平成29年度32.1%より24.3ポイント低下している。

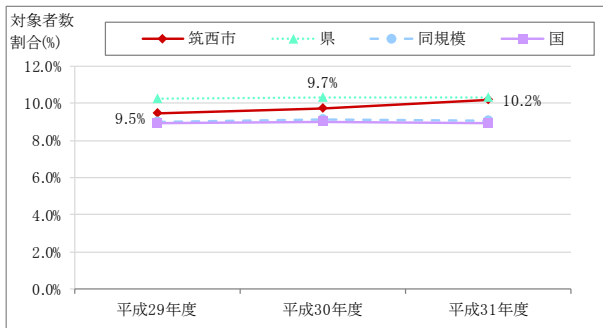
年度別 特定保健指導実施状況

	動機付け支援対象者数割合			積極的支援対象者数割合			支援対象者数割合			特定保健指導実施率		
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
筑西市	9.5%	9.7%	10.2%	4.1%	4.3%	3.3%	13.6%	14.0%	13.4%	32.1%	30.5%	7.8%
県	10.3%	10.3%	10.3%	3.8%	3.8%	3.6%	14.1%	14.1%	13.9%	29.9%	32.5%	19.3%
同規模	9.0%	9.1%	9.1%	2.6%	2.6%	2.6%	11.7%	11.7%	11.6%	26.7%	29.2%	12.4%
国	9.0%	9.0%	8.9%	3.2%	3.2%	3.1%	12.1%	12.2%	12.0%	21.2%	23.8%	11.2%

動機付け支援対象者数割合・積極的支援対象者数割合・支援対象者数割合…特定健康診査を受診した人に対する割合。
 特定保健指導実施率(平成31年度)…最新データ反映前のため、最終結果とは異なる。

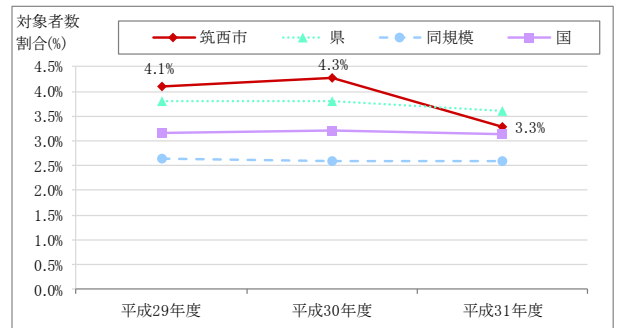
出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 動機付け支援対象者数割合



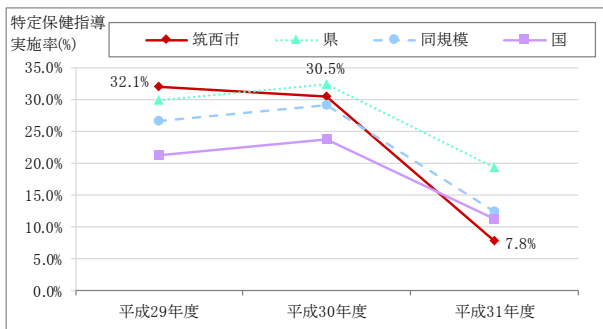
出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 積極的支援対象者数割合



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 特定保健指導実施率



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

(4) 介護保険の状況

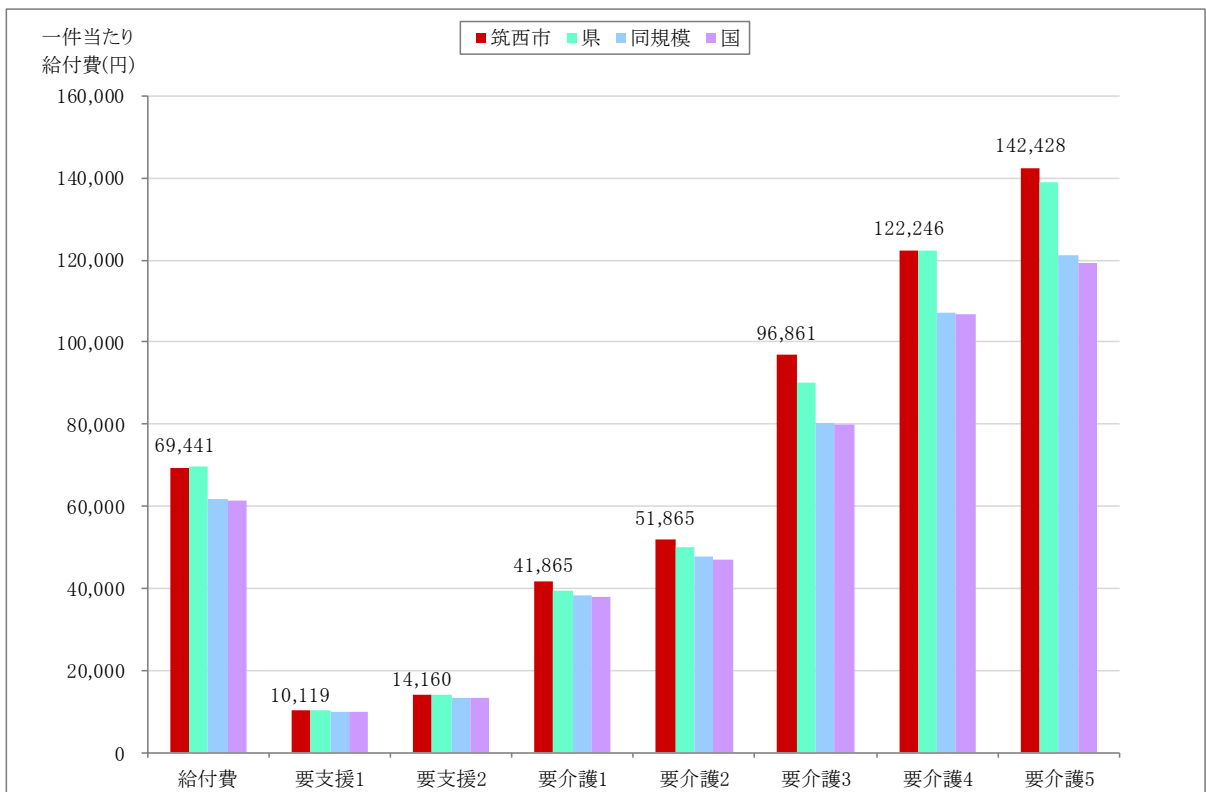
本市の平成31年度における、認定率及び給付費等の状況をみると、介護認定率は県より高く、同規模・国より低い。一件当たり給付費では、県より低く、同規模・国より高い状況である。

介護保険認定率及び給付費等の状況(平成31年度)

区分	筑西市	県	同規模	国
認定率	17.1%	16.9%	18.9%	19.6%
認定者数(人)	5,191	137,246	643,510	6,620,276
第1号(65歳以上)	5,047	133,558	628,212	6,467,463
第2号(40～64歳)	144	3,688	15,298	152,813
一件当たり給付費(円)				
給付費	69,441	69,509	61,799	61,336
要支援1	10,119	10,315	9,734	9,825
要支援2	14,160	13,968	13,134	13,241
要介護1	41,865	39,404	38,233	37,931
要介護2	51,865	49,992	47,642	47,085
要介護3	96,861	90,223	80,328	79,808
要介護4	122,246	122,300	107,344	106,950
要介護5	142,428	138,870	121,078	119,410

出典: 国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

一件当たり要介護度別給付費(平成31年度)



出典: 国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

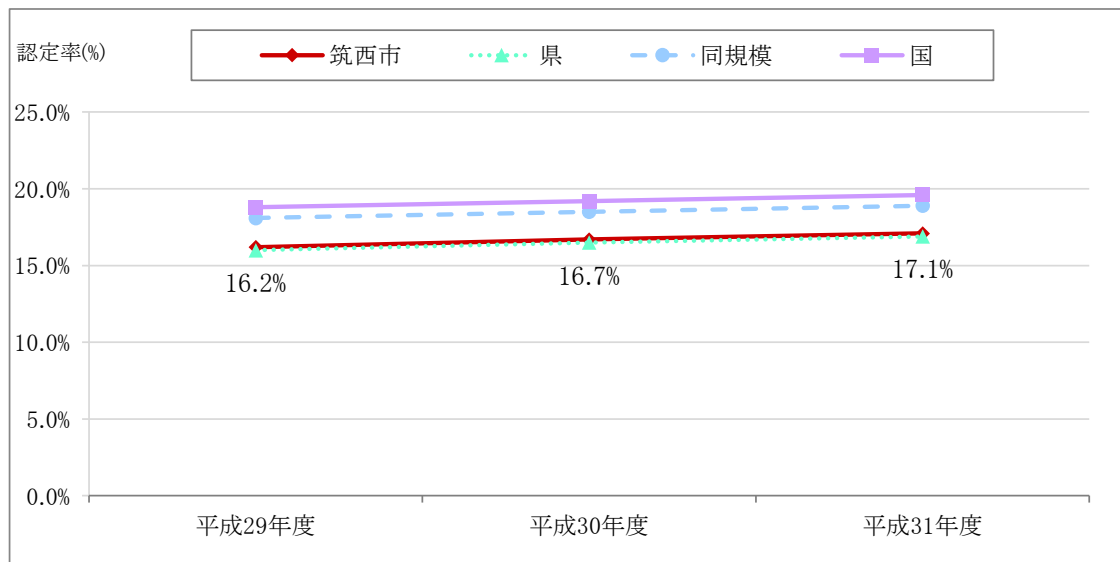
平成29年度から平成31年度における、認定率及び認定者数を年度別に示す。平成31年度認定率17.1%は平成29年度16.2%より0.9ポイント上昇しており、平成31年度の認定者数5,191人は平成29年度4,893人より298人増加している。

年度別 認定率及び認定者数

区分		認定率	認定者数(人)		
				第1号 (65歳以上)	第2号 (40歳～64歳)
筑西市	平成29年度	16.2%	4,893	4,742	151
	平成30年度	16.7%	5,084	4,927	157
	平成31年度	17.1%	5,191	5,047	144
県	平成29年度	16.0%	128,042	124,342	3,700
	平成30年度	16.5%	131,982	128,338	3,644
	平成31年度	16.9%	137,246	133,558	3,688
同規模	平成29年度	18.1%	628,055	612,254	15,801
	平成30年度	18.5%	636,319	620,758	15,561
	平成31年度	18.9%	643,510	628,212	15,298
国	平成29年度	18.8%	6,208,699	6,057,292	151,407
	平成30年度	19.2%	6,482,704	6,329,312	153,392
	平成31年度	19.6%	6,620,276	6,467,463	152,813

出典: 国保データベース (KDB) システム 「地域の全体像の把握」

年度別 認定率



出典: 国保データベース (KDB) システム 「地域の全体像の把握」

本市の平成31年度における、認定者の疾病別有病率を以下に示す。疾病別の有病者数を合計すると14,764人となり、認定者は平均2.8疾病を有していることがわかる。

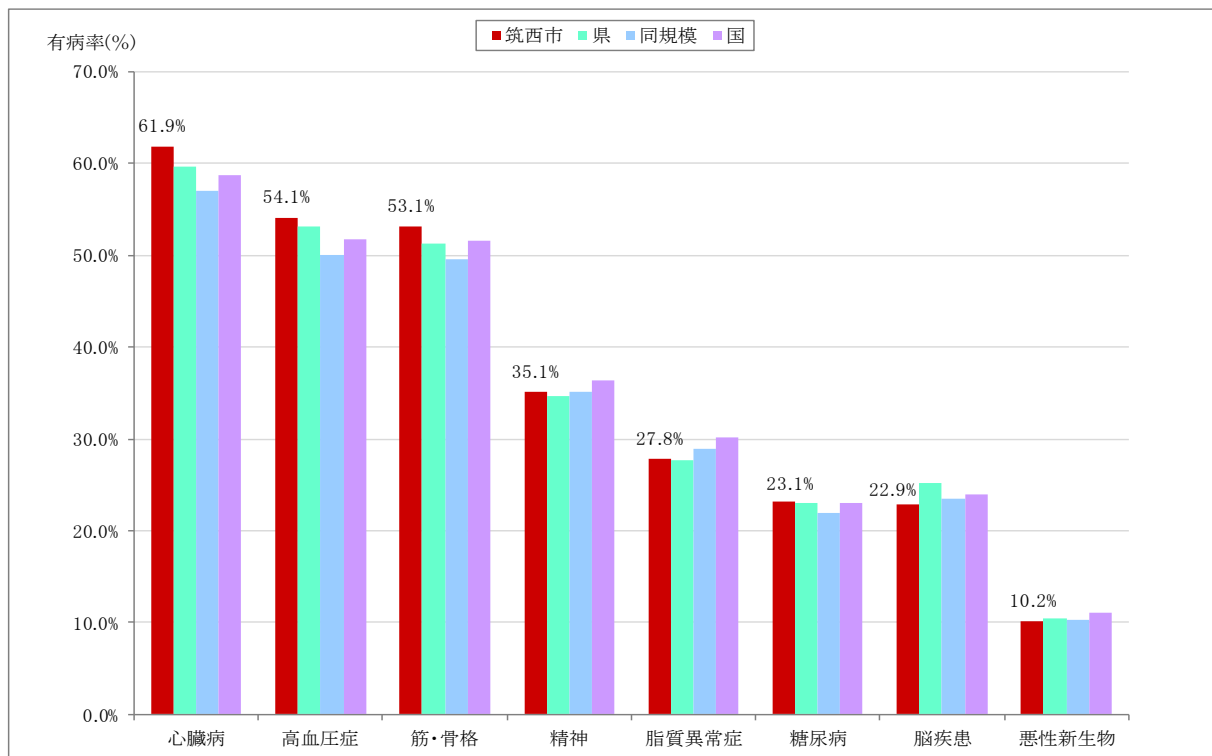
認定者の疾病別有病状況(平成31年度)

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

区分	筑西市	順位	県	順位	同規模	順位	国	順位
認定者数(人)	5,191		137,246		643,510		6,620,276	
心臓病	実人数(人)	3,167	81,318	1	379,708	1	3,939,115	1
	有病率	61.9%	59.6%		57.0%		58.7%	
高血圧症	実人数(人)	2,772	72,704	2	334,176	2	3,472,146	2
	有病率	54.1%	53.2%		50.1%		51.7%	
筋・骨格	実人数(人)	2,750	69,900	3	329,840	3	3,448,596	3
	有病率	53.1%	51.2%		49.5%		51.6%	
精神	実人数(人)	1,817	47,137	4	234,523	4	2,437,051	4
	有病率	35.1%	34.7%		35.2%		36.4%	
脂質異常症	実人数(人)	1,438	38,246	5	194,333	5	2,036,238	5
	有病率	27.8%	27.7%		28.9%		30.1%	
糖尿病	実人数(人)	1,146	31,398	7	145,618	7	1,537,914	7
	有病率	23.1%	23.0%		21.9%		23.0%	
脳疾患	実人数(人)	1,144	33,701	6	154,339	6	1,587,755	6
	有病率	22.9%	25.2%		23.5%		24.0%	
悪性新生物	実人数(人)	530	14,414	8	68,927	8	739,425	8
	有病率	10.2%	10.5%		10.3%		11.0%	
合計	実人数(人)	14,764	388,818		1,841,464		19,198,240	
	有病数	2.8	2.8		2.9		2.9	

出典: 国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

認定者の疾病別有病率(平成31年度)



出典: 国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

本市の平成29年度から平成31年度における、認定者の疾病別有病率を年度別に示す。平成31年度の認定者が有している平均疾病数2.8疾病は平成29年度3.0疾病より減少している。

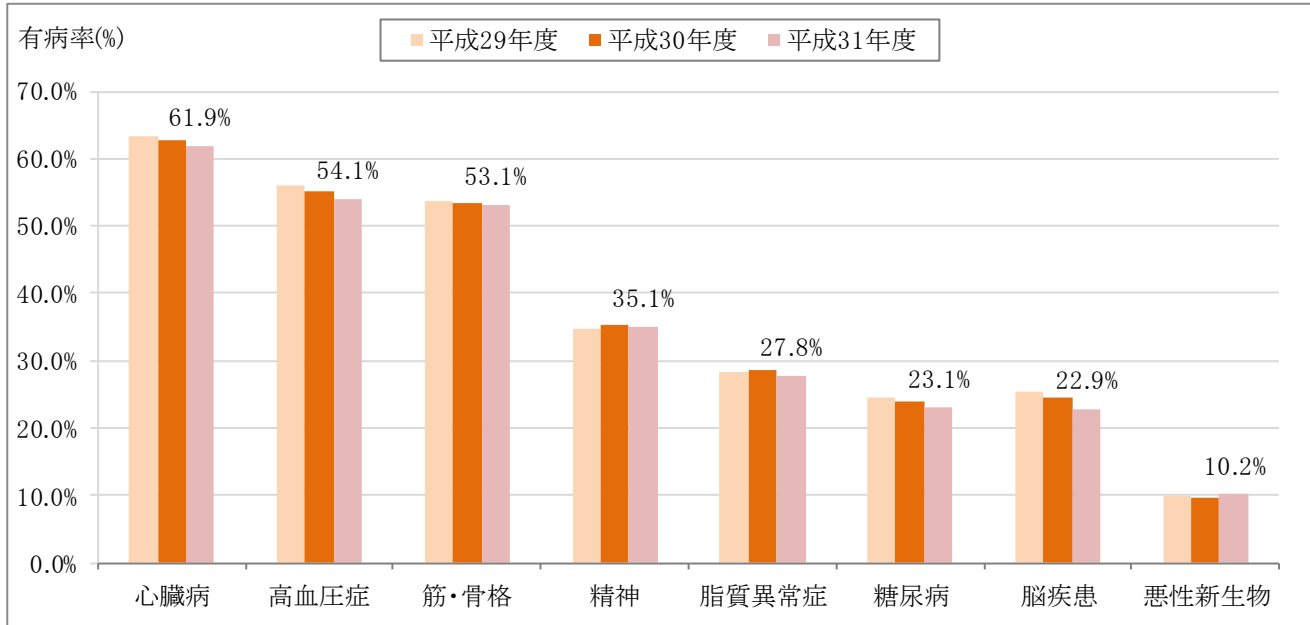
年度別 認定者の疾病別有病状況

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

区分	筑西市						県			同規模			国			
	平成29年度	順位	平成30年度	順位	平成31年度	順位	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
認定者数(人)	4,893		5,084		5,191		128,042	131,982	137,246	628,055	636,319	643,510	6,208,699	6,482,704	6,620,276	
心臓病	実人数(人)	3,123	1	3,155	1	3,167	1	77,063	79,281	81,318	351,404	357,131	379,708	3,612,547	3,770,674	3,939,115
	有病率(%)	63.3%		62.7%		61.9%		60.0%	59.8%	59.6%	55.4%	55.9%	57.0%	57.8%	57.8%	58.7%
高血圧症	実人数(人)	2,754	2	2,770	2	2,772	2	68,820	70,785	72,704	308,442	313,857	334,176	3,176,320	3,318,793	3,472,146
	有病率(%)	55.9%		55.2%		54.1%		53.5%	53.4%	53.2%	48.6%	49.0%	50.1%	50.8%	50.8%	51.7%
筋・骨格	実人数(人)	2,674	3	2,688	3	2,750	3	65,680	67,869	69,900	303,126	309,137	329,840	3,150,734	3,305,225	3,448,596
	有病率(%)	53.8%		53.4%		53.1%		51.0%	51.2%	51.2%	47.8%	48.4%	49.5%	50.4%	50.6%	51.6%
精神	実人数(人)	1,751	4	1,785	4	1,817	4	44,447	46,186	47,137	215,236	221,166	234,523	2,222,308	2,339,782	2,437,051
	有病率(%)	34.8%		35.3%		35.1%		34.4%	34.8%	34.7%	33.9%	34.5%	35.2%	35.5%	35.8%	36.4%
脂質異常症	実人数(人)	1,432	5	1,452	5	1,438	5	34,793	36,477	38,246	173,476	178,921	194,333	1,804,586	1,915,551	2,036,238
	有病率(%)	28.2%		28.7%		27.8%		26.8%	27.2%	27.7%	27.2%	27.8%	28.9%	28.7%	29.2%	30.1%
糖尿病	実人数(人)	1,202	7	1,202	7	1,146	6	29,368	30,556	31,398	133,568	137,319	145,618	1,396,109	1,470,196	1,537,914
	有病率(%)	24.5%		24.0%		23.1%		22.6%	23.0%	23.0%	21.0%	21.4%	21.9%	22.2%	22.4%	23.0%
脳疾患	実人数(人)	1,231	6	1,211	6	1,144	7	34,174	34,010	33,701	151,874	150,014	154,339	1,540,429	1,563,143	1,587,755
	有病率(%)	25.5%		24.4%		22.9%		26.8%	26.0%	25.2%	24.2%	23.7%	23.5%	24.9%	24.3%	24.0%
悪性新生物	実人数(人)	499	8	495	8	530	8	13,242	13,753	14,414	61,435	63,734	68,927	657,405	702,800	739,425
	有病率(%)	9.9%		9.8%		10.2%		10.2%	10.4%	10.5%	9.6%	9.9%	10.3%	10.4%	10.7%	11.0%
合計	実人数(人)	14,666		14,758		14,764		367,587	378,917	388,818	1,698,561	1,731,279	1,841,464	17,560,438	18,386,164	19,198,240
	有病数	3.0		2.9		2.8		2.9	2.9	2.8	2.7	2.7	2.9	2.8	2.8	2.9

出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

年度別 認定者の疾病別有病率



出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

(5) 主たる死因の状況

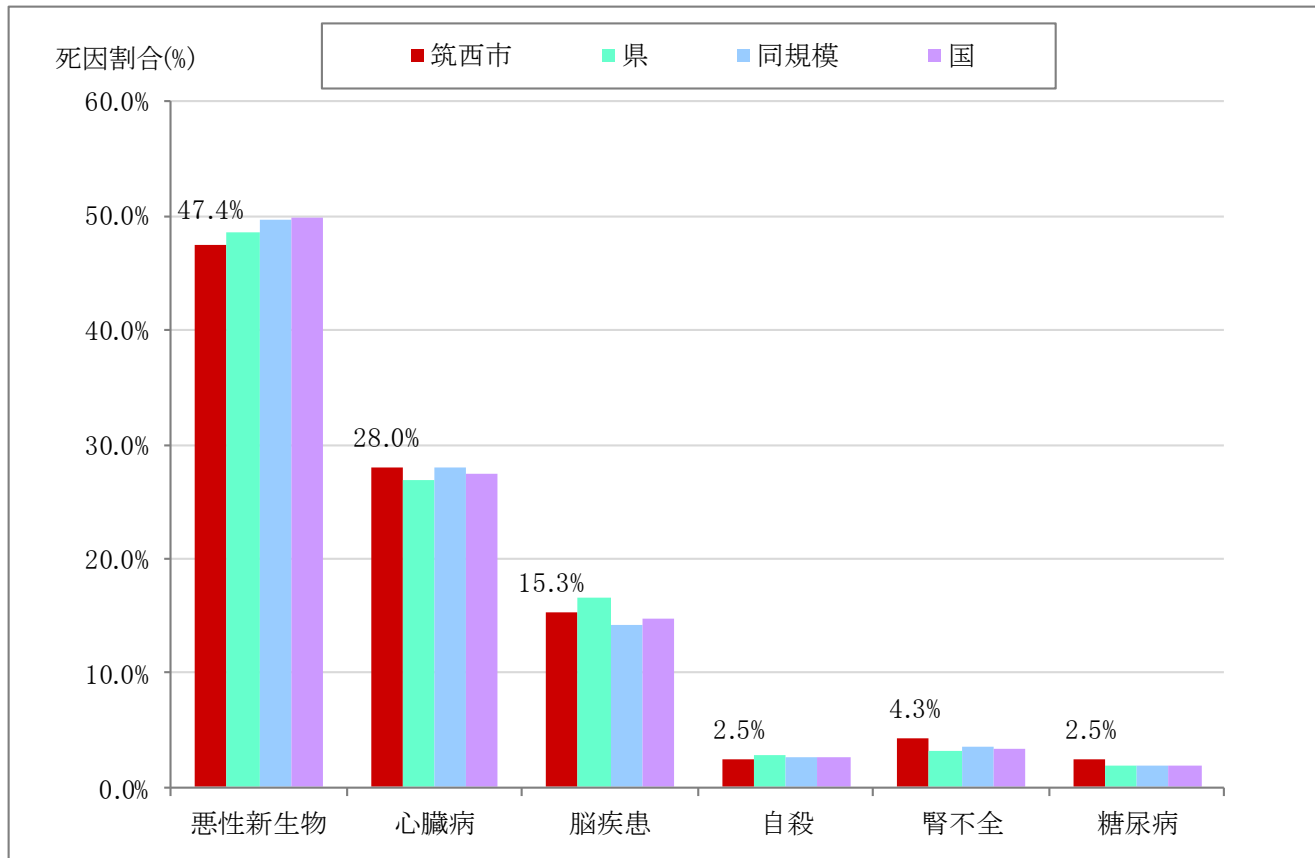
本市の平成31年度における、主たる死因の状況を以下に示す。

主たる死因の状況(平成31年度)

疾病項目	筑西市		県	同規模	国
	人数(人)	割合(%)			
悪性新生物	360	47.4%	48.6%	49.6%	49.9%
心臓病	213	28.0%	26.8%	27.9%	27.4%
脳疾患	116	15.3%	16.6%	14.3%	14.7%
自殺	19	2.5%	2.8%	2.6%	2.7%
腎不全	33	4.3%	3.2%	3.6%	3.4%
糖尿病	19	2.5%	2.0%	1.9%	1.9%
合計	760				

出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

主たる死因の割合(平成31年度)



出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

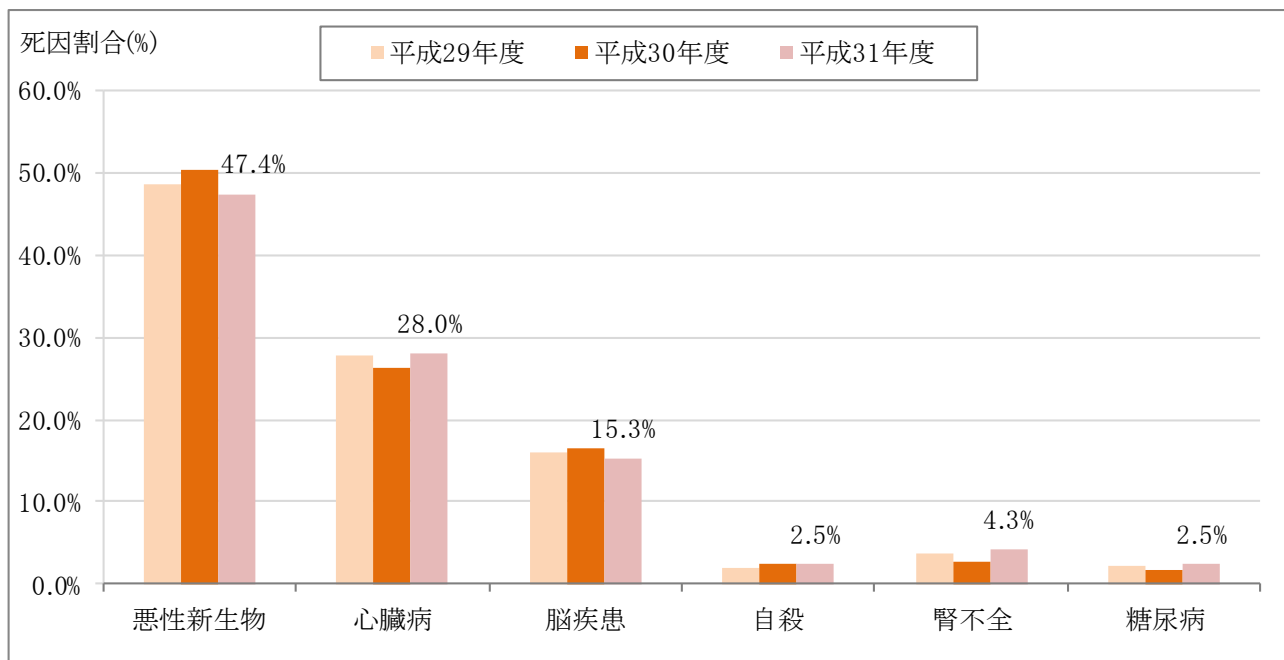
本市の平成29年度から平成31年度における、主たる死因の状況を年度別に示す。平成31年度を平成29年度と比較すると、悪性新生物を死因とする人数360人は平成29年度365人より5人減少しており、心臓病を死因とする人数213人は平成29年度209人より4人増加している。また、脳疾患を死因とする人数116人は平成29年度121人より5人減少している。

年度別 主たる死因の状況

疾病項目	筑西市						県			同規模			国		
	人数(人)			割合(%)			平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度									
悪性新生物	365	367	360	48.5%	50.4%	47.4%	48.9%	48.8%	48.6%	50.2%	50.5%	49.6%	50.1%	50.5%	49.9%
心臓病	209	191	213	27.8%	26.2%	28.0%	26.2%	26.7%	26.8%	26.5%	26.7%	27.9%	26.5%	26.8%	27.4%
脳疾患	121	121	116	16.1%	16.6%	15.3%	16.8%	16.8%	16.6%	14.8%	14.6%	14.3%	15.2%	14.8%	14.7%
自殺	14	18	19	1.9%	2.5%	2.5%	3.0%	2.7%	2.8%	3.1%	2.8%	2.6%	3.1%	2.8%	2.7%
腎不全	27	19	33	3.6%	2.6%	4.3%	3.1%	3.2%	3.2%	3.5%	3.5%	3.6%	3.3%	3.3%	3.4%
糖尿病	16	12	19	2.1%	1.6%	2.5%	2.1%	1.9%	2.0%	1.9%	1.8%	1.9%	1.8%	1.8%	1.9%
合計	752	728	760												

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 主たる死因の割合



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

(6) 死亡数及び標準化死亡比

2013年から2017年の本市の標準化死亡比を以下に示す。男女とも胃の悪性新生物、心疾患(高血圧性は除く)、急性心筋梗塞、脳血管疾患や肺炎の標準化死亡比が高くなっている。

男性の死亡数及び標準化死亡比(2013年～2017年)

	全死因	悪性新生物	胃の悪性新生物	結腸及び直腸の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物	気管、気管支及び肺の悪性新生物	(高血圧性は除く)心疾患	急性心筋梗塞	脳血管疾患	くも膜下出血	脳内出血	脳梗塞	肺炎	慢性閉塞性肺疾患
標準化死亡比※1	1.13	1.07	1.24	1.20	1.35	1.02	1.21	2.09	1.16	1.50	1.18	1.10	1.18	1.65
死亡数	3,350	1,052	172	143	115	240	495	198	279	31	93	148	327	96
期待死亡数※2	2,957.5	978.9	138.4	119.3	85.0	236.0	410.8	94.7	240.3	20.7	79.1	134.5	276.5	58.3
期待死亡数との差	392.5	73.1	33.6	23.7	30.0	4.0	84.2	103.3	38.7	10.3	13.9	13.5	50.5	37.7
全国に比べて有意に高い※3	○	○	○	○	○		○	○	○				○	○
全国に比べて有意に低い※4														

女性の死亡数及び標準化死亡比(2013年～2017年)

	全死因	悪性新生物	胃の悪性新生物	結腸及び直腸の悪性新生物	肝及び肝内胆管の悪性新生物	気管、気管支及び肺の悪性新生物	乳房の悪性新生物	子宮の悪性新生物	(高血圧性は除く)心疾患	急性心筋梗塞	脳血管疾患	くも膜下出血	脳内出血	脳梗塞	肺炎	慢性閉塞性肺疾患
標準化死亡比※1	1.13	1.08	1.27	1.08	0.76	0.95	0.88	1.05	1.13	1.96	1.27	1.41	1.20	1.31	1.24	1.63
死亡数	3,097	706	89	107	33	87	52	29	524	141	329	48	77	201	291	23
期待死亡数※2	2,732.0	655.8	70.1	99.0	43.3	91.7	58.9	27.6	462.5	72.0	258.5	34.0	64.4	153.4	234.5	14.1
期待死亡数との差	365.0	50.2	18.9	8.0	-10.3	-4.7	-6.9	1.4	61.5	69.0	70.5	14.0	12.6	47.6	56.5	8.9
全国に比べて有意に高い※3	○		○						○	○	○	○		○	○	
全国に比べて有意に低い※4																

出典:茨城県立健康プラザ「令和2年茨城県市町村別健康指標」

※1 標準化死亡比…標準とする集団(全国)に比べ、どのくらい高いかを示す比率。全国を1とし、その比が1より大きい場合は全国平均よりも死亡率が高く、1より小さい場合は全国平均よりも死亡率が低いことを意味する。

※2 期待死亡数…公衆衛生学上の専門用語で、全国と同じ死亡率なら何人死亡するはずか以下の計算式で求めたもの。

(期待死亡数) = (年齢階層別全国死亡率) × (年齢階層別市町村の人口)の総和

※3、4 有意に…統計学上、偶然ではない(何らかの原因が存在する)可能性が高いと推測されるという意味。

2. 過去の取り組みの考察(平成29年度～平成31年度の振り返り)

第二期データヘルス計画に基づき実施した各事業についての達成状況を以下に示す。全9事業のうち、改善が見られた事業は「特定健康診査受診勧奨事業」「人間ドック健診費助成事業」「受診行動適正化指導事業」「ジェネリック医薬品差額通知事業」である。一人当たりの医療費を削減していく為には、今後も継続した事業の推進が必要である。

データヘルス計画全体

指標	目標値		実績値		
	アウトプット	アウトカム	ベースライン (平成28年度)	平成29年度	平成30年度
健康寿命の延伸	平均自立期間 (要介護2以上)	延伸	男性：77.8歳 女性：82.9歳	男性：77.9歳 女性：83.0歳	男性：78.4歳 女性：83.0歳
医療費の適正化 (一人当たり医療費の減少)		適正化	一人当たり 医療費 23,823円 (県内15位)	一人当たり 医療費 24,384円 (県内12位)	一人当たり 医療費 24,257円 (県内18位)

個別保健事業計画

事業名	事業概要	目標値		実績値		
		アウトプット	アウトカム	ベースライン (平成28年度)	平成29年度	平成30年度
特定健康診査 受診 勧奨事業 【医療保険課】	特定健康診査を受けていない者を対象者とし特定健康診査の受診を促す。	対象者への通知率 100%	特定健康診査受診率 60%	・特定健康診査受診率 32.7% ・保健予防課で未受診者勧奨ハガキを送付	・特定健康診査受診率 32.4% ・未受診者受診勧奨通知発送 1,289件 保健予防課で未受診者勧奨ハガキを送付。	・特定健康診査受診率 34.7% ・未受診者受診勧奨通知発送 3,847件 保健予防課で未受診者勧奨ハガキを送付。
人間ドック 健診費 助成事業 【医療保険課】	40歳以上の被保険者の人間ドック健診利用者に健診費用の助成を行い、特定健康診査の受診率向上を図っていく。	事業のPR	助成希望者に対する助成率 100%	短期人間ドック 535名 脳ドック 61名 併診ドック 163名 合計 759名	短期人間ドック 614名 脳ドック 55名 併診ドック 132名 合計 801名	短期人間ドック 706名 脳ドック 55名 併診ドック 137名 合計 898名
特定保健指導 事業 【健康増進課】	特定健康診査の結果から特定保健指導対象者を特定し、生活習慣や検査値が改善されるように、専門職による支援を面接や電話、手紙等で行う。	対象者の指導実施率の向上	指導完了者の生活習慣改善率 50% 指導実施率 60%	・指導利用率 44.4% ・指導終了率 33.6%	・指導利用率 41.9% ・指導終了率 31.9%	・指導利用率 59.4% ・指導終了率 29.8%

a : 改善している
 b : 変わらない
 c : 悪化している
 d : 評価困難
 ※「a : 改善している」のうち、現状のままでは最終評価までに目標達成が危ぶまれるものは「a*」と記載する。

実績値	評価 (※)	達成につながる 取組・要素	未達につながる 背景・要因	今後の方向性	最終 目標値
平成31年度					
男性 : 78.3歳 女性 : 83.4歳	a	介護予防に繋がる取組の推進が必要	中間評価の時点では評価が困難	健診受診率、特定保健指導の向上を図りつつ、適宜関係者との連携を取りながら取組の検討を行う。	-
一人当たり 医療費 25,642円 (県内14位)	b	生活習慣病重症化予防事業の推進	中間評価の時点では評価が困難	一人当たり医療費と県と比較し、取組の検討を行う。	適正化

実績値	評価 (※)	達成につながる 取組・要素	未達につながる 背景・要因	今後の方向性	最終 目標値
平成31年度					
・ 特定健康診査 受診率 37.0% (速報値) ・ 未受診者受診勧奨通知発送 16,009件 (重複の可能性あり) ・ 健康増進課で未受診者勧奨 ハガキ 6,937件 (医療保険課送付分と重複の 可能性あり)	a*	受診勧奨対象者を特定し、適切な受診勧奨通知の送付	・ 40代～50代の受診者数が少ない ・ 定期通院している人の特定健診受診者が少ない。	・ 効果的な受診勧奨通知の検討。 ・ 医師会・医療機関との連携により治療中の人への健診受診勧奨を実施する。	特定健康診査 受診率 60%
短期人間ドック 763名 脳ドック 57名 併診ドック 111名 合計 931名	a*	・ 事業のPR。 ・ 平成31年度までは、キャンセル待ちの制度があったが、令和2年度からは、希望者全員に健診費用の助成を実施。	人間ドック受診者における保健指導は未実施。	希望者に健診費用の助成を行う。また、健康増進課と協議し、人間ドック受診者の特定保健指導を実施し、生活習慣病の予防を図る。	助成希望者に対する助成率 100%
・ 指導利用率47.8% ・ 指導終了率26.9%	c	・ リーフレットの活用、指導手順をマニュアル化することで保健指導の質と効率向上に努めている。 ・ 専門職による継続的な支援を実施。 ・ 対象者の状況に合わせ、運動や血液検査を含めたプログラムで構成。	・ 支援担当する専門職スタッフの確保が困難。 ・ 70歳以上の高齢層においては、生活習慣改善行動が期待できないケースも多く、効果が確認できない。	・ 指導後の改善率評価は困難なためアウトカムの目標値を見直す。 ・ 年齢別等、対象者に合わせた指導方法を検討する。 ・ 指導終了率を上げる。	指導終了率の 向上

事業名	事業概要	目標値		実績値		
		アウトプット	アウトカム	ベースライン (平成28年度)	平成29年度	平成30年度
糖尿病性腎症 重症化予防事業 【健康増進課】 【医療保険課】	特定健康診査の検査値から対象者を特定し、通知及び家庭訪問による受診勧奨や生活改善を目指した教室を開催する。	対象者の指導 実施率 50%以上	指導完了者の生活習慣改善率 50% 指導完了者の検査値改善率 50%	【未治療者】 ・指導実施率 100% ・医療機関受診率75.6%	【未治療者】 ・指導実施率 100% ・医療機関受診率90.6%	【未治療者】 ・指導実施率 100% ・医療機関受診率88.6%
高血圧症 重症化予防事業 【健康増進課】	特定健康診査の検査値から対象者を特定し、通知及び家庭訪問による受診勧奨や個別保健指導を行う。	対象者の指導 実施率 50%以上	指導完了者の生活習慣改善率 50% 指導完了者の検査値改善率 50%	・指導実施率 100% ・医療機関受診率43.0%	・指導実施率 100% ・医療機関受診率63.4%	・指導実施率 100% ・医療機関受診率66.4%
受診行動適正化 指導事業 (重複・頻回受診、 重複服薬) 【健康増進課】 【医療保険課】	レセプトデータから、医療機関への不適切な受診が確認できる対象者、また重複して服薬している対象者を特定し、適正な医療機関へのかかり方について、専門職による指導を行う。	対象者の指導 実施率 50%以上	指導完了者の受診行動適正化 50% 指導完了者の医療費50%減少 重複・頻回受診者、重複服薬者 20%減少	未実施	・指導実施率 100%	・指導実施率 100%

a : 改善している

b : 変わらない

c : 悪化している

d : 評価困難

※「a : 改善している」のうち、現状のままでは最終評価までに目標達成が危ぶまれるものは「a*」と記載する。

実績値	評価 (※)	達成につながる 取組・要素	未達につながる 背景・要因	今後の方向性	最終 目標値
平成31年度					
【未治療者】 ・指導実施率 100% ・医療機関受診 率78.2% 【医療機関受診 者】 ・初回実施者 9名 ・指導終了率 88.9%	b	・リーフレットを活用し、 指導の質の向上に努めて る。 ・一方的な受診勧奨では なく、対象者の意見を尊 重した保健指導を行って いる。 ・医療機関受診後の連絡 票の返信やレセプト情報 から受診の確認を行って いる。	・指導実施件数が多く、 指導後の改善状況の確認 まで対応できない。 ・何度訪問しても対象者 不在のため、本人に直接 会って指導できないこと がある。	・現行の運用では、検査値等 の改善率評価は困難なためア ウトカムの目標値を見直す。 ・指導率100%を維持する。 ・効果的な指導用リーフレッ トを作成する。	医療機関受診 率の向上
・指導実施率 100% ・医療機関受診 率54.1%	b	・リーフレットを活用し、 指導の質の向上に努めて る。 ・一方的な受診勧奨では なく、対象者の意見を尊 重した保健指導を行って いる。 ・医療機関受診後の連絡 票の返信やレセプト情報 から受診の確認を行って いる。	・指導実施件数が多く、 指導後の改善状況の確認 まで対応できない。 ・何度訪問しても対象者 不在のため、本人に直接 会って指導できないこと がある。	・現行の運用では、検査値等 の改善率評価は困難なためア ウトカムの目標値を見直す。 ・指導率100%を維持する。 ・効果的な指導用リーフレッ トを作成する。	医療機関受診 率の向上
対象者の選定に 協力し、指導は 委託業者が行っ た。 ・初回実施者 14名 ・指導終了率 78.6%	a	・一方的な受診行動適正 化の指導ではなく、対象 者の状況把握や状況に 沿った指導を行っている。 ・平成31年度からは、委 託業者による実施となっ た。	指導後の事後指導が実施 できていない。	医療保険課と連携を強化しよ り良い実施をしていく。	指導実施 100%の維持 を図る

事業名	事業概要	目標値		実績値		
		アウトプット	アウトカム	ベースライン (平成28年度)	平成29年度	平成30年度
ジェネリック 医薬品差額 通知事業 【医療保険課】	レセプトデータから、ジェネリック医薬品の使用率が低く、ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の対象者を特定する。通知書を対象者に送付することで、ジェネリック医薬品への切り替えを促す。	対象者への通知率 100%	ジェネリック 医薬品 普及率(数量 ベース) 80%	年2回実施 ・9月 727人 ・3月 664人 40歳以上で生活習慣病に関する薬を服用する者のうち、1か月400円以上軽減すると見込まれる者。 ジェネリック 医薬品普及率 (数量ベース) 60.8%	年2回実施 ・9月 551人 ・3月 370人 40歳以上で生活習慣病に関する薬を服用する者のうち、1か月700円以上軽減すると見込まれる者。 ジェネリック 医薬品普及率 (数量ベース) 64.1%	年2回実施 ・9月 379人 ・3月 336人 40歳以上で生活習慣病に関する薬を服用する者のうち、1か月700円以上軽減すると見込まれる者。 ジェネリック 医薬品普及率 (数量ベース) 69.9%
服薬情報通知 事業 【医療保険課】	レセプトデータから、長期多剤服薬者を特定し通知書を送付する。また、通知後のレセプトデータから効果を確認する。	対象者への通知率 100%	長期多剤服薬 者割合 10ポイント減少	未実施	未実施	未実施
ロコモティブシ ンドローム予防 事業 【医療保険課】	要介護状態の予防を目指し、チラシの配付や健康教室等を通し、ロコモティブシンドロームを広く市民に啓発する。	ロコモを知っている人の割合	特定健診受診者における知っている人の割合を増加させる。	未実施	未実施	未実施

a : 改善している

b : 変わらない

c : 悪化している

d : 評価困難

※ 「a : 改善している」のうち、現状のままでは最終評価までに目標達成が危ぶまれるものは「a*」と記載する。

実績値	評価 (※)	達成につながる 取組・要素	未達につながる 背景・要因	今後の方向性	最終 目標値
平成31年度					
年2回実施 ・9月 272人 ・3月 265人 40歳以上で生活習慣病に関する薬を服用する者のうち、1カ月700円以上軽減すると見込まれる者。 ジェネリック医薬品普及率（数量ベース） 72.7%	a*	・通知発送対象者は年々減少傾向にあり、切り替えが進んでいる。 ・通知の他に、保険証一斉更新の際、保険証にジェネリック希望シールを同封し、切り替えを進めている。	・一定程度、先発医薬品を希望する人がおり、切り替えが進んでいない。 ・先発医薬品とジェネリック医薬品の効果に差が無いという情報が浸透していない。	・引き続き切り替え勧奨を行う。 ・医療機関との連携によりジェネリック医薬品の普及を図る。	ジェネリック医薬品普及率（数量ベース） 80%
未実施	d	—	—	—	長期多剤服薬者割合 10ポイント減少
未実施	d	—	—	—	知っている人の割合を増加させる

3. 医療情報分析結果

(1) 基礎統計

当医療費統計は、筑西市国民健康保険における、平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)の入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプトを対象とし分析する。被保険者数、レセプト件数、医療費、患者数等は以下の通りである。被保険者数は平均26,159人、レセプト件数は平均31,922件、患者数は平均13,747人となった。また、患者一人当たりの医療費は平均49,393円となった。

基礎統計

		平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	
A	被保険者数(人)	26,770	26,453	26,365	26,258	26,196	26,048	26,167	
B	レセプト件数(件)	入院外	19,839	18,864	19,146	19,540	18,897	18,449	19,402
		入院	446	468	459	457	459	429	446
		調剤	13,222	12,352	12,438	12,700	12,528	12,018	12,857
		合計	33,507	31,684	32,043	32,697	31,884	30,896	32,705
C	医療費(円) ※	679,196,770	660,328,290	665,478,280	685,407,890	669,950,990	655,203,620	705,781,710	
D	患者数(人) ※	14,338	13,716	13,912	13,992	13,682	13,398	13,898	
C/A	被保険者一人当たりの医療費(円)	25,372	24,962	25,241	26,103	25,575	25,154	26,972	
C/B	レセプト一件当たりの医療費(円)	20,270	20,841	20,768	20,962	21,012	21,207	21,580	
C/D	患者一人当たりの医療費(円)	47,370	48,143	47,835	48,986	48,966	48,903	50,783	
B/A	受診率(%)	125.2%	119.8%	121.5%	124.5%	121.7%	118.6%	125.0%	
D/A	有病率(%)	53.6%	51.9%	52.8%	53.3%	52.2%	51.4%	53.1%	

		令和1年11月	令和1年12月	令和2年1月	令和2年2月	令和2年3月	12カ月平均	12カ月合計	
A	被保険者数(人)	26,041	25,991	25,961	25,834	25,822	26,159		
B	レセプト件数(件)	入院外	18,920	19,725	18,563	18,242	17,970	18,963	227,557
		入院	468	506	496	486	468	466	5,588
		調剤	12,402	13,052	12,350	12,056	11,944	12,493	149,919
		合計	31,790	33,283	31,409	30,784	30,382	31,922	383,064
C	医療費(円) ※	666,865,890	713,695,120	701,094,550	664,026,720	680,969,970	678,999,983	8,147,999,800	
D	患者数(人) ※	13,721	14,088	13,539	13,450	13,227	13,747	164,961	
C/A	被保険者一人当たりの医療費(円)	25,608	27,459	27,006	25,704	26,372	25,957		
C/B	レセプト一件当たりの医療費(円)	20,977	21,443	22,321	21,571	22,414	21,271		
C/D	患者一人当たりの医療費(円)	48,602	50,660	51,783	49,370	51,483	49,393		
B/A	受診率(%)	122.1%	128.1%	121.0%	119.2%	117.7%	122.0%		
D/A	有病率(%)	52.7%	54.2%	52.2%	52.1%	51.2%	52.6%		

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている、保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示。

※患者数…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトの人数を集計。同診療年月で一人の方に複数のレセプトが発行された場合は、一人として集計。

平成29年度から平成31年度における、入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプトを対象とし年度別に分析する。平成31年度を平成29年度と比較すると、一カ月平均の被保険者数26,159人は、平成29年度28,655人より2,496人減少しており、医療費81億4,800万円は平成29年度87億3,640万円より5億8,840万円減少している。また、一カ月平均の患者数13,747人は、平成29年度15,136人より1,389人減少している。

年度別 基礎統計

		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
A	一カ月平均の被保険者数(人)	28,655	27,346	26,159	
B	レセプト件数(件)	入院外	248,676	238,745	227,557
		入院	5,856	5,410	5,588
		調剤	163,648	157,097	149,919
		合計	418,180	401,252	383,064
C	医療費(円) ※	8,736,403,420	8,225,197,740	8,147,999,800	
D	一カ月平均の患者数(人) ※	15,136	14,431	13,747	
C/A	被保険者一人当たりの医療費(円)	304,885	300,787	311,482	
C/B	レセプト一件当たりの医療費(円)	20,891	20,499	21,271	
D/A	有病率(%)	52.8%	52.8%	52.6%	

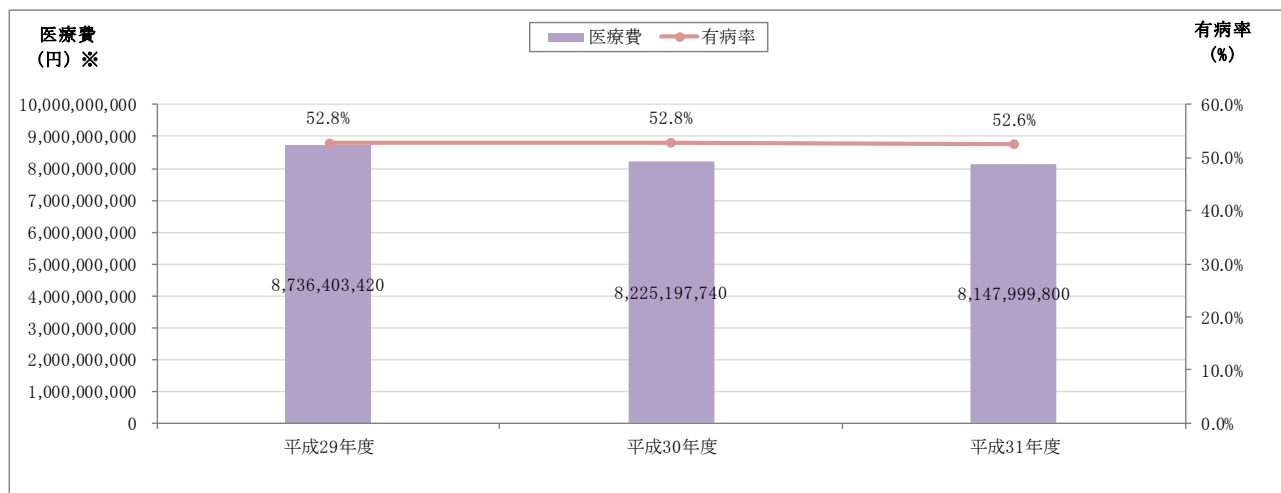
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている、保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示。

※一カ月平均の患者数…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトの人数を集計。同診療年月で一人の方に複数のレセプトが発行された場合は一人とし、年度毎に集計。そのため他統計とは一致しない。

年度別 医療費及び有病率



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている、保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示。

(2) 高額レセプトの件数及び医療費

① 高額レセプトの件数及び割合

平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトのうち、診療点数が5万点以上のものを高額レセプトとし、以下の通り集計した。高額レセプトは2,472件発生しており、レセプト件数全体の0.6%を占める。高額レセプトの医療費は24億3,099万円となり、医療費全体の29.8%を占める。

高額(5万点以上)レセプト件数及び割合

		平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月
A	レセプト件数(件)	33,507	31,684	32,043	32,697	31,884	30,896	32,705
B	高額レセプト件数(件)	205	213	188	202	201	184	208
B/A	総レセプト件数に占める高額レセプトの割合(%)	0.6%	0.7%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%
C	医療費全体(円) ※	679,196,770	660,328,290	665,478,280	685,407,890	669,950,990	655,203,620	705,781,710
D	高額レセプトの医療費(円) ※	186,457,670	189,933,480	186,651,540	188,300,160	196,355,310	191,224,880	214,990,340
E	その他レセプトの医療費(円) ※	492,739,100	470,394,810	478,826,740	497,107,730	473,595,680	463,978,740	490,791,370
D/C	総医療費に占める高額レセプトの割合(%)	27.5%	28.8%	28.0%	27.5%	29.3%	29.2%	30.5%

		令和1年11月	令和1年12月	令和2年1月	令和2年2月	令和2年3月	12カ月平均	12カ月合計
A	レセプト件数(件)	31,790	33,283	31,409	30,784	30,382	31,922	383,064
B	高額レセプト件数(件)	214	205	229	215	208	206	2,472
B/A	総レセプト件数に占める高額レセプトの割合(%)	0.7%	0.6%	0.7%	0.7%	0.7%	0.6%	
C	医療費全体(円) ※	666,865,890	713,695,120	701,094,550	664,026,720	680,969,970	678,999,983	8,147,999,800
D	高額レセプトの医療費(円) ※	202,195,060	216,155,620	233,938,930	213,083,630	211,707,370	202,582,833	2,430,993,990
E	その他レセプトの医療費(円) ※	464,670,830	497,539,500	467,155,620	450,943,090	469,262,600	476,417,151	5,717,005,810
D/C	総医療費に占める高額レセプトの割合(%)	30.3%	30.3%	33.4%	32.1%	31.1%	29.8%	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費全体…データ化範囲(分析対象)全体での医療費を算出。

※高額レセプトの医療費…高額(5万点以上)レセプトの医療費。

※その他レセプトの医療費…高額(5万点以上)レセプト以外の医療費。

平成29年度から平成31年度に発生している高額レセプトの集計結果を年度別に示す。平成31年度高額レセプト件数2,472件は平成29年度2,484件より12件減少しており、平成31年度高額レセプトの医療費24億3,099万円は平成29年度24億4,135万円より1,036万円減少している。

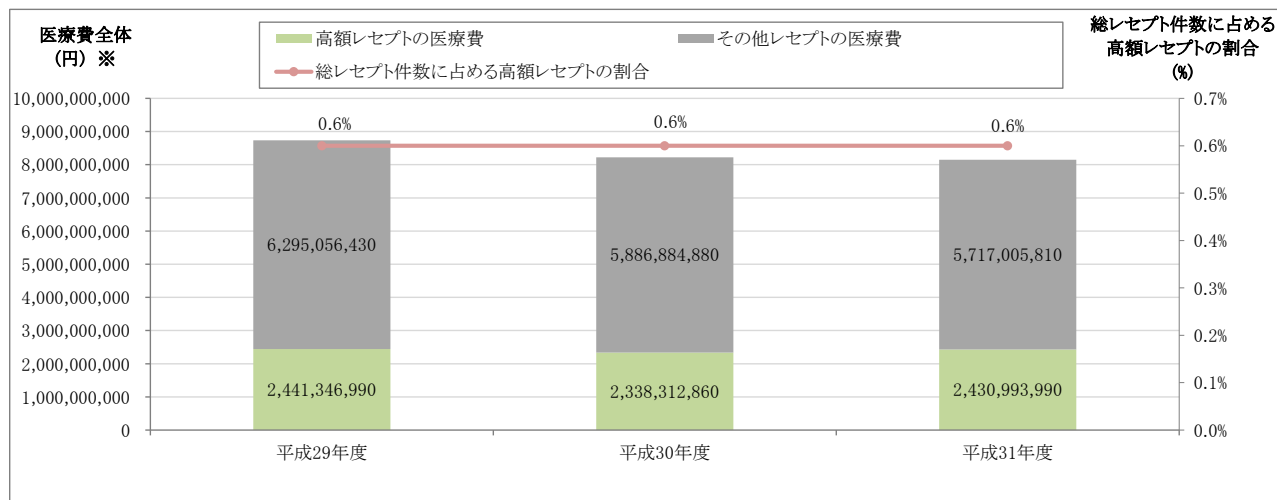
年度別 高額(5万点以上)レセプト件数及び割合

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
A	レセプト件数(件)	418,180	401,252	383,064
B	高額レセプト件数(件)	2,484	2,405	2,472
B/A	総レセプト件数に占める高額レセプトの割合(%)	0.6%	0.6%	0.6%
C	医療費全体(円) ※	8,736,403,420	8,225,197,740	8,147,999,800
D	高額レセプトの医療費(円) ※	2,441,346,990	2,338,312,860	2,430,993,990
E	その他レセプトの医療費(円) ※	6,295,056,430	5,886,884,880	5,717,005,810
D/C	総医療費に占める高額レセプトの割合(%)	27.9%	28.4%	29.8%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。
※医療費全体…データ化範囲(分析対象)全体での医療費を算出。
※高額レセプトの医療費…高額(5万点以上)レセプトの医療費。
※その他レセプトの医療費…高額(5万点以上)レセプト以外の医療費。

年度別 高額(5万点以上)レセプトの医療費及び件数割合



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。
※医療費全体…データ化範囲(分析対象)全体での医療費を算出。

②高額レセプト発生患者の疾病傾向

平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトのうち、高額レセプト発生患者の疾病傾向を示す。高額レセプト発生患者の分析対象期間の全レセプトを医療費分解後、最も医療費がかかっている疾病を主要傷病名と定義し、対象者の全医療費を集計した。患者一人当たりの医療費が高額な疾病は、「白血病」「てんかん」「血管性及び詳細不明の認知症」等となった。

高額(5万点以上)レセプト発生患者の疾病傾向(患者一人当たりの医療費順)

順位	疾病分類(中分類)		主要傷病名 ※ (上位3疾病まで記載)	患者数 (人) ※	医療費(円) ※			患者一人当たりの 医療費(円) ※
					入院	入院外	合計	
1	0209	白血病	慢性骨髄性白血病, 急性骨髄性白血病, Ph陽性急性リンパ性白血病	12	46,435,920	32,884,640	79,320,560	6,610,047
2	0603	てんかん	症候性てんかん, てんかん, 難治性てんかん	8	44,481,260	1,092,790	45,574,050	5,696,756
3	0501	血管性及び詳細不明の認知症	老年期認知症	1	5,283,510	0	5,283,510	5,283,510
4	1202	皮膚炎及び湿疹	アトピー性皮膚炎, 成人アトピー性皮膚炎	2	7,847,210	2,089,090	9,936,300	4,968,150
5	1402	腎不全	慢性腎不全, 急性腎不全, 慢性腎臓病	25	75,654,360	47,636,460	123,290,820	4,931,633
6	0205	気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	上葉肺癌, 下葉肺癌, 上葉肺腺癌	49	120,037,540	111,842,310	231,879,850	4,732,242
7	0102	結核	結核性腹膜炎, 活動性肺結核	2	9,114,970	322,290	9,437,260	4,718,630
8	1109	肝硬変(アルコール性のものを除く)	非代償性肝硬変, 肝硬変症	3	2,425,260	11,545,800	13,971,060	4,657,020
9	0904	くも膜下出血	前交通動脈瘤破裂によるくも膜下出血, くも膜下出血	4	17,476,050	756,430	18,232,480	4,558,120
10	0912	その他の循環器系の疾患	胸部大動脈瘤, 肺血栓塞栓症, 急性大動脈解離StanfordB	12	41,221,350	9,502,570	50,723,920	4,226,993
11	1307	その他の脊柱障害	腰椎すべり症, 脊柱後側弯症, 腰椎変性すべり症	4	14,461,000	2,360,230	16,821,230	4,205,308
12	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	直腸癌, 直腸癌術後再発	18	32,216,860	42,689,750	74,906,610	4,161,478
13	1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	嚥下障害, 意識障害	2	8,203,930	32,560	8,236,490	4,118,245
14	0208	悪性リンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫, 悪性リンパ腫, 脳悪性リンパ腫	13	44,244,260	9,137,880	53,382,140	4,106,318
15	1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	低出生体重児, 極低出生体重児	3	10,921,770	1,378,120	12,299,890	4,099,963
16	0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	播種性血管内凝固, 特発性血小板減少性紫斑病, 血友病B	6	14,634,700	9,752,850	24,387,550	4,064,592
17	0105	ウイルス性肝炎	C型慢性肝炎, C型肝炎, C型非代償性肝硬変	19	15,287,400	58,968,730	74,256,130	3,908,217
18	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	統合失調症, 妄想性障害	34	114,784,370	13,584,660	128,369,030	3,775,560
19	2106	その他の理由による保健サービスの利用者	腎移植後, 人工肛門形成状態, 下腿切断術後	6	17,819,040	4,734,470	22,553,510	3,758,918
20	1301	炎症性多発性関節障害	関節リウマチ, 膝関節炎	8	13,459,350	16,590,570	30,049,920	3,756,240

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

※主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費が高額となった疾病。

※患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類ごとに集計した。

※医療費…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトの医療費(高額レセプトに限らない)。

※患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費。

平成29年度から平成31年度における、患者一人当たりの医療費上位5疾病を年度別に示す。

年度別 高額(5万点以上)レセプト発生患者の疾病傾向(患者一人当たりの医療費順)

年度	順位	疾病分類(中分類)	主要傷病名 ※ (上位3疾病まで記載)	患者数(人) ※	患者一人当たりの 医療費(円) ※
平成29年度	1	0301 貧血	発作性夜間ヘモグロビン尿症, 重症再生不良性貧血, 汎血球減少症	4	13,643,140
	2	0209 白血病	急性骨髄性白血病, 慢性骨髄性白血病, 急性リンパ性白血病	10	7,566,052
	3	0604 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	脳性麻痺, アテトーシス型脳性麻痺	3	7,111,580
	4	0904 くも膜下出血	前交通動脈瘤破裂によるくも膜下出血, 前大脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血, くも膜下出血後遺症	7	6,394,013
	5	1402 腎不全	慢性腎不全, 腎性貧血, 慢性腎臓病ステージG5	32	6,175,913
平成30年度	1	0301 貧血	再生不良性貧血	1	10,566,800
	2	1903 熱傷及び腐食	全身熱傷	1	9,322,600
	3	1202 皮膚炎及び湿疹	アトピー性皮膚炎, 小児乾燥型湿疹	2	6,943,605
	4	0604 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	脳性麻痺	2	6,314,500
	5	1402 腎不全	慢性腎不全, 末期腎不全	22	5,576,093
平成31年度	1	0209 白血病	慢性骨髄性白血病, 急性骨髄性白血病, Ph陽性急性リンパ性白血病	12	6,610,047
	2	0603 てんかん	症候性てんかん, てんかん, 難治性てんかん	8	5,696,756
	3	0501 血管性及び詳細不明の認知症	老年期認知症	1	5,283,510
	4	1202 皮膚炎及び湿疹	アトピー性皮膚炎, 成人アトピー性皮膚炎	2	4,968,150
	5	1402 腎不全	慢性腎不全, 急性腎不全, 慢性腎臓病	25	4,931,633

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

※主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費が高額となった疾病。

※患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類ごとに集計した。

※患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費。

平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)の疾病傾向を患者数順に示す。患者数が多い疾病は「その他の悪性新生物<腫瘍>」「骨折」「気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>」等である。

高額(5万点以上)レセプト発生患者の疾病傾向(患者数順)

順位	疾病分類(中分類)		主要傷病名 ※ (上位3疾病まで記載)	患者数 (人) ※	医療費(円) ※			患者一人当たりの 医療費(円) ※
					入院	入院外	合計	
1	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌, 腎癌, 卵巣癌	109	196,490,760	176,173,990	372,664,750	3,418,943
2	1901	骨折	大腿骨頸部骨折, 橈骨遠位端骨折, 踵骨骨折	69	131,287,040	18,945,840	150,232,880	2,177,288
3	0205	気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	上葉肺癌, 下葉肺癌, 上葉肺腺癌	49	120,037,540	111,842,310	231,879,850	4,732,242
4	1302	関節症	変形性膝関節症, 変形性股関節症, 続発性股関節症	46	113,154,200	17,018,640	130,172,840	2,829,844
5	0903	その他の心疾患	うっ血性心不全, 持続性心房細動, 非弁膜症性心房細動	45	104,428,330	23,002,180	127,430,510	2,831,789
5	0906	脳梗塞	脳梗塞・急性期, アテローム血栓性脳梗塞, アテローム血栓性脳梗塞・急性期	45	112,039,970	10,853,300	122,893,270	2,730,962
7	1113	その他の消化器系の疾患	単径ヘルニア, 急性虫垂炎, 術後イレウス	40	54,749,990	14,084,960	68,834,950	1,720,874
8	0902	虚血性心疾患	急性前壁心筋梗塞, 狭心症, 急性下壁心筋梗塞	39	71,733,420	14,592,980	86,326,400	2,213,497
9	0201	胃の悪性新生物<腫瘍>	胃体部癌, 胃癌, 胃前庭部癌	36	73,320,060	34,890,730	108,210,790	3,005,855
10	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	統合失調症, 妄想性障害	34	114,784,370	13,584,660	128,369,030	3,775,560
11	0206	乳房の悪性新生物<腫瘍>	乳房上外側部乳癌, 乳癌, 乳房上内側部乳癌	33	25,614,160	49,591,410	75,205,570	2,278,957
11	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	肩腱板断裂, 人工股関節のゆるみ, 前十字靭帯損傷	33	57,373,010	11,469,300	68,842,310	2,086,131
13	0211	良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	子宮筋腫, 脳腫瘍, 卵巣のう腫	30	33,582,380	24,331,160	57,913,540	1,930,451
14	1011	その他の呼吸器系の疾患	続発性気胸, 間質性肺炎, 特発性肺線維症	29	78,310,120	16,726,510	95,036,630	3,277,125
15	0202	結腸の悪性新生物<腫瘍>	S状結腸癌, 盲腸癌, 横行結腸癌	28	44,232,640	56,451,420	100,684,060	3,595,859
15	1303	脊椎障害(脊椎を含む)	腰部脊柱管狭窄症, 頸椎症性脊髓症, 胸椎黄色靭帯骨化症	28	72,792,830	15,603,810	88,396,640	3,157,023
17	0704	その他の眼及び付属器の疾患	網膜前膜, 裂孔原性網膜剝離, 血管新生緑内障	27	20,876,390	13,649,310	34,525,700	1,278,730
18	1111	胆石症及び胆のう炎	胆のう結石症, 胆石性胆のう炎, 総胆管結石性胆管炎	25	23,196,720	7,559,110	30,755,830	1,230,233
18	1402	腎不全	慢性腎不全, 急性腎不全, 慢性腎臓病	25	75,654,360	47,636,460	123,290,820	4,931,633
20	1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	廃用症候群, 肩関節拘縮, 皮膚筋炎	24	50,116,800	9,394,310	59,511,110	2,479,630

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

※主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費が高額となった疾病。

※患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類ごとに集計した。

※医療費…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトの医療費(高額レセプトに限らない)。

※患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費。

平成29年度から平成31年度における、患者数上位5疾病を年度別に示す。

年度別 高額(5万点以上)レセプト発生患者の疾病傾向(患者数順)

年度	順位	疾病分類(中分類)	主要傷病名 ※ (上位3疾病まで記載)	患者数(人) ※	患者一人当たりの 医療費(円) ※
平成29年度	1	0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌, 卵巣癌, 膵頭部癌	111	3,362,225
	2	1901 骨折	大腿骨頸部骨折, 膝蓋骨骨折, 大腿骨転子部骨折	59	1,907,106
	3	0902 虚血性心疾患	狭心症, 不安定狭心症, 急性下壁心筋梗塞	56	2,699,676
	4	0906 脳梗塞	脳梗塞, 脳梗塞・急性期, 脳梗塞後遺症	52	2,424,471
	5	0903 その他の心疾患	うっ血性心不全, 発作性心房細動, 発作性上室頻拍	50	2,998,675
平成30年度	1	0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌, 卵巣癌, 腎癌	120	3,683,633
	2	1901 骨折	大腿骨頸部骨折, 足関節外果骨折, 橈骨遠位端骨折	66	1,977,984
	3	0903 その他の心疾患	うっ血性心不全, 心房細動, 非弁膜症性発作性心房細動	56	2,870,804
	4	0906 脳梗塞	脳梗塞・急性期, 脳梗塞, ラクナ梗塞	46	2,913,700
	5	0205 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	上葉肺癌, 下葉肺癌, 上葉肺腺癌	45	4,525,155
平成31年度	1	0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌, 腎癌, 卵巣癌	109	3,418,943
	2	1901 骨折	大腿骨頸部骨折, 橈骨遠位端骨折, 踵骨骨折	69	2,177,288
	3	0205 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	上葉肺癌, 下葉肺癌, 上葉肺腺癌	49	4,732,242
	4	1302 関節症	変形性膝関節症, 変形性股関節症, 続発性股関節症	46	2,829,844
	5	0903 その他の心疾患	うっ血性心不全, 持続性心房細動, 非弁膜症性心房細動	45	2,831,789
	5	0906 脳梗塞	脳梗塞・急性期, アテローム血栓性脳梗塞, アテローム血栓性脳梗塞・急性期	45	2,730,962

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

※主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費が高額となった疾病。

※患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類ごとに集計した。

※患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費。

(3) 疾病別医療費

①大分類による疾病別医療費統計

平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトより、疾病項目毎に医療費、レセプト件数、患者数を算出した。「新生物<腫瘍>」が医療費合計の16.0%、「循環器系の疾患」は医療費合計の13.8%と高い割合を占めている。

大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を

網掛け

表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	順位	患者数(人) ※	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	245,162,841	3.0%	12	29,130	13	7,159	10	34,245	15
II. 新生物<腫瘍>	1,304,524,591	16.0%	1	29,483	12	7,191	9	181,411	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	76,637,726	0.9%	15	9,431	16	2,290	16	33,466	16
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	897,415,936	11.0%	3	146,269	2	12,542	2	71,553	9
V. 精神及び行動の障害	517,199,130	6.4%	7	38,207	8	3,158	14	163,774	3
VI. 神経系の疾患	540,220,433	6.6%	6	64,117	6	5,849	11	92,361	6
VII. 眼及び付属器の疾患	356,101,595	4.4%	10	35,531	10	8,481	6	41,988	13
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	38,642,778	0.5%	16	9,195	17	2,651	15	14,577	21
IX. 循環器系の疾患	1,124,086,519	13.8%	2	149,373	1	11,620	4	96,737	5
X. 呼吸器系の疾患	443,875,257	5.5%	9	69,653	5	12,683	1	34,998	14
X I. 消化器系の疾患 ※	611,099,792	7.5%	5	117,462	3	12,050	3	50,714	12
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	172,679,629	2.1%	13	36,392	9	8,082	7	21,366	17
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	787,857,443	9.7%	4	94,187	4	10,154	5	77,591	8
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	484,395,142	6.0%	8	32,035	11	5,472	12	88,523	7
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	18,156,406	0.2%	20	494	19	180	19	100,869	4
X VI. 周産期に発生した病態 ※	19,345,148	0.2%	19	135	21	75	20	257,935	1
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	26,476,741	0.3%	18	1,468	18	463	18	57,185	11
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	152,125,073	1.9%	14	39,152	7	7,443	8	20,439	18
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	280,496,178	3.4%	11	15,691	14	4,598	13	61,004	10
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	36,849,935	0.5%	17	11,608	15	1,889	17	19,508	19
X X II. 特殊目的用コード	9,618	0.0%	22	19	22	13	22	740	22
分類外	1,069,199	0.0%	21	236	20	68	21	15,724	20
合計	8,134,427,110			381,382		23,700		343,225	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

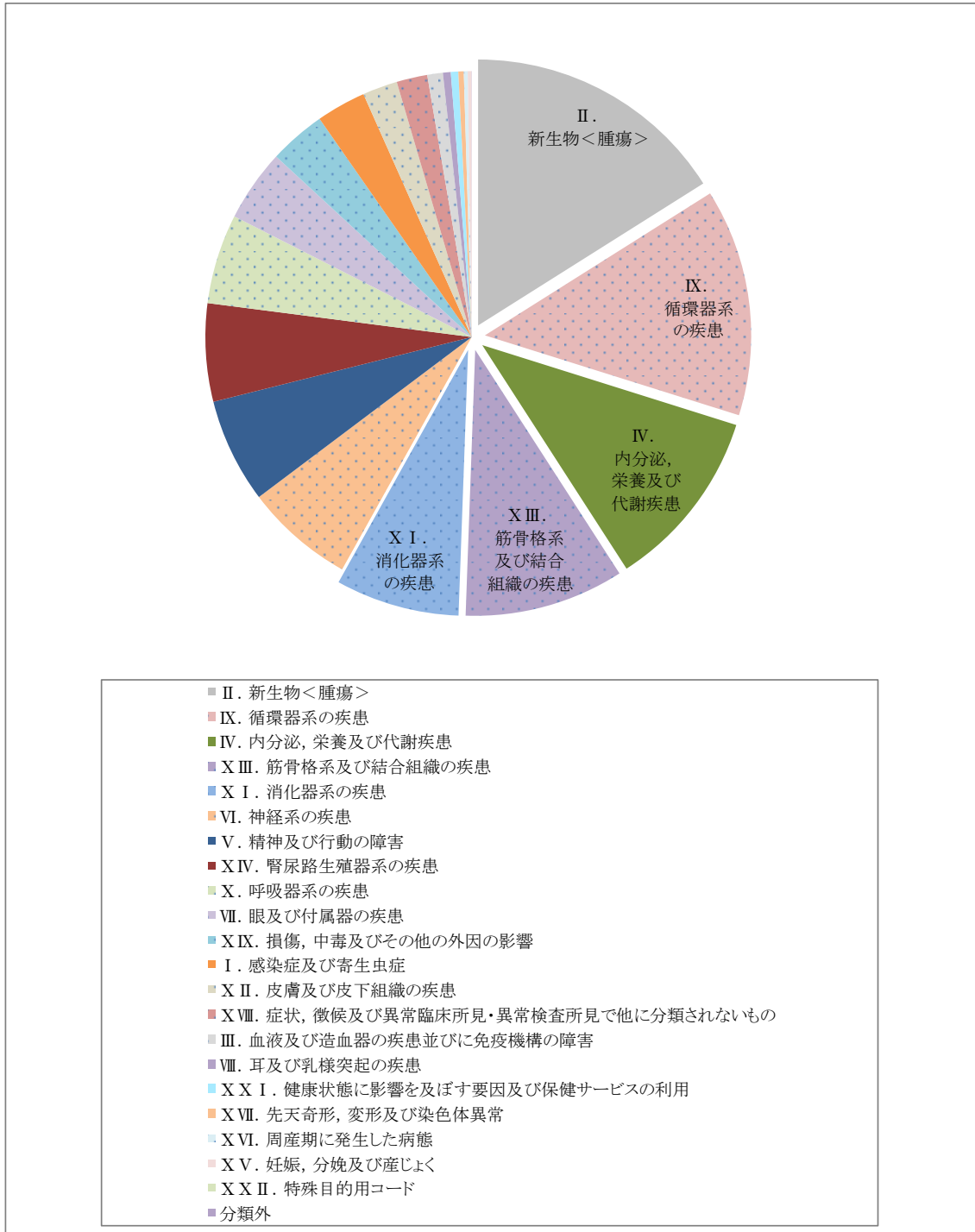
※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

疾病項目別医療費割合は、「新生物<腫瘍>」「循環器系の疾患」「内分泌，栄養及び代謝疾患」「筋骨格系及び結合組織の疾患」「消化器系の疾患」の医療費で高い割合を占める。

疾病項目別医療費割合



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライズン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

平成29年度から平成31年度に発生しているレセプトより、疾病項目毎に医療費を算出し年度別に示す。

年度別 大分類による疾病別医療費統計

※各年度毎に上位5疾病を

網掛け

表示する。

疾病分類(大分類)	平成29年度			平成30年度			平成31年度		
	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	353,010,165	4.0%	11	258,142,259	3.1%	11	245,162,841	3.0%	12
II. 新生物<腫瘍>	1,274,907,664	14.6%	2	1,297,273,704	15.8%	1	1,304,524,591	16.0%	1
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	106,581,289	1.2%	15	64,754,753	0.8%	15	76,637,726	0.9%	15
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	978,076,188	11.2%	3	923,457,230	11.2%	3	897,415,936	11.0%	3
V. 精神及び行動の障害	561,880,861	6.4%	6	549,610,992	6.7%	6	517,199,130	6.4%	7
VI. 神経系の疾患	537,201,673	6.2%	8	512,052,831	6.2%	7	540,220,433	6.6%	6
VII. 眼及び付属器の疾患	379,771,707	4.4%	10	354,393,635	4.3%	10	356,101,595	4.4%	10
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	43,559,379	0.5%	16	41,581,068	0.5%	16	38,642,778	0.5%	16
IX. 循環器系の疾患	1,324,220,300	15.2%	1	1,207,361,933	14.7%	2	1,124,086,519	13.8%	2
X. 呼吸器系の疾患	487,701,714	5.6%	9	456,513,602	5.6%	9	443,875,257	5.5%	9
X I. 消化器系の疾患 ※	684,224,254	7.8%	5	626,885,204	7.6%	5	611,099,792	7.5%	5
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	171,633,577	2.0%	13	165,934,276	2.0%	13	172,679,629	2.1%	13
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	767,144,674	8.8%	4	757,274,730	9.2%	4	787,857,443	9.7%	4
X IV. 泌尿路生殖器系の疾患	551,897,463	6.3%	7	496,746,357	6.0%	8	484,395,142	6.0%	8
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	22,540,701	0.3%	19	15,387,846	0.2%	19	18,156,406	0.2%	20
X VI. 周産期に発生した病態 ※	5,050,909	0.1%	20	14,063,524	0.2%	20	19,345,148	0.2%	19
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	26,489,554	0.3%	18	33,494,333	0.4%	17	26,476,741	0.3%	18
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	155,364,279	1.8%	14	148,918,302	1.8%	14	152,125,073	1.9%	14
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	261,431,540	3.0%	12	257,771,586	3.1%	12	280,496,178	3.4%	11
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	27,896,716	0.3%	17	29,478,841	0.4%	18	36,849,935	0.5%	17
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0	0.0%		9,618	0.0%	22
分類外	2,012,163	0.0%	21	1,097,834	0.0%	21	1,069,199	0.0%	21
合計	8,722,596,770			8,212,194,840			8,134,427,110		

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

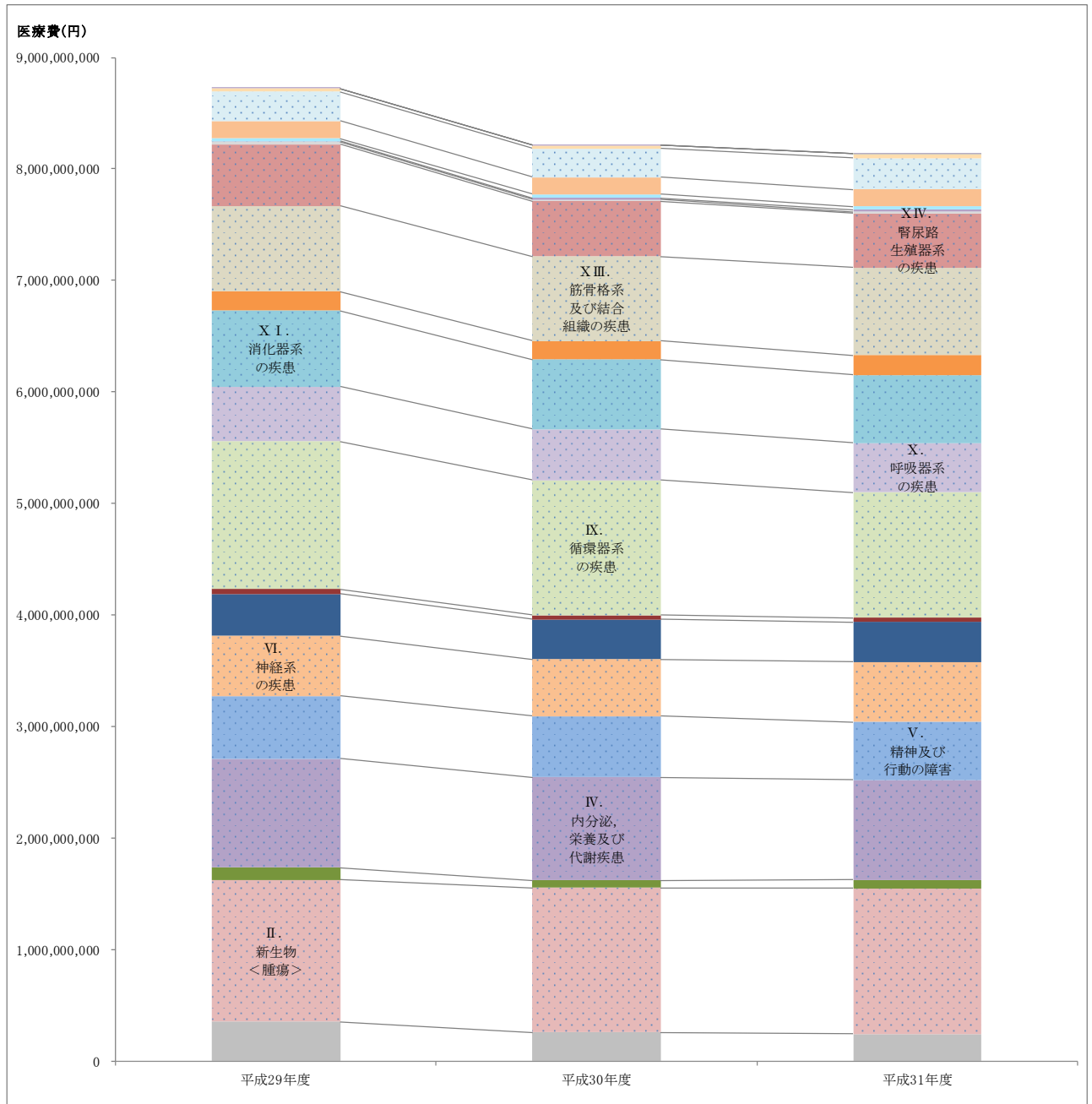
※医療費…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

年度・疾病項目別医療費統計



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

医療費…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

②中分類による疾病別医療費統計

平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトより、疾病中分類毎に集計し、医療費、患者数、患者一人当たりの医療費、各項目の上位10疾病を示す。

中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)	医療費(円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数(人)
1	0402 糖尿病	479,650,987	5.9%	9,130
2	0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	442,827,051	5.4%	2,841
3	0901 高血圧性疾患	439,362,980	5.4%	8,946
4	1113 その他の消化器系の疾患	335,406,050	4.1%	7,783
5	1402 腎不全	325,036,589	4.0%	626
6	0606 その他の神経系の疾患	321,388,119	4.0%	5,340
7	0403 脂質異常症	276,952,135	3.4%	6,922
8	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	265,457,189	3.3%	919
9	0903 その他の心疾患	253,279,712	3.1%	3,989
10	0205 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	211,807,297	2.6%	835

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)	医療費(円)	患者数(人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0402 糖尿病	479,650,987	9,130	38.5%
2	0901 高血圧性疾患	439,362,980	8,946	37.7%
3	1113 その他の消化器系の疾患	335,406,050	7,783	32.8%
4	1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	152,125,073	7,443	31.4%
5	0403 脂質異常症	276,952,135	6,922	29.2%
6	0703 屈折及び調節の障害	22,514,311	6,251	26.4%
7	0704 その他の眼及び付属器の疾患	200,140,849	5,993	25.3%
8	1105 胃炎及び十二指腸炎	86,389,246	5,809	24.5%
9	1202 皮膚炎及び湿疹	71,901,725	5,801	24.5%
10	0606 その他の神経系の疾患	321,388,119	5,340	22.5%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

中分類による疾病別統計(患者一人当たりの医療費が高額な上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)	医療費(円) ※	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
1	0209 白血病	64,462,903	49	1,315,569
2	1402 腎不全	325,036,589	626	519,228
3	0604 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	32,368,805	83	389,986
4	0203 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	73,164,984	189	387,116
5	1601 妊娠及び胎児発育に関連する障害	12,381,260	33	375,190
6	0208 悪性リンパ腫	57,695,751	193	298,942
7	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	265,457,189	919	288,854
8	0205 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	211,807,297	835	253,661
9	0904 くも膜下出血	17,110,889	69	247,984
10	0602 アルツハイマー病	32,281,375	156	206,932

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

平成29年度から平成31年度に発生しているレセプトより、疾病中分類毎に集計し、医療費上位10疾病を年度別に示す。

年度別 中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

年度	順位	疾病分類(中分類)	医療費(円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数(人) ※
平成29年度	1	0901 高血圧性疾患	532,709,165	6.1%	9,579
	2	0402 糖尿病	503,384,304	5.8%	9,568
	3	0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	438,377,426	5.0%	2,779
	4	1402 腎不全	374,107,860	4.3%	690
	5	1113 その他の消化器系の疾患	353,061,836	4.0%	8,184
	6	0606 その他の神経系の疾患	343,168,026	3.9%	5,823
	7	0403 脂質異常症	317,407,943	3.6%	7,116
	8	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	283,018,491	3.2%	949
	9	0903 その他の心疾患	273,735,762	3.1%	4,056
	10	0704 その他の眼及び付属器の疾患	207,932,271	2.4%	6,456
平成30年度	1	0402 糖尿病	495,591,184	6.0%	9,501
	2	0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	473,332,843	5.8%	2,797
	3	0901 高血圧性疾患	464,939,322	5.7%	9,376
	4	1402 腎不全	331,044,371	4.0%	685
	5	0606 その他の神経系の疾患	327,315,897	4.0%	5,593
	6	1113 その他の消化器系の疾患	324,137,230	3.9%	7,967
	7	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	285,732,195	3.5%	951
	8	0903 その他の心疾患	282,985,478	3.4%	4,265
	9	0403 脂質異常症	282,952,985	3.4%	7,084
	10	0704 その他の眼及び付属器の疾患	194,386,428	2.4%	6,310
平成31年度	1	0402 糖尿病	479,650,987	5.9%	9,130
	2	0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	442,827,051	5.4%	2,841
	3	0901 高血圧性疾患	439,362,980	5.4%	8,946
	4	1113 その他の消化器系の疾患	335,406,050	4.1%	7,783
	5	1402 腎不全	325,036,589	4.0%	626
	6	0606 その他の神経系の疾患	321,388,119	4.0%	5,340
	7	0403 脂質異常症	276,952,135	3.4%	6,922
	8	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	265,457,189	3.3%	919
	9	0903 その他の心疾患	253,279,712	3.1%	3,989
	10	0205 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	211,807,297	2.6%	835

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36ヵ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

患者数上位10疾病を年度別に示す。

年度別 中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

年度	順位	疾病分類(中分類)	医療費(円) ※	患者数(人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
平成29年度	1	0901 高血圧性疾患	532,709,165	9,579	35.9%
	2	0402 糖尿病	503,384,304	9,568	35.9%
	3	1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	155,364,279	8,501	31.9%
	4	1113 その他の消化器系の疾患	353,061,836	8,184	30.7%
	5	0403 脂質異常症	317,407,943	7,116	26.7%
	6	0703 屈折及び調節の障害	25,394,892	6,817	25.6%
	7	1105 胃炎及び十二指腸炎	100,356,667	6,639	24.9%
	8	1202 皮膚炎及び湿疹	78,233,302	6,529	24.5%
	9	0704 その他の眼及び付属器の疾患	207,932,271	6,456	24.2%
	10	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	42,828,316	6,413	24.0%
平成30年度	1	0402 糖尿病	495,591,184	9,501	37.6%
	2	0901 高血圧性疾患	464,939,322	9,376	37.1%
	3	1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	148,918,302	8,127	32.1%
	4	1113 その他の消化器系の疾患	324,137,230	7,967	31.5%
	5	0403 脂質異常症	282,952,985	7,084	28.0%
	6	0703 屈折及び調節の障害	24,690,961	6,686	26.4%
	7	1105 胃炎及び十二指腸炎	90,753,089	6,333	25.0%
	8	0704 その他の眼及び付属器の疾患	194,386,428	6,310	25.0%
	9	1202 皮膚炎及び湿疹	69,345,459	6,086	24.1%
	10	1006 アレルギー性鼻炎	68,063,526	5,760	22.8%
平成31年度	1	0402 糖尿病	479,650,987	9,130	38.5%
	2	0901 高血圧性疾患	439,362,980	8,946	37.7%
	3	1113 その他の消化器系の疾患	335,406,050	7,783	32.8%
	4	1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	152,125,073	7,443	31.4%
	5	0403 脂質異常症	276,952,135	6,922	29.2%
	6	0703 屈折及び調節の障害	22,514,311	6,251	26.4%
	7	0704 その他の眼及び付属器の疾患	200,140,849	5,993	25.3%
	8	1105 胃炎及び十二指腸炎	86,389,246	5,809	24.5%
	9	1202 皮膚炎及び湿疹	71,901,725	5,801	24.5%
	10	0606 その他の神経系の疾患	321,388,119	5,340	22.5%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36ヵ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

患者一人当たりの医療費上位10疾病を年度別に示す。

年度別 中分類による疾病別統計(患者一人当たりの医療費が高額な上位10疾病)

年度	順位	疾病分類(中分類)	医療費(円) ※	患者数(人) ※	患者一人当たりの医療費(円)
平成29年度	1	0209 白血病	57,243,316	46	1,244,420
	2	1402 腎不全	374,107,860	690	542,185
	3	0904 くも膜下出血	30,260,087	73	414,522
	4	0203 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	62,224,384	186	334,540
	5	0501 血管性及び詳細不明の認知症	21,025,368	68	309,197
	6	0604 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	28,287,402	94	300,930
	7	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	283,018,491	949	298,228
	8	0205 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	196,518,003	860	228,509
	9	0208 悪性リンパ腫	33,924,391	158	214,711
	10	0602 アルツハイマー病	30,345,920	148	205,040
平成30年度	1	0209 白血病	37,531,882	52	721,767
	2	1402 腎不全	331,044,371	685	483,276
	3	0208 悪性リンパ腫	65,412,673	171	382,530
	4	0203 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	74,986,276	202	371,219
	5	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	285,732,195	951	300,454
	6	1602 その他の周産期に発生した病態	13,127,354	47	279,305
	7	0604 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	27,125,990	99	274,000
	8	0206 乳房の悪性新生物<腫瘍>	106,563,307	460	231,659
	9	0501 血管性及び詳細不明の認知症	15,607,758	71	219,828
	10	0205 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	185,142,864	878	210,869
平成31年度	1	0209 白血病	64,462,903	49	1,315,569
	2	1402 腎不全	325,036,589	626	519,228
	3	0604 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	32,368,805	83	389,986
	4	0203 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	73,164,984	189	387,116
	5	1601 妊娠及び胎児発育に関連する障害	12,381,260	33	375,190
	6	0208 悪性リンパ腫	57,695,751	193	298,942
	7	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	265,457,189	919	288,854
	8	0205 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	211,807,297	835	253,661
	9	0904 くも膜下出血	17,110,889	69	247,984
	10	0602 アルツハイマー病	32,281,375	156	206,932

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36ヵ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

中分類による疾病別医療費統計(全項目)

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計(円)		レセプト件数 ※			患者数 ※		
	8,134,427,110		381,382			23,700		

疾病分類	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	245,162,841	3.0%		29,130	7.6%		7,159	30.2%		34,245	
0101 腸管感染症	16,498,666	0.2%	78	6,636	1.7%	47	2,324	9.8%	34	7,099	110
0102 結核	8,364,179	0.1%	92	667	0.2%	100	249	1.1%	93	33,591	53
0103 主として性的伝播様式をとる感染症	2,541,087	0.0%	108	832	0.2%	94	465	2.0%	80	5,465	115
0104 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	16,622,496	0.2%	77	3,685	1.0%	65	1,275	5.4%	49	13,037	92
0105 ウイルス性肝炎	85,285,321	1.0%	32	4,395	1.2%	58	966	4.1%	60	88,287	25
0106 その他のウイルス性疾患	34,370,642	0.4%	62	704	0.2%	99	316	1.3%	91	108,768	20
0107 真菌症	45,259,184	0.6%	45	9,251	2.4%	40	2,292	9.7%	35	19,747	74
0108 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	301,539	0.0%	116	126	0.0%	112	26	0.1%	116	11,598	98
0109 その他の感染症及び寄生虫症	35,919,727	0.4%	57	6,295	1.7%	49	1,896	8.0%	37	18,945	78
II. 新生物<腫瘍>	1,304,524,591	16.0%		29,483	7.7%		7,191	30.3%		181,411	
0201 胃の悪性新生物<腫瘍>	106,887,806	1.3%	26	5,121	1.3%	54	1,933	8.2%	36	55,296	35
0202 結腸の悪性新生物<腫瘍>	108,189,557	1.3%	25	4,144	1.1%	59	1,513	6.4%	43	71,507	27
0203 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	73,164,984	0.9%	36	1,102	0.3%	89	189	0.8%	95	387,116	4
0204 肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	35,060,068	0.4%	60	1,341	0.4%	87	430	1.8%	81	81,535	26
0205 気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	211,807,297	2.6%	10	2,672	0.7%	73	835	3.5%	66	253,661	8
0206 乳房の悪性新生物<腫瘍>	84,848,432	1.0%	33	2,391	0.6%	77	421	1.8%	83	201,540	12
0207 子宮の悪性新生物<腫瘍>	15,222,280	0.2%	80	887	0.2%	93	416	1.8%	84	36,592	49
0208 悪性リンパ腫	57,695,751	0.7%	41	1,023	0.3%	90	193	0.8%	94	298,942	6
0209 白血病	64,462,903	0.8%	39	310	0.1%	106	49	0.2%	111	1,315,569	1
0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	442,827,051	5.4%	2	10,884	2.9%	35	2,841	12.0%	28	155,870	15
0211 良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	104,358,462	1.3%	28	7,461	2.0%	45	3,089	13.0%	24	33,784	52
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	76,637,726	0.9%		9,431	2.5%		2,290	9.7%		33,466	
0301 貧血	37,915,666	0.5%	53	6,550	1.7%	48	1,517	6.4%	42	24,994	68
0302 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	38,722,060	0.5%	50	3,385	0.9%	67	1,047	4.4%	57	36,984	47
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	897,415,936	11.0%		146,269	38.4%		12,542	52.9%		71,553	
0401 甲状腺障害	36,124,405	0.4%	56	8,472	2.2%	42	1,751	7.4%	41	20,631	71
0402 糖尿病	479,650,987	5.9%	1	71,288	18.7%	4	9,130	38.5%	1	52,536	36
0403 脂質異常症	276,952,135	3.4%	7	95,482	25.0%	2	6,922	29.2%	5	40,010	46
0404 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	104,688,409	1.3%	27	26,658	7.0%	10	3,279	13.8%	23	31,927	59
V. 精神及び行動の障害	517,199,130	6.4%		38,207	10.0%		3,158	13.3%		163,774	
0501 血管性及び詳細不明の認知症	14,649,708	0.2%	82	224	0.1%	109	71	0.3%	107	206,334	11
0502 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	3,801,587	0.0%	100	494	0.1%	104	88	0.4%	104	43,200	44
0503 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	265,457,189	3.3%	8	14,135	3.7%	29	919	3.9%	62	288,854	7

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数 ※	患者数 ※
	8,134,427,110	381,382	23,700

疾病分類	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位	
0504	気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	141,105,366	1.7%	15	18,880	5.0%	22	1,383	5.8%	46	102,028	22
0505	神経症性障害, ストレス関連障害及び身体表現性障害	54,597,936	0.7%	42	21,082	5.5%	20	1,855	7.8%	39	29,433	63
0506	知的障害<精神遅滞>	3,116,462	0.0%	104	1,922	0.5%	80	155	0.7%	100	20,106	73
0507	その他の精神及び行動の障害	34,470,882	0.4%	61	3,530	0.9%	66	382	1.6%	86	90,238	24
VI.	神経系の疾患	540,220,433	6.6%		64,117	16.8%		5,849	24.7%		92,361	
0601	パーキンソン病	42,505,107	0.5%	47	5,904	1.5%	52	391	1.6%	85	108,709	21
0602	アルツハイマー病	32,281,375	0.4%	64	1,759	0.5%	82	156	0.7%	99	206,932	10
0603	てんかん	109,893,625	1.4%	24	8,721	2.3%	41	692	2.9%	71	158,806	14
0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	32,368,805	0.4%	63	634	0.2%	101	83	0.4%	105	389,986	3
0605	自律神経系の障害	1,783,402	0.0%	112	1,447	0.4%	85	121	0.5%	102	14,739	90
0606	その他の神経系の疾患	321,388,119	4.0%	6	56,015	14.7%	5	5,340	22.5%	10	60,185	31
VII.	眼及び付属器の疾患	356,101,595	4.4%		35,531	9.3%		8,481	35.8%		41,988	
0701	結膜炎	29,164,950	0.4%	65	15,363	4.0%	28	3,720	15.7%	19	7,840	106
0702	白内障	104,281,485	1.3%	29	12,538	3.3%	31	2,991	12.6%	25	34,865	51
0703	屈折及び調節の障害	22,514,311	0.3%	71	23,942	6.3%	14	6,251	26.4%	6	3,602	119
0704	その他の眼及び付属器の疾患	200,140,849	2.5%	11	26,674	7.0%	9	5,993	25.3%	7	33,396	54
VIII.	耳及び乳様突起の疾患	38,642,778	0.5%		9,195	2.4%		2,651	11.2%		14,577	
0801	外耳炎	2,726,231	0.0%	107	1,612	0.4%	84	727	3.1%	70	3,750	118
0802	その他の外耳疾患	2,201,163	0.0%	110	825	0.2%	95	540	2.3%	74	4,076	117
0803	中耳炎	13,390,403	0.2%	84	4,003	1.0%	62	1,212	5.1%	52	11,048	99
0804	その他の中耳及び乳様突起の疾患	3,350,724	0.0%	101	739	0.2%	97	254	1.1%	92	13,192	91
0805	メニエール病	7,100,269	0.1%	94	1,964	0.5%	79	366	1.5%	88	19,400	77
0806	その他の内耳疾患	2,813,107	0.0%	106	536	0.1%	103	181	0.8%	96	15,542	85
0807	その他の耳疾患	7,060,881	0.1%	95	2,642	0.7%	74	1,033	4.4%	58	6,835	111
IX.	循環器系の疾患	1,124,086,519	13.8%		149,373	39.2%		11,620	49.0%		96,737	
0901	高血圧性疾患	439,362,980	5.4%	3	129,225	33.9%	1	8,946	37.7%	2	49,113	39
0902	虚血性心疾患	128,709,651	1.6%	17	22,377	5.9%	19	2,558	10.8%	31	50,317	37
0903	その他の心疾患	253,279,712	3.1%	9	25,974	6.8%	11	3,989	16.8%	17	63,495	28
0904	くも膜下出血	17,110,889	0.2%	76	176	0.0%	110	69	0.3%	108	247,984	9
0905	脳内出血	41,364,861	0.5%	49	953	0.2%	91	364	1.5%	89	113,640	18
0906	脳梗塞	125,122,022	1.5%	18	10,050	2.6%	39	1,357	5.7%	47	92,205	23
0907	脳動脈硬化(症)	30,184	0.0%	120	11	0.0%	121	5	0.0%	122	6,037	113
0908	その他の脳血管疾患	37,809,300	0.5%	54	3,117	0.8%	69	766	3.2%	68	49,359	38
0909	動脈硬化(症)	10,776,264	0.1%	89	4,598	1.2%	57	1,004	4.2%	59	10,733	101
0911	低血圧(症)	2,105,932	0.0%	111	539	0.1%	102	57	0.2%	110	36,946	48
0912	その他の循環器系の疾患	68,414,724	0.8%	38	6,041	1.6%	50	1,237	5.2%	51	55,307	34
X.	呼吸器系の疾患	443,875,257	5.5%		69,653	18.3%		12,683	53.5%		34,998	
1001	急性鼻咽頭炎[かぜ]<感冒>	3,285,287	0.0%	103	2,819	0.7%	71	1,119	4.7%	56	2,936	120
1002	急性鼻咽頭炎及び急性扁桃炎	19,940,569	0.2%	74	11,616	3.0%	32	4,270	18.0%	15	4,670	116
1003	その他の急性上気道感染症	38,146,947	0.5%	52	16,356	4.3%	24	5,226	22.1%	11	7,299	107

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数 ※	患者数 ※
	8,134,427,110	381,382	23,700

疾病分類	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
1004 肺炎	35,181,717	0.4%	59	3,160	0.8%	68	1,252	5.3%	50	28,100	65
1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	35,728,150	0.4%	58	15,664	4.1%	27	5,014	21.2%	12	7,126	109
1006 アレルギー性鼻炎	59,440,243	0.7%	40	23,159	6.1%	16	4,988	21.0%	13	11,917	97
1007 慢性副鼻腔炎	10,652,048	0.1%	90	4,093	1.1%	60	1,147	4.8%	55	9,287	104
1008 急性又は慢性と明示されない気管支炎	5,951,535	0.1%	97	2,492	0.7%	76	900	3.8%	63	6,613	112
1009 慢性閉塞性肺疾患	38,263,938	0.5%	51	8,194	2.1%	43	1,278	5.4%	48	29,940	62
1010 喘息	81,324,203	1.0%	34	16,316	4.3%	25	2,449	10.3%	32	33,207	55
1011 その他の呼吸器系の疾患	115,960,620	1.4%	20	11,343	3.0%	34	3,745	15.8%	18	30,964	61
X I . 消化器系の疾患	611,099,792	7.5%		117,462	30.8%		12,050	50.8%		50,714	
1101 う蝕 ※	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
1102 歯肉炎及び歯周疾患	20,882	0.0%	122	21	0.0%	119	8	0.0%	120	2,610	122
1103 その他の歯及び歯の支持組織の障害	61,044	0.0%	118	41	0.0%	118	21	0.1%	117	2,907	121
1104 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	75,163,280	0.9%	35	31,463	8.2%	8	3,385	14.3%	21	22,205	70
1105 胃炎及び十二指腸炎	86,389,246	1.1%	30	40,433	10.6%	6	5,809	24.5%	8	14,872	88
1106 痔核	8,126,072	0.1%	93	2,585	0.7%	75	502	2.1%	76	16,187	83
1107 アルコール性肝疾患	3,802,938	0.0%	99	774	0.2%	96	115	0.5%	103	33,069	57
1108 慢性肝炎(アルコール性のものを除く)	8,368,458	0.1%	91	3,969	1.0%	63	477	2.0%	78	17,544	81
1109 肝硬変(アルコール性のものを除く)	12,308,191	0.2%	87	1,800	0.5%	81	347	1.5%	90	35,470	50
1110 その他の肝疾患	26,779,569	0.3%	67	10,462	2.7%	37	2,672	11.3%	30	10,022	103
1111 胆石症及び胆のう炎	41,996,053	0.5%	48	4,818	1.3%	56	884	3.7%	64	47,507	41
1112 膵疾患	12,678,009	0.2%	85	1,318	0.3%	88	382	1.6%	86	33,189	56
1113 その他の消化器系の疾患	335,406,050	4.1%	4	78,008	20.5%	3	7,783	32.8%	3	43,095	45
X II . 皮膚及び皮下組織の疾患	172,679,629	2.1%		36,392	9.5%		8,082	34.1%		21,366	
1201 皮膚及び皮下組織の感染症	14,968,047	0.2%	81	4,085	1.1%	61	1,430	6.0%	45	10,467	102
1202 皮膚炎及び湿疹	71,901,725	0.9%	37	24,357	6.4%	13	5,801	24.5%	9	12,395	94
1203 その他の皮膚及び皮下組織の疾患	85,809,857	1.1%	31	17,678	4.6%	23	4,405	18.6%	14	19,480	76
X III . 筋骨格系及び結合組織の疾患	787,857,443	9.7%		94,187	24.7%		10,154	42.8%		77,591	
1301 炎症性多発性関節障害	113,950,863	1.4%	22	16,278	4.3%	26	1,800	7.6%	40	63,306	29
1302 関節症	174,486,960	2.1%	12	24,953	6.5%	12	2,936	12.4%	27	59,430	32
1303 脊椎障害(脊椎症を含む)	117,840,254	1.4%	19	19,541	5.1%	21	2,691	11.4%	29	43,791	43
1304 椎間板障害	26,403,046	0.3%	68	4,837	1.3%	55	835	3.5%	66	31,620	60
1305 頸腕症候群	11,168,242	0.1%	88	6,694	1.8%	46	926	3.9%	61	12,061	95
1306 腰痛症及び坐骨神経痛	50,993,004	0.6%	44	23,499	6.2%	15	3,315	14.0%	22	15,383	86
1307 その他の脊柱障害	26,820,539	0.3%	66	2,904	0.8%	70	590	2.5%	73	45,459	42
1308 肩の傷害<損傷>	26,025,900	0.3%	69	10,664	2.8%	36	1,486	6.3%	44	17,514	82
1309 骨の密度及び構造の障害	129,909,725	1.6%	16	22,630	5.9%	18	2,326	9.8%	33	55,851	33
1310 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	110,258,910	1.4%	23	23,031	6.0%	17	4,006	16.9%	16	27,523	66

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数 ※	患者数 ※
	8,134,427,110	381,382	23,700

疾病分類	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	484,395,142	6.0%		32,035	8.4%		5,472	23.1%		88,523	
1401 糸球体疾患及び腎尿管細管間質性疾患	20,570,481	0.3%	73	3,861	1.0%	64	751	3.2%	69	27,391	67
1402 腎不全	325,036,589	4.0%	5	6,024	1.6%	51	626	2.6%	72	519,228	2
1403 尿路結石症	14,019,475	0.2%	83	1,735	0.5%	83	490	2.1%	77	28,611	64
1404 その他の腎尿路系の疾患	52,632,830	0.6%	43	13,633	3.6%	30	2,982	12.6%	26	17,650	80
1405 前立腺肥大(症)	42,643,184	0.5%	46	8,118	2.1%	44	884	3.7%	64	48,239	40
1406 その他の男性生殖器の疾患	2,433,090	0.0%	109	709	0.2%	98	164	0.7%	97	14,836	89
1407 月経障害及び閉経周辺期障害	5,814,041	0.1%	98	2,323	0.6%	78	530	2.2%	75	10,970	100
1408 乳房及びその他の女性生殖器の疾患	21,245,452	0.3%	72	2,741	0.7%	72	1,178	5.0%	54	18,035	79
X V. 妊娠、分娩及び産じょく	18,156,406	0.2%		494	0.1%		180	0.8%		100,869	
1501 流産	437,422	0.0%	115	47	0.0%	117	29	0.1%	115	15,084	87
1502 妊娠高血圧症候群	29,066	0.0%	121	6	0.0%	124	4	0.0%	124	7,267	108
1503 単胎自然分娩	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
1504 その他の妊娠、分娩及び産じょく	17,689,918	0.2%	75	450	0.1%	105	159	0.7%	98	111,257	19
X VI. 周産期に発生した病態	19,345,148	0.2%		135	0.0%		75	0.3%		257,935	
1601 妊娠及び胎児発育に関連する障害	12,381,260	0.2%	86	61	0.0%	115	33	0.1%	114	375,190	5
1602 その他の周産期に発生した病態	6,963,888	0.1%	96	79	0.0%	114	47	0.2%	112	148,168	16
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	26,476,741	0.3%		1,468	0.4%		463	2.0%		57,185	
1701 心臓の先天奇形	536,757	0.0%	114	113	0.0%	113	45	0.2%	113	11,928	96
1702 その他の先天奇形、変形及び染色体異常	25,939,984	0.3%	70	1,365	0.4%	86	423	1.8%	82	61,324	30
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	152,125,073	1.9%		39,152	10.3%		7,443	31.4%		20,439	
1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	152,125,073	1.9%	13	39,152	10.3%	7	7,443	31.4%	4	20,439	72
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	280,496,178	3.4%		15,691	4.1%		4,598	19.4%		61,004	
1901 骨折	142,809,303	1.8%	14	5,167	1.4%	53	1,180	5.0%	53	121,025	17
1902 頭蓋内損傷及び内臓の損傷	15,927,962	0.2%	79	165	0.0%	111	83	0.4%	105	191,903	13
1903 熱傷及び腐食	3,300,759	0.0%	102	292	0.1%	107	141	0.6%	101	23,410	69
1904 中毒	2,833,277	0.0%	105	949	0.2%	92	474	2.0%	79	5,977	114
1905 その他の損傷及びその他の外因の影響	115,624,877	1.4%	21	10,445	2.7%	38	3,524	14.9%	20	32,811	58
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	36,849,935	0.5%		11,608	3.0%		1,889	8.0%		19,508	
2101 検査及び診査のための保健サービスの利用者	268,710	0.0%	117	49	0.0%	116	21	0.1%	117	12,796	93
2102 予防接種	1,640	0.0%	125	1	0.0%	125	1	0.0%	125	1,640	123
2103 正常妊娠及び産じょくの管理並びに家族計画	8,379	0.0%	124	7	0.0%	123	7	0.0%	121	1,197	124
2104 菌の補てつ	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数 ※	患者数 ※
	8,134,427,110	381,382	23,700

疾病分類		医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
2105	特定の処置(歯の補てつを 除く)及び保健ケアのための保健 サービスの利用者	43,636	0.0%	119	9	0.0%	122	5	0.0%	122	8,727	105
2106	その他の理由による保健サービスの 利用者	36,527,570	0.4%	55	11,542	3.0%	33	1,861	7.9%	38	19,628	75
XXII. 特殊目的用コード		9,618	0.0%		19	0.0%		13	0.1%		740	
2210	重症急性呼吸器症候群[SARS]	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
2220	その他の特殊目的用コード	9,618	0.0%	123	19	0.0%	120	13	0.1%	119	740	125
分類外		1,069,199	0.0%		236	0.1%		68	0.3%		15,724	
9999	分類外	1,069,199	0.0%	113	236	0.1%	108	68	0.3%	109	15,724	84

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
 対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライズン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。
 そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※う蝕…「う蝕」等歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

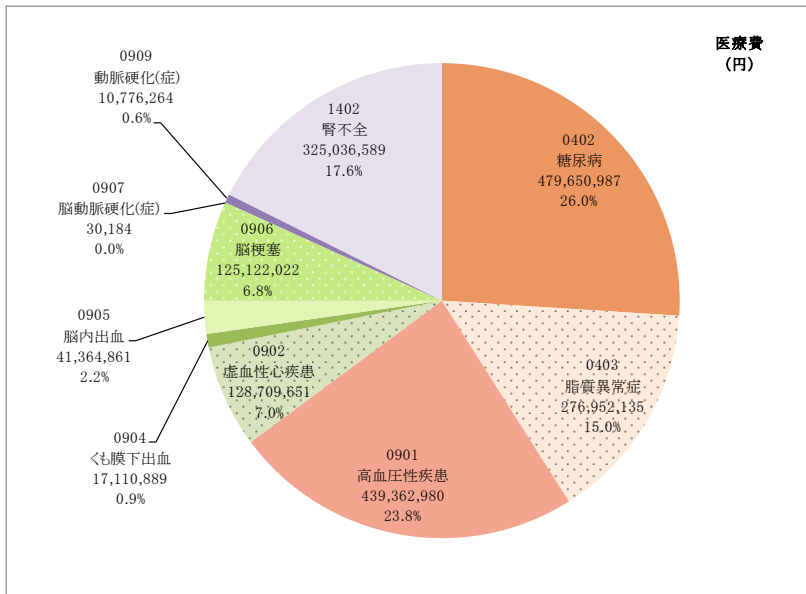
(4) 生活習慣病に係る医療費

平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトより、生活習慣病の医療費及び患者数を算出した。糖尿病医療費は4億7,965万円、脂質異常症医療費は2億7,695万円、高血圧性疾患医療費は4億3,936万円となっている。

生活習慣病医療費

疾病分類(中分類)	医療費(円)	構成比(%)	順位	患者数(人)	有病率(%) ※	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
0402 糖尿病	479,650,987	26.0%	1	9,130	30.8%	1	52,536	5
0403 脂質異常症	276,952,135	15.0%	4	6,922	23.3%	3	40,010	8
0901 高血圧性疾患	439,362,980	23.8%	2	8,946	30.2%	2	49,113	7
0902 虚血性心疾患	128,709,651	7.0%	5	2,558	8.6%	4	50,317	6
0904 くも膜下出血	17,110,889	0.9%	8	69	0.2%	9	247,984	2
0905 脳内出血	41,364,861	2.2%	7	364	1.2%	8	113,640	3
0906 脳梗塞	125,122,022	6.8%	6	1,357	4.6%	5	92,205	4
0907 脳動脈硬化(症)	30,184	0.0%	10	5	0.0%	10	6,037	10
0909 動脈硬化(症)	10,776,264	0.6%	9	1,004	3.4%	6	10,733	9
1402 腎不全	325,036,589	17.6%	3	626	2.1%	7	519,228	1
合計	1,844,116,562			13,888	46.8%		132,785	

生活習慣病医療費構成



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※有病率…被保険者数に占める患者数の割合。

生活習慣病…厚生労働省「特定健康診査等実施計画作成の手引き(第3版)」には、生活習慣病の明確な定義が記載されていないため、「特定健康診査等実施計画作成の手引き(第2版)」に記載された疾病中分類を生活習慣病の疾病項目としている。

また、平成29年度から平成31年度における、生活習慣病医療費を年度別に示す。平成31年度を平成29年度と比較すると、糖尿病医療費4億7,965万円は、平成29年度5億338万円より2,373万円減少している。また、脂質異常症医療費2億7,695万円は、平成29年度3億1,741万円より4,046万円減少している。高血圧性疾患医療費4億3,936万円は、平成29年度5億3,271万円より9,335万円減少している。

年度別 生活習慣病医療費

疾病分類(中分類)		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
		医療費(円) ※	構成比(%)	医療費(円) ※	構成比(%)	医療費(円) ※	構成比(%)
0402	糖尿病	503,384,304	23.4%	495,591,184	25.8%	479,650,987	26.0%
0403	脂質異常症	317,407,943	14.8%	282,952,985	14.7%	276,952,135	15.0%
0901	高血圧性疾患	532,709,165	24.8%	464,939,322	24.2%	439,362,980	23.8%
0902	虚血性心疾患	188,213,120	8.8%	156,104,880	8.1%	128,709,651	7.0%
0904	くも膜下出血	30,260,087	1.4%	9,217,969	0.5%	17,110,889	0.9%
0905	脳内出血	52,344,892	2.4%	31,801,290	1.7%	41,364,861	2.2%
0906	脳梗塞	131,538,513	6.1%	135,084,844	7.0%	125,122,022	6.8%
0907	脳動脈硬化(症)	20,552	0.0%	14,980	0.0%	30,184	0.0%
0909	動脈硬化(症)	17,795,130	0.8%	13,483,801	0.7%	10,776,264	0.6%
1402	腎不全	374,107,860	17.4%	331,044,371	17.2%	325,036,589	17.6%
合計		2,147,781,566		1,920,235,626		1,844,116,562	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

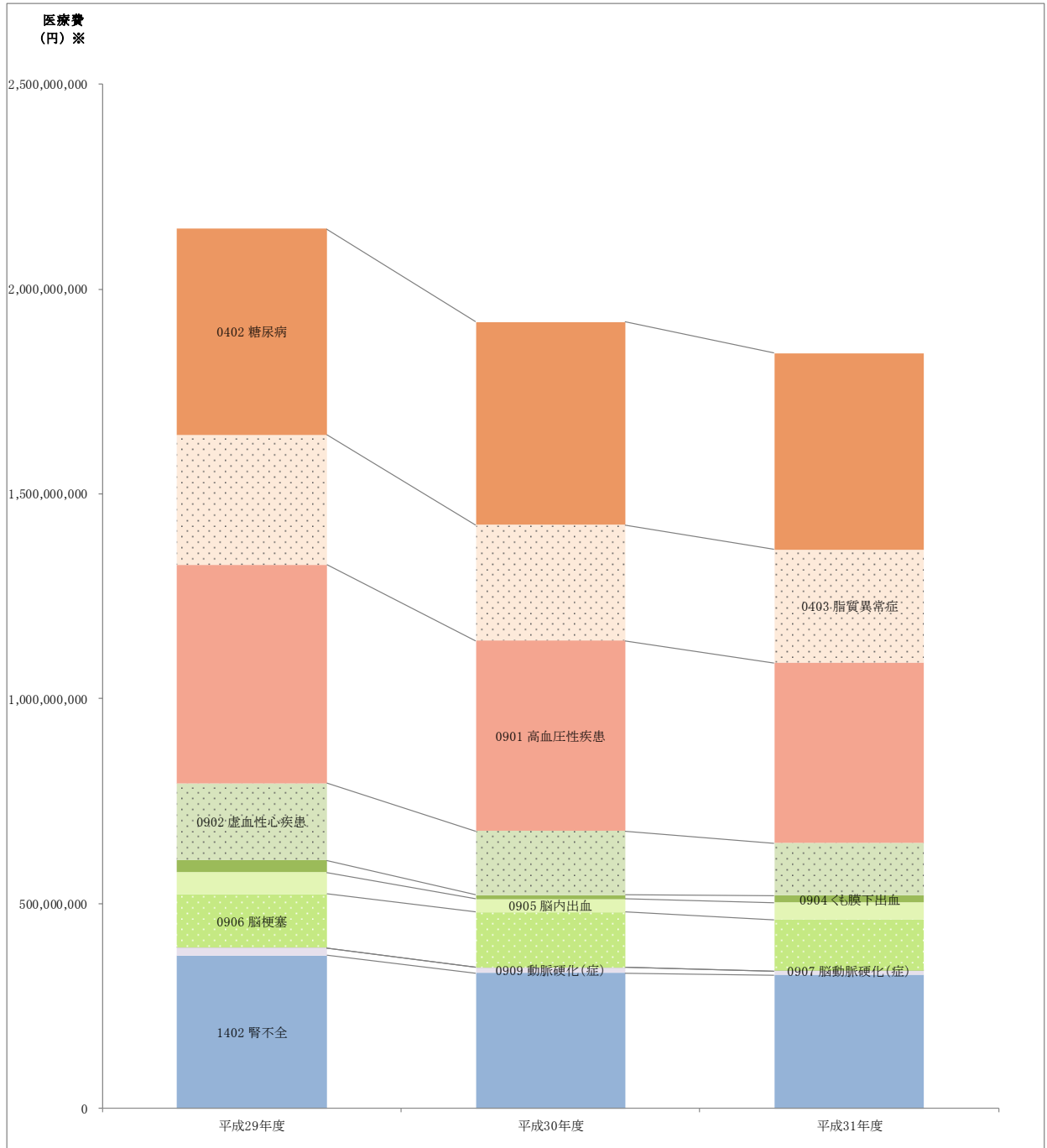
株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

生活習慣病…厚生労働省「特定健康診査等実施計画作成の手引き(第3版)」には、生活習慣病の明確な定義が記載されていないため、

「特定健康診査等実施計画作成の手引き(第2版)」に記載された疾病中分類を生活習慣病の疾病項目としている。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

年度別 生活習慣病医療費



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

生活習慣病…厚生労働省「特定健康診査等実施計画作成の手引き(第3版)」には、生活習慣病の明確な定義が記載されていないため、

「特定健康診査等実施計画作成の手引き(第2版)」に記載された疾病中分類を生活習慣病の疾病項目としている。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

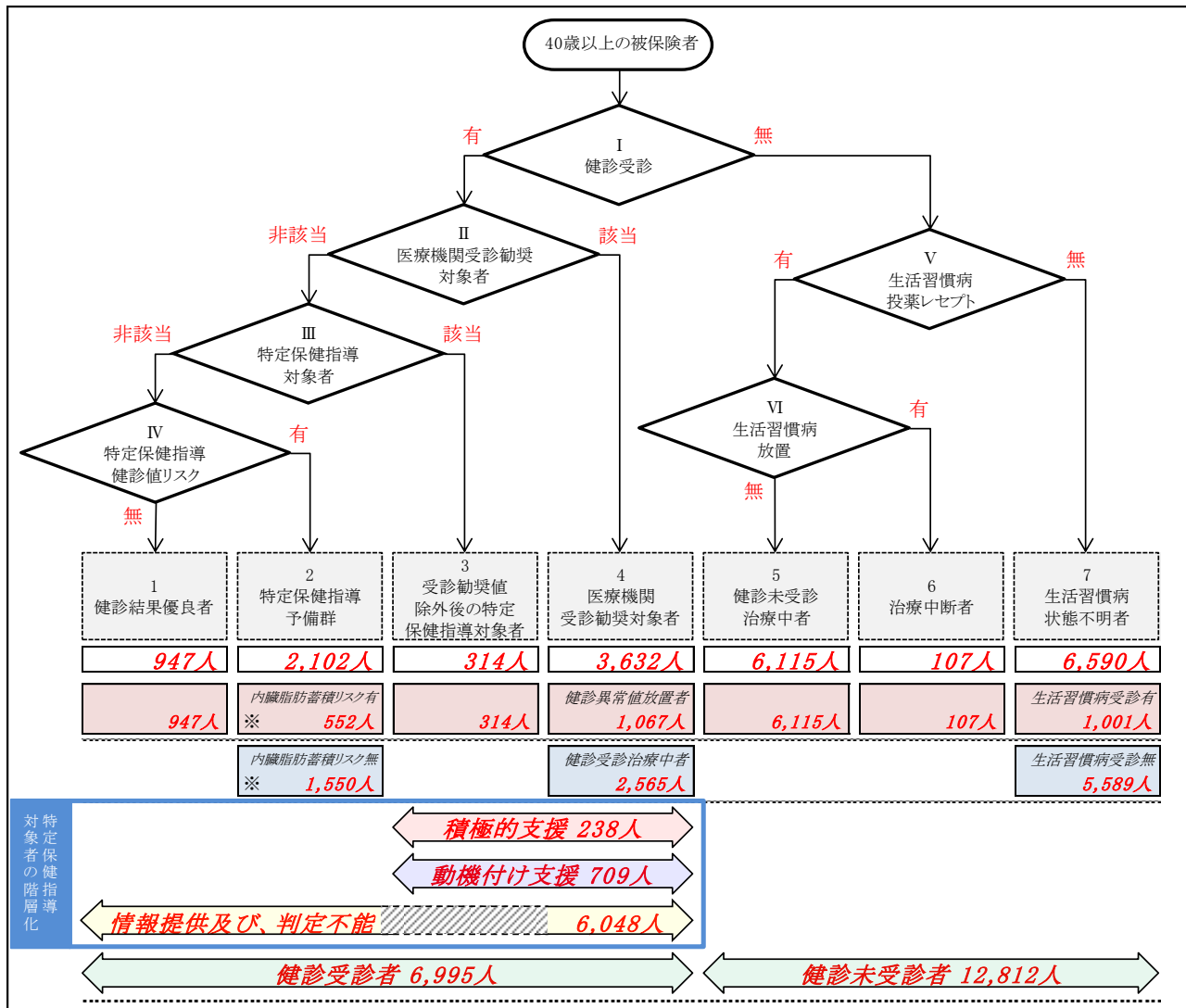
4. 保健事業実施に係る分析結果

(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析

特定健康診査データとレセプトデータを組み合わせた分析を行う。40歳以上の被保険者について、特定健康診査データの有無や異常値の有無、生活習慣病にかかわるレセプトの有無等を判定し、7つのグループに分類し、分析結果を以下に示す。

左端の「1. 健診結果優良者」から「6. 治療中断者」まで順に健康状態が悪くなっており、「7. 生活習慣病状態不明者」は特定健康診査データ・レセプトデータから生活習慣病状態が確認できないグループである。

特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)。

資格確認日…令和2年3月31日時点。

各フローの詳細については巻末資料「1.「指導対象者群分析」のグループ分けの見方」を参照。

※内臓脂肪蓄積リスク…腹囲・BMIにより内臓脂肪蓄積リスクを判定し階層化。

(2) 特定健康診査に係る分析

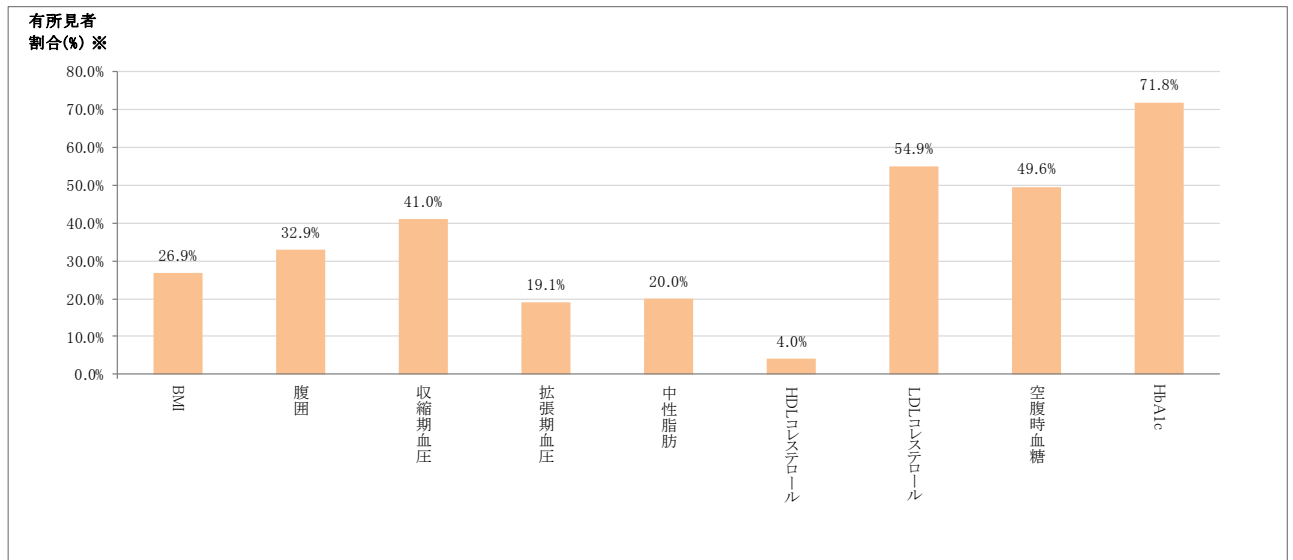
特定健康診査受診者の有所見者割合及び質問票への質問別回答状況を以下に示す。

有所見者割合

	BMI	腹囲	収縮期血圧	拡張期血圧
対象者数(人) ※	6,995	6,995	6,995	6,995
有所見者数(人) ※	1,880	2,303	2,865	1,337
有所見者割合(%) ※	26.9%	32.9%	41.0%	19.1%

	中性脂肪	HDLコレステロール	LDLコレステロール	空腹時血糖	HbA1c
対象者数(人) ※	6,995	6,995	6,995	1,896	6,911
有所見者数(人) ※	1,396	279	3,842	940	4,965
有所見者割合(%) ※	20.0%	4.0%	54.9%	49.6%	71.8%

有所見者割合



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)。

資格確認日…令和2年3月31日時点。

※対象者数 …健診検査値が記録されている人数。

※有所見者数 …保健指導判定値を超えている人数。

※有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合。

保健指導判定値

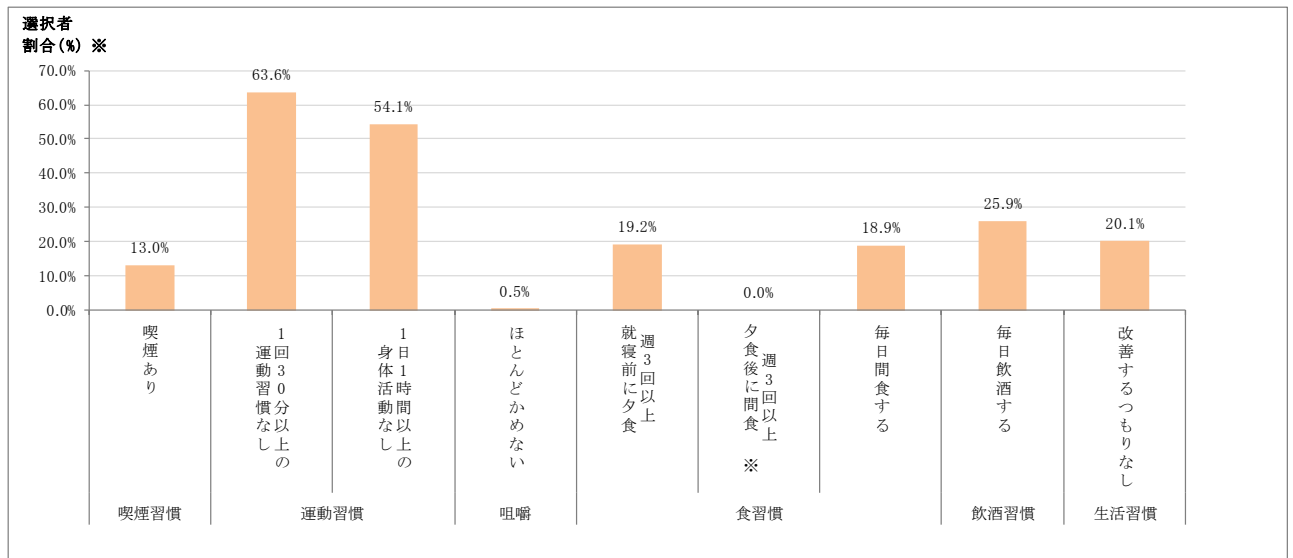
BMI:25以上、腹囲:男性85cm以上、女性90cm以上、収縮期血圧:130mmHg以上、拡張期血圧:85mmHg以上、
 中性脂肪:150mg/dl以上、HDLコレステロール:39mg/dl以下、LDLコレステロール:120mg/dl以上、
 空腹時血糖値:100mg/dl以上、HbA1c:5.6%以上

質問別回答状況

	喫煙習慣	運動習慣		咀嚼
質問の選択肢	喫煙あり	1回30分以上の運動習慣なし	1日1時間以上の身体活動なし	ほとんどかめない
質問回答者数(人) ※	6,995	1,280	1,280	1,279
選択者数(人) ※	911	814	693	6
選択者割合(%) ※	13.0%	63.6%	54.1%	0.5%

	食習慣			飲酒習慣	生活習慣
質問の選択肢	週3回以上就寝前に夕食	週3回以上夕食後に間食 ※	毎日間食する	毎日飲酒する	改善するつもりなし
質問回答者数(人) ※	1,278	0	1,280	6,995	1,276
選択者数(人) ※	246	0	242	1,815	257
選択者割合(%) ※	19.2%	0.0%	18.9%	25.9%	20.1%

質問別回答状況



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)。

資格確認日…令和2年3月31日時点。

※質問回答者数…質問に回答した人数。

※選択者数…質問の選択肢を選択した人数。

※選択者割合…質問回答者のうち、各質問の選択肢を選択した人の割合。

質問回答内容

- 喫煙あり …「現在、たばこを習慣的に吸っている。」の質問に対し、「はい」の回答数を集計。
- 1回30分以上の運動習慣なし …「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上かつ1年以上実施。」の質問に対し、「いいえ」の回答数を集計。
- 1日1時間以上の身体活動なし …「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施。」の質問に対し、「いいえ」の回答数を集計。
- ほとんどかめない …「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。」の質問に対し、「ほとんどかめない」の回答数を集計。
- 週3回以上就寝前に夕食 …「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある。」の質問に対し、「はい」の回答数を集計。
- 週3回以上夕食後に間食 …「夕食後に間食(3食以外の夜食)をとることが週に3回以上ある。」の質問に対し、「はい」の回答数を集計。 ※平成30年度以降で廃止された質問項目。
- 毎日間食する …「朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか。」の質問に対し、「毎日」の回答数を集計。
- 毎日飲酒する …「お酒(日本酒・焼酎・ビール・洋酒など)を飲む頻度」の質問に対し、「毎日」の回答数を集計。
- 改善するつもりなし …「運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いませんか。」の質問に対し、「改善するつもりはない」の回答数を集計。

(3) 特定保健指導に係る分析

日本人の生活習慣の変化や高齢者の増加等により、近年、糖尿病等の生活習慣病の有病者・予備群が増加しており、生活習慣病を原因とする死亡は、全体の約3分の1にのぼると推計されている。厚生労働省は、40歳以上の被保険者へメタボリックシンドロームの予防・解消に重点を置いた、生活習慣病予防のための特定健康診査・特定保健指導の実施を義務付けている。

「(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析」にある「3. 受診勧奨値除外後の特定保健指導対象者」「4. 医療機関受診勧奨対象者」に該当する対象者より、特定保健指導対象者は947人である。このうち、積極的支援の対象者は238人、動機付け支援の対象者は709人である。

特定保健指導対象者のリスク因子別該当状況

特定保健指導対象者	リスク判定 ※ (該当に●)				リスク因子数	リスク因子組み合わせ	対象者		
	① 血糖	② 血圧	③ 脂質	④ 喫煙			947人		
積極的支援	●	●	●	●	因子数4	血糖＋血圧＋脂質＋喫煙	19人	238人	25%
	●	●	●		因子数3	血糖＋血圧＋脂質	41人		
	●	●	●	●		血糖＋血圧＋喫煙	22人		
	●		●	●	血糖＋脂質＋喫煙	15人			
		●	●	●	血圧＋脂質＋喫煙	10人			
	●	●			因子数2	血糖＋血圧	41人		
	●	●	●			血糖＋脂質	38人		
	●		●		血圧＋脂質	18人			
	●			●	血糖＋喫煙	10人			
		●		●	血圧＋喫煙	6人			
			●	●	脂質＋喫煙	13人			
	●				因子数1	血糖	1人		
		●				血圧	0人		
			●		因子数0	脂質	3人		
			●	喫煙		0人			
				因子数0	なし	1人			
動機付け支援	●	●	●	●	因子数4	血糖＋血圧＋脂質＋喫煙	14人	709人	75%
	●	●	●		因子数3	血糖＋血圧＋脂質	63人		
	●	●	●	●		血糖＋血圧＋喫煙	14人		
	●		●	●	血糖＋脂質＋喫煙	13人			
		●	●	●	血圧＋脂質＋喫煙	6人			
	●	●			因子数2	血糖＋血圧	128人		
	●	●	●			血糖＋脂質	52人		
		●	●		血圧＋脂質	24人			
	●			●	血糖＋喫煙	20人			
		●		●	血圧＋喫煙	7人			
			●	●	脂質＋喫煙	8人			
	●				因子数1	血糖	201人		
		●				血圧	107人		
			●		脂質	45人			
			●	喫煙	0人				
				因子数0	なし	7人			

データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)。

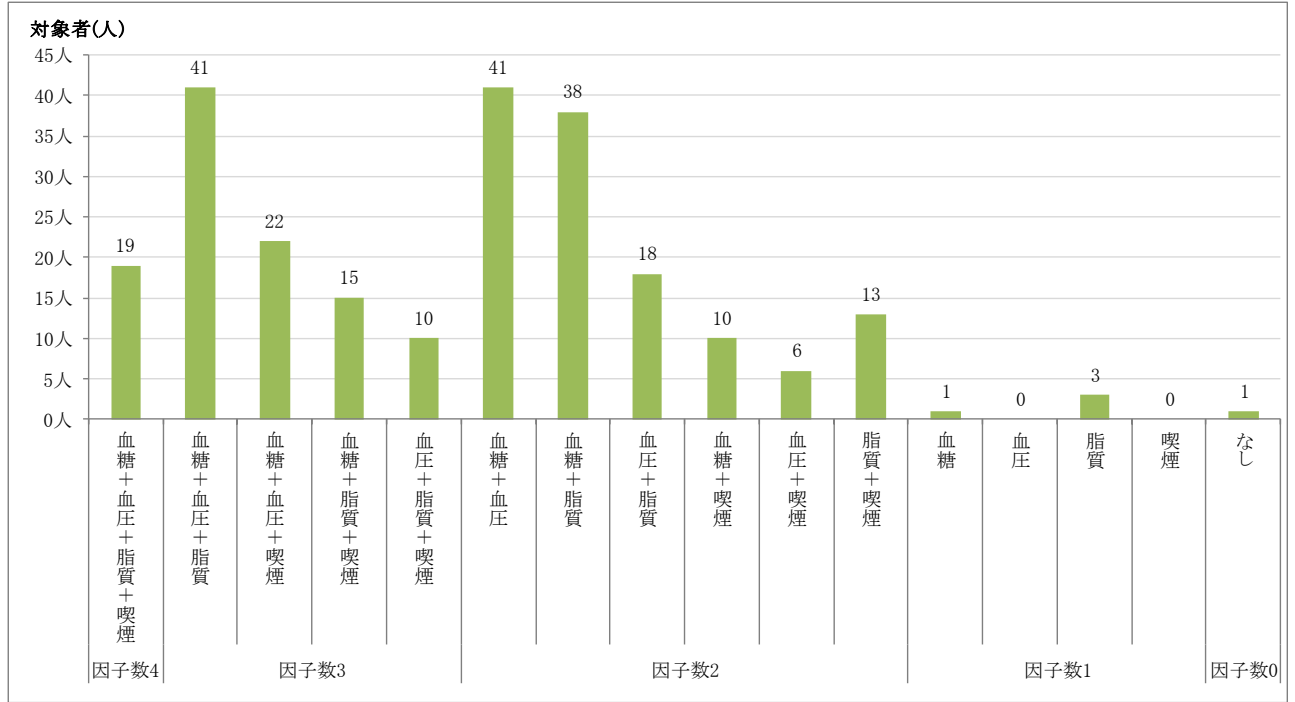
資格確認日…令和2年3月31日時点。

※リスク判定…健診検査値が保健指導判定値を超えている組み合わせ(喫煙については質問回答による)。そのため、厚生労働省が定める保健指導対象者の選定にない組み合わせに該当する場合がある。また、医師の判断等により、リスク因子数が0であっても特定保健指導対象者に分類される場合がある。

リスク判定の詳細は以下の通りとする。

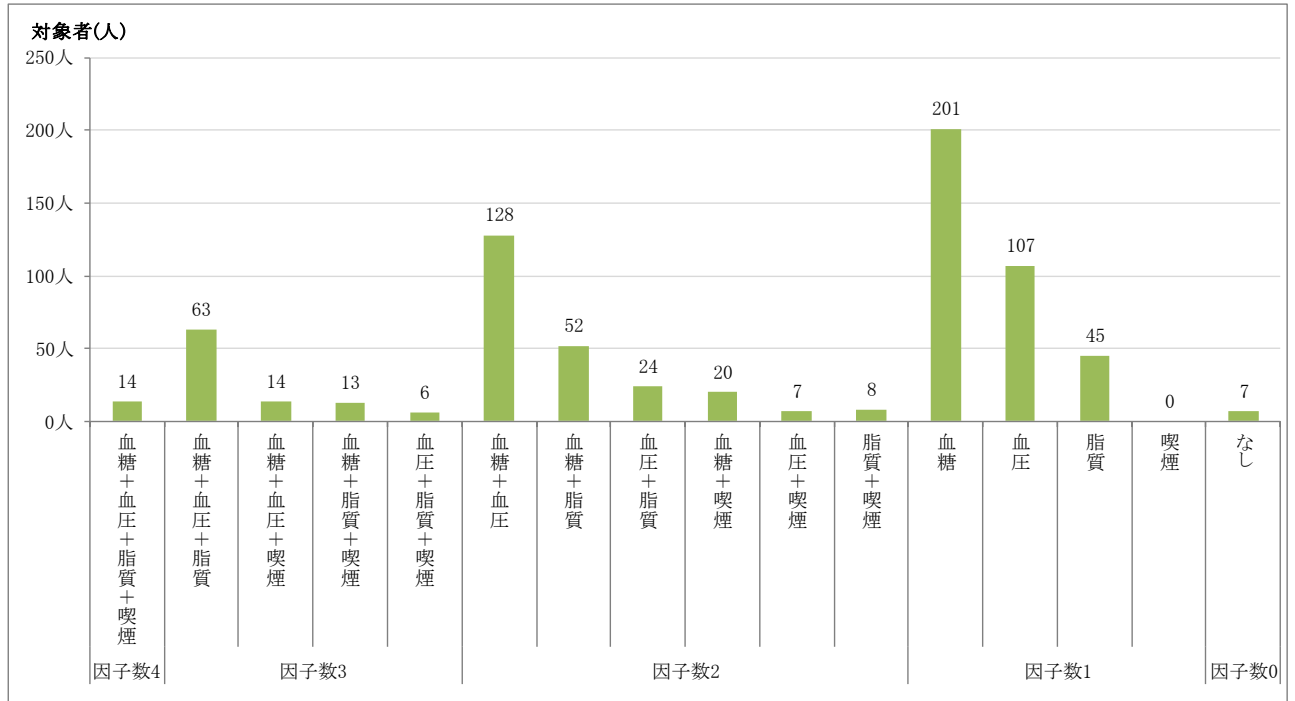
- ①血糖…特定健康診査の検査値において、空腹時血糖100mg/dl以上またはHbA1c5.6%以上(NGSP)
- ②血圧…特定健康診査の検査値において、収縮期血圧が130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上
- ③脂質…特定健康診査の検査値において、中性脂肪150mg/dl以上またはHDLコレステロール40mg/dl未満
- ④喫煙…特定健康診査の生活習慣に関する質問票においてたばこを習慣的に吸っていると回答

積極的支援対象者のリスク因子別該当状況



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)。
資格確認日…令和2年3月31日時点。

動機付け支援対象者のリスク因子別該当状況



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)。
資格確認日…令和2年3月31日時点。

(4) 健診異常値放置者に係る分析

特定健康診査では異常値があった場合、医療機関での精密検査を勧めている。しかし、異常値があるにもかかわらず、医療機関への受診をしていない者が存在する。これらの対象者をレセプトにより見極める。

「(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析」において「4. 医療機関受診勧奨対象者」のうち、医療機関への受診をしていない「健診異常値放置者」に該当する1,067人が健診異常値放置受診勧奨対象者となる。

条件設定による指導対象者の特定(健診異常値放置)

I. 条件設定による指導対象者の特定	
・健診異常値放置者 …健診受診後、医療機関へ受診していない人 厚生労働省受診勧奨判定値以上の検査数値のある人を対象とする	
条件設定により対象となった候補者数	1,067 人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)。
資格確認日…令和2年3月31日時点。

次に、指導対象者として適切ではない可能性がある患者を「除外設定」により除外する。「がん患者」「精神疾患患者」「難病患者」「認知症患者」に関しては、すでにこれらの疾患について医療機関での治療を受けており、健診異常が発生している状態についても認知していると考えられるためである。また、指導が困難な可能性がある患者、事業の効果を測定できない患者についても除外する。

除外設定(健診異常値放置)

II. 除外設定	
	除外理由別人数
除外	がん、精神疾患、難病、認知症 ※ 人工透析
	269 人
↓	
除外患者を除いた候補者数	798 人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)。
資格確認日…令和2年3月31日時点。
※がん、精神疾患、難病、認知症…疑い病名を含む。

次に、残る対象者798人のうち、保健事業の実施効果が高い対象者を特定する。これは費用対効果を重視し、「優先順位」を決めるためである。健診異常値放置受診勧奨対象者の判定は、厚生労働省の定める受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)を用いた結果、異常が認められ、かつ生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)に対するレセプトが発生していない対象者を特定する。ここでは受診勧奨判定異常値因子数(血糖、血圧、脂質)が多い患者を優先とし、喫煙は生活習慣病のリスクを高めることから、喫煙の有無によりリスクを判定した。

これら対象者はすべてが受診勧奨対象者ではあるが、通知件数の制約により優先順位を設定する必要がある場合、候補者Aより順に対象者を選択する。

優先順位(健診異常値放置)

Ⅲ. 優先順位			
↑高 効果 ↓低	医療機関受診勧奨判定異常値因子数 3つ	候補者A 0 人	候補者C 5 人
	医療機関受診勧奨判定異常値因子数 2つ	候補者B 25 人	候補者D 132 人
	医療機関受診勧奨判定異常値因子数 1つ	候補者E 107 人	候補者F 529 人
		喫煙	非喫煙
		←良 効率 悪→	
効果が高く効率の良い候補者A～候補者Fの人数			798 人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
 対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
 データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)。
 資格確認日…令和2年3月31日時点。

健診異常値放置者の判定について

- 健康診査にて異常値があるとされた被保険者を対象とし、健康診査受診後に医療機関への受診がない被保険者を健診異常値放置者と判定する。

(5)生活習慣病治療中断者に係る分析

生活習慣病は一度発症すると治癒することは少ないため病状の維持が重要となる。そのためには定期的な診療が必要であり、継続的な服薬が求められる。しかし、生活習慣病となった患者の中には服薬を適切に行わないケース、定期的な診療を自己の判断により止めてしまうケースがある。その結果、生活習慣病が進行し、脳卒中、心筋梗塞等の重篤な疾病を引き起こしてしまう可能性がある。

「(1)特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析」において治療中断が発生している患者141人が対象となる。

条件設定による指導対象者の特定(生活習慣病治療中断者)

I.条件設定による指導対象者の特定		
・生活習慣病治療中断者 …かつて、生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)で定期受診をしていたが、その後、定期受診を中断した患者		
指導対象者群 分析結果	6 治療中断者	候補者人数 107 人
	上記以外のグループ	34 人
条件設定により対象となった候補者数 (合計)		141 人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…令和2年3月31日時点。

上記以外のグループ…治療中断者は健康診査受診の有無にかかわらず発生する。「(1)特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析」では、最初の分岐で健康診査の受診の有無を見ているため、「6 治療中断者」には健康診査未受診者のみ格納される。事業を実施するためには健康診査受診者の治療中断者も併せて事業を実施する必要があるため、ここで健康診査受診者における治療中断者の人数を特定している。

次に、指導対象者として適切ではない可能性がある患者を「除外設定」により除外する。「がん患者」「精神疾患患者」「難病患者」「認知症患者」に関しては、すでにこれらの疾患について医療機関での治療を受けており、生活習慣病の治療を意図的に中止している可能性も考えられる。合わせて指導が困難な可能性がある患者、事業の効果を測定できない患者についても除外する。

除外設定(生活習慣病治療中断者)

II.除外設定		
除外	がん、精神疾患、難病、認知症 ※ 人工透析	除外理由別人数 1 人
		除外患者を除き、候補者となった患者数 140 人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…令和2年3月31日時点。
※がん、精神疾患、難病、認知症…疑い病名を含む。

次に、残る対象者140人のうち、保健事業の実施効果が高い対象者を特定する。これは費用対効果を重視し、「優先順位」を決めるためである。生活習慣病治療中断者の判定は、過去のレセプトデータから医療機関への受診頻度を確認し、その受診頻度に応じた期間を超えて、医療機関への受診が確認されない患者を特定する。ここでは生活習慣病の有病数が多い患者を優先とした。

優先順位(生活習慣病治療中断者)

Ⅲ. 優先順位				
↑高 効果 ↓低	生活習慣病有病数 3つ	候補者A1 3人	候補者A2 2人	候補者A3 0人
	生活習慣病有病数 2つ	候補者B1 4人	候補者B2 18人	候補者B3 7人
	生活習慣病有病数 1つ	候補者C1 11人	候補者C2 47人	候補者C3 48人
		毎月受診	2~3カ月に1度受診	4カ月以上の定期受診
効果が高く効率の良い候補者A1~候補者C3の患者数				140人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月~令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…令和2年3月31日時点。

生活習慣病治療中断者の判定について

- ・分析期間内において生活習慣病の治療を行っている人の生活習慣病での医療機関受診頻度を特定する。その後、毎月受診していた方が毎月受診せず中断している等、現在の受診状況と比較し、生活習慣病の医療機関受診を中断している判定を行う。

(6) 糖尿病性腎症重症化予防に係る分析

人工透析患者の分析を行った。「透析」は傷病名ではないため、「透析」にあたる診療行為が行われている患者を特定し、集計した。

分析の結果、起因が明らかとなった患者のうち、64.6%が生活習慣を起因とするものであり、その62.0%が糖尿病を起因として透析となる、糖尿病性腎症であることが分かった。

対象レセプト期間内で「透析」に関する診療行為が行われている患者数

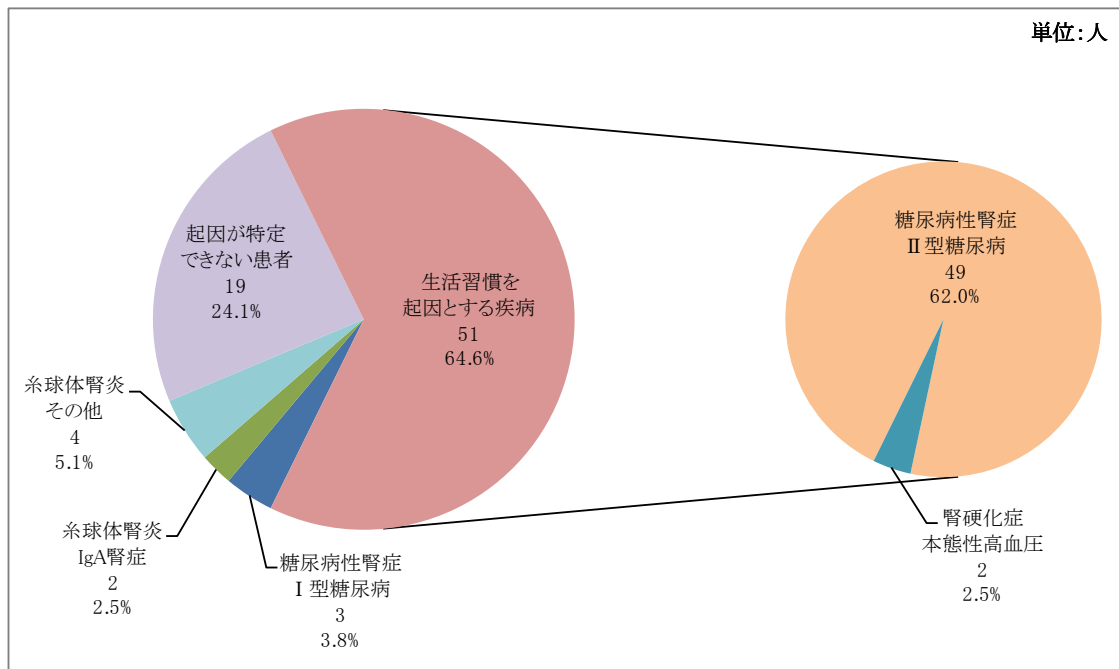
透析療法の種類	透析患者数 (人)
血液透析のみ	77
腹膜透析のみ	2
血液透析及び腹膜透析	0
透析患者合計	79

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

データ化範囲(分析対象)期間内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計。

現時点で資格喪失している被保険者についても集計する。緊急透析と思われる患者は除く。



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

データ化範囲(分析対象)期間内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計。

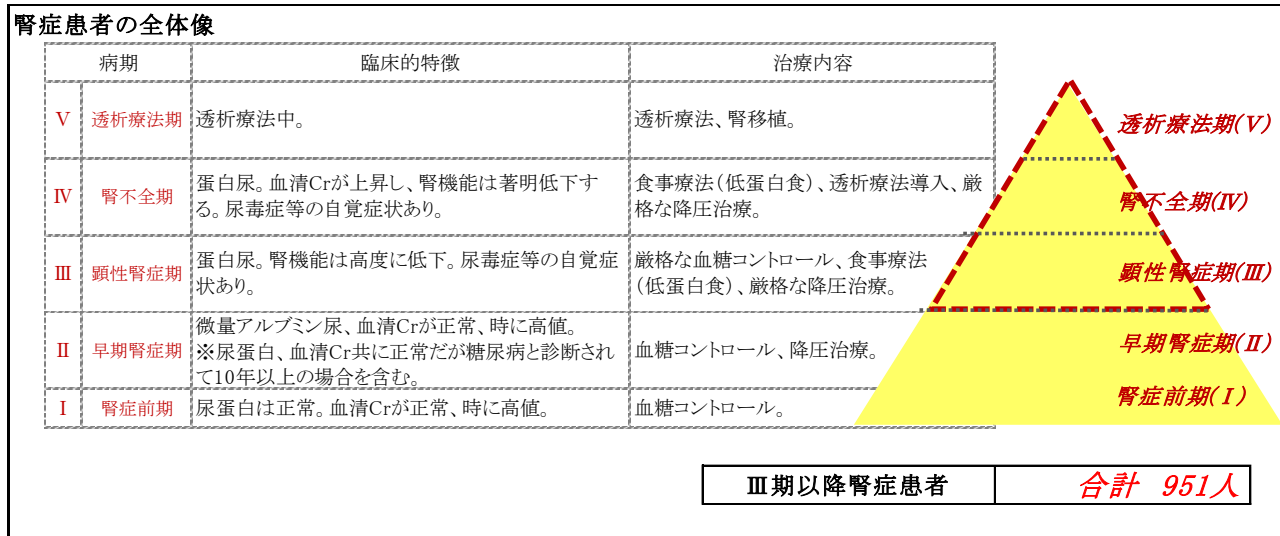
現時点で資格喪失している被保険者についても集計する。緊急透析と思われる患者は除く。

※割合…小数第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

「腎症の起因分析」「Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者」「保健指導対象者の優先順位」の3段階を経て分析し、適切な対象者集団を特定する。その結果、腎症患者951人中253人の適切な指導対象者を特定した。

腎症患者の全体像を以下に示す。

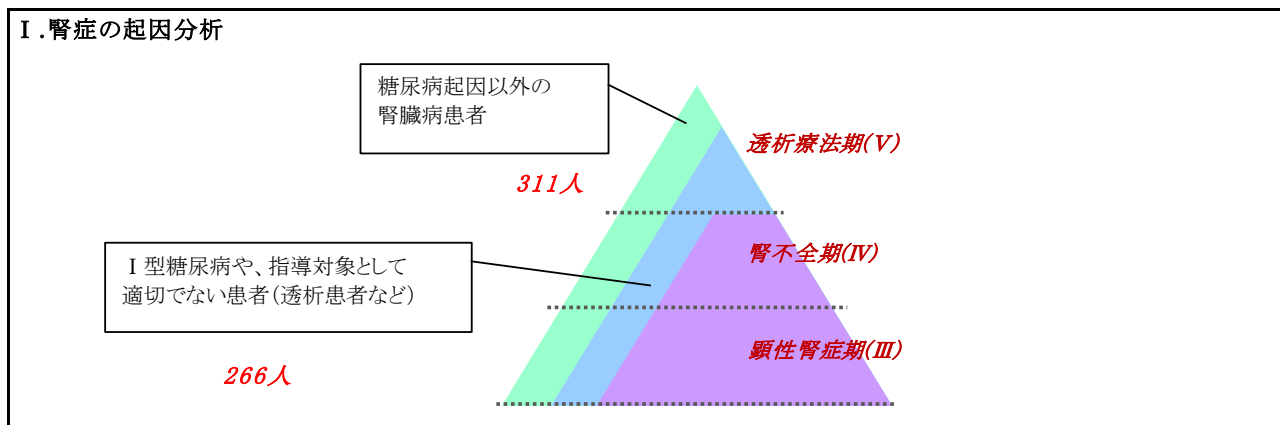
腎症患者の全体像



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
 対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
 資格確認日…令和2年3月31日時点。

「腎症の起因分析」を以下に示す。緑色部分は糖尿病起因以外の腎臓病患者と考えられ、311人の患者が存在する。また、青色部分は糖尿病患者であるが、生活習慣を起因としない糖尿病患者や、指導対象として適切でない患者(透析患者、腎臓移植した可能性がある患者、すでに資格喪失している等)と考えられ、266人の患者が存在する。紫色部分は生活習慣起因の糖尿病または腎症と考えられる患者で、この患者層が保健指導対象者として適切となる。

腎症の起因分析

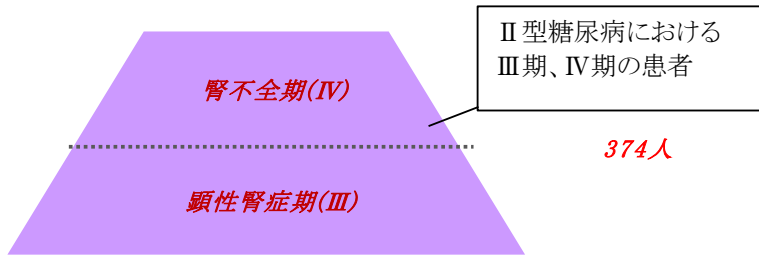


データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
 対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
 資格確認日…令和2年3月31日時点。

次に、「Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者」を以下の通り示す。腎不全期または顕性腎症期の患者は合わせて374人となった。重症化予防を実施するに当たり、適切な病期は、透析への移行が近い腎不全期、腎機能が急激に低下する顕性腎症期となる。

Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者

Ⅱ.Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…令和2年3月31日時点。

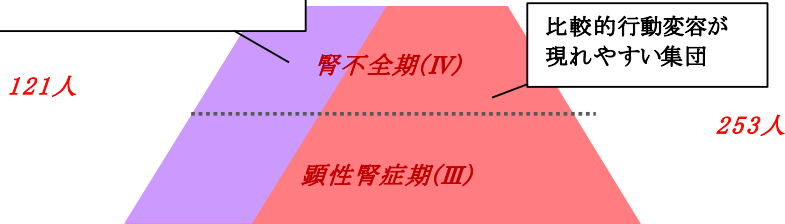
次に、個人毎の状態を見極め、「保健指導対象者の優先順位」について分析した。374人のうち「複雑なケースが含まれる集団」、つまり、がん、難病、精神疾患、認知症等が含まれる患者は、121人存在する。

一方、それらの疾病が確認できない「比較的行動変容が現れやすい集団」は、253人存在する。保健事業を行う上で、これら2つのグループには費用対効果に大きな違いがある。「比較的行動変容が現れやすい集団」が本事業の対象者である。

保健指導対象者の優先順位

Ⅲ.保健指導対象者の優先順位

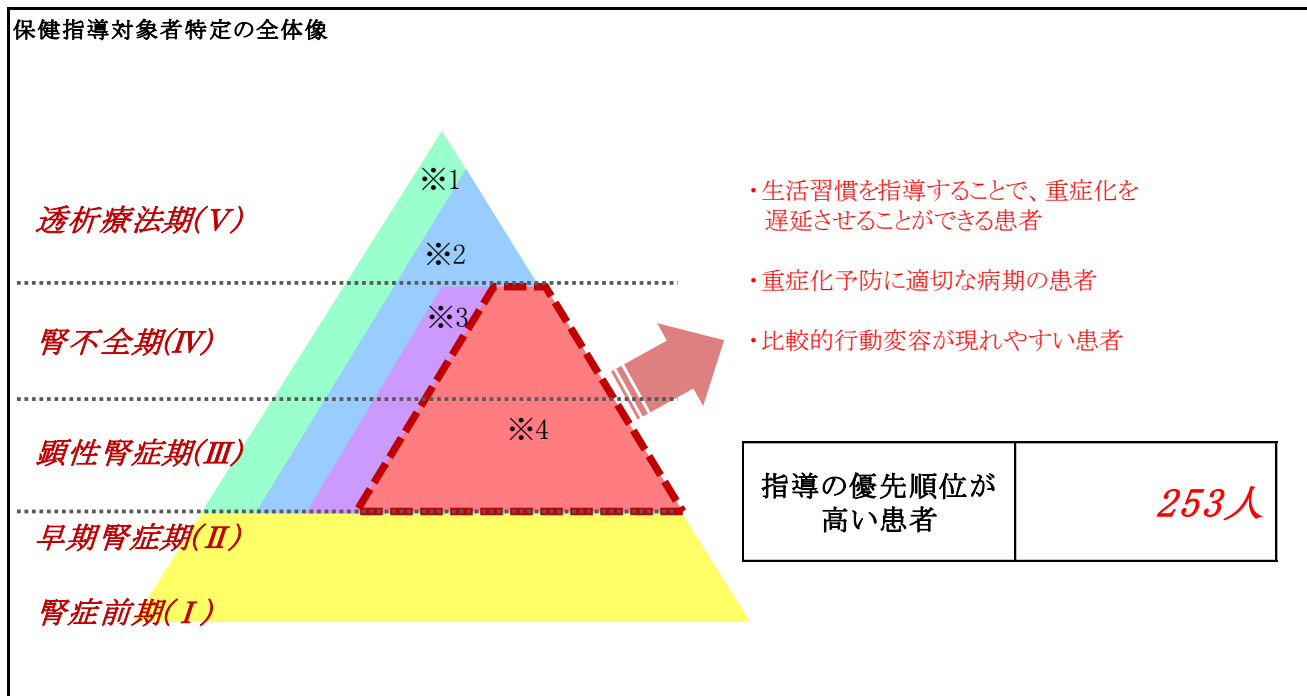
複雑なケースが含まれる集団
がん、難病、精神疾患、認知症、シャント、
透析予防指導管理料等を確認できる患者



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…令和2年3月31日時点。

以上の分析のように「腎症の起因分析」「Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者」「保健指導対象者の優先順位」の3段階を経て、適切な指導対象者は、253人となった。この分析の全体像を以下に示す。

保健指導対象者特定の全体像



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…令和2年3月31日時点。

※1…糖尿病起因以外の腎臓病患者

※2…Ⅰ型糖尿病や、指導対象として適切でない患者(透析患者等)

※3…複雑なケースが含まれる集団(がん、難病、精神疾患、認知症等を確認できる患者)

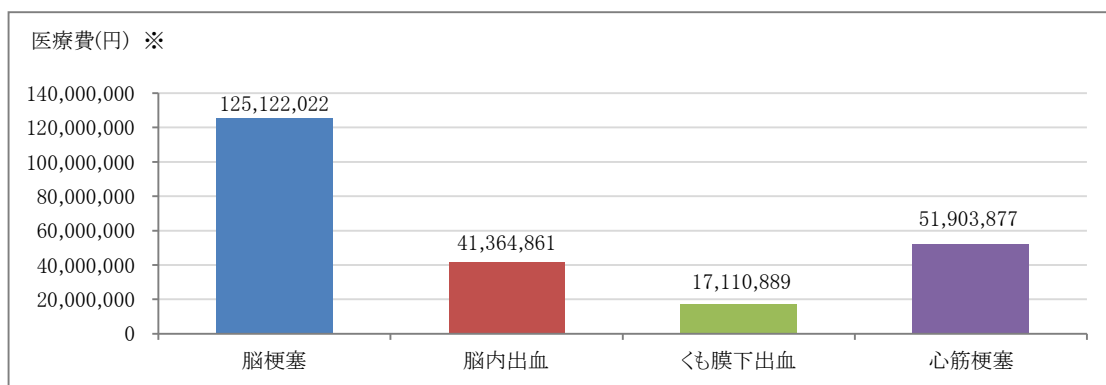
※4…比較的行動変容が現れやすい患者

(7)脳梗塞・心筋梗塞の発症予防に係る分析

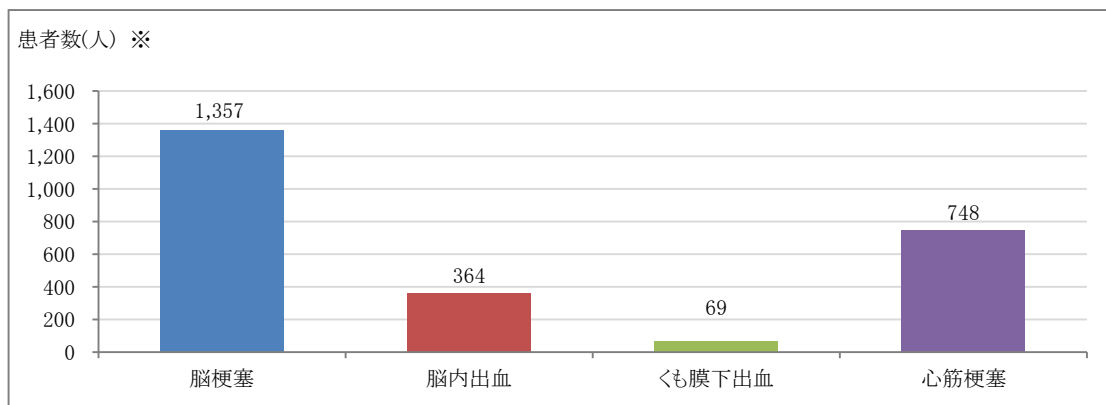
厚生労働省「平成30年人口動態統計」において死亡率の高い疾病第2位の心疾患、第4位の脳血管疾患に関して分析を行う。脳卒中においては後遺症が残る恐れがあり、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」において要介護者となった主な原因の第2位となっている。

脳卒中・心筋梗塞における疾病毎の医療費、患者数を集計する。生活習慣病から重篤化した疾患のなかでは、脳梗塞の患者数が多く、特に対策が必要な疾病であると考えられる。また、脳卒中・心筋梗塞においては再発率が高く、治療完了後の生活習慣の改善が必要となる。

脳卒中(脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血)、心筋梗塞における医療費



脳卒中(脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血)、心筋梗塞における患者数



疾病分類	医療費(円) ※	患者数 ※ (人)	一人当たり医療費(円)
脳梗塞	125,122,022	1,357	92,205
脳内出血	41,364,861	364	113,640
くも膜下出血	17,110,889	69	247,984
心筋梗塞	51,903,877	748	69,390

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

データ化範囲(分析対象)期間内に「脳卒中」もしくは「心筋梗塞」に関する診療行為がある患者を対象に集計。

株式会社データホライズン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…「0908その他の脳血管疾患」の分類内訳を「脳梗塞」「脳内出血」「くも膜下出血」に振り分けたため、中分類による疾病別医療費統計の分析結果と一致しない。

※患者数…一人の患者に複数の傷病名が確認できるため、合計は一致しない。

(8) 受診行動適正化に係る分析

多受診(重複受診、頻回受診、重複服薬)は、不適切な受診行動も含まれているため、これらの患者を正しい受診行動に導く指導が必要である。指導対象者数の分析結果は以下の通りである。

ひと月に同系の疾病を理由に複数の医療機関に受診している「重複受診者」や、ひと月に同一の医療機関に一定回数以上受診している「頻回受診者」、ひと月に同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、処方日数が一定以上の「重複服薬者」について平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)のレセプトデータを用いて分析した。

重複受診者数

	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月	令和2年1月	令和2年2月	令和2年3月
重複受診者数(人) ※	24	21	20	26	17	24	28	15	15	23	21	26
										12カ月間の延べ人数	260人	
										12カ月間の実人数	193人	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…令和2年3月31日時点。

株式会社データホライズン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※重複受診者数…1カ月間で同系の疾病を理由に3医療機関以上受診している患者を対象とする。透析中、治療行為を行っていないレセプトは対象外とする。

頻回受診者数

	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月	令和2年1月	令和2年2月	令和2年3月
頻回受診者数(人) ※	108	98	117	122	78	83	105	104	94	76	82	88
										12カ月間の延べ人数	1,155人	
										12カ月間の実人数	395人	

データ化範囲(分析対象)…入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…令和2年3月31日時点。

※頻回受診者数…1カ月間で12回以上受診している患者を対象とする。透析患者は対象外とする。

重複服薬者数

	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月	令和2年1月	令和2年2月	令和2年3月
重複服薬者数(人) ※	87	61	59	80	61	48	63	62	90	71	57	82
										12カ月間の延べ人数	821人	
										12カ月間の実人数	419人	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…令和2年3月31日時点。

※重複服薬者数…1カ月間で同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える患者を対象とする。

分析結果より、12カ月間で重複受診者は193人、頻回受診者は395人、重複服薬者は419人存在する。機械的に多受診患者を特定した場合、問題になるのは、その患者の多くに「必要な医療」の可能性がある患者も含まれることである。機械的に多受診患者を特定するのではなく、十分な分析の上、指導対象者を特定する必要がある。ここでは、平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)のレセプトを対象に、「条件設定による指導対象者の特定」「除外設定」「優先順位」の3段階を経て分析した。

はじめに、「条件設定による指導対象者の特定」を行う。重複受診・頻回受診・重複服薬を併せ持つ患者がいるため前述の分析結果より患者数は減少する。

条件設定による指導対象者の特定(重複受診者、頻回受診者、重複服薬者)

I. 条件設定による指導対象者の特定	
<ul style="list-style-type: none"> ・重複受診患者 …1カ月間で同系の疾病を理由に3医療機関以上受診している患者 ・頻回受診患者 …1カ月間で同一医療機関に12回以上受診している患者 ・重複服薬者 …1カ月間で同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える患者 	
条件設定により候補者となった患者数	943人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…令和2年3月31日時点。

次に、指導対象者として適切ではない可能性がある患者を「除外設定」により除外する。必要な医療の可能性がある患者、また指導が困難な可能性がある患者、事業の効果を測定できない患者についても除外する。

除外設定(重複受診者、頻回受診者、重複服薬者)

II. 除外設定		除外理由別人数
除外	がん、精神疾患、難病、認知症 ※ 人工透析	655人
↓		
除外患者を除き、候補者となった患者数		288人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…令和2年3月31日時点。

※がん、精神疾患、難病、認知症…疑い病名を含む。

次に、残る対象者288人のうち、指導することでより効果が高く、より効率の良い対象者を特定する。これらは費用対効果を重視し、「優先順位」を決めるためである。効果については、レセプト期間最終月から、6カ月間遡ったレセプトのうち5～6カ月重複受診・頻回受診・重複服薬に該当する患者を最優先する。効率については、指導のアポイントメントが取りやすい等の理由から60歳以上を最優先とし、次に、50歳～59歳を対象とした。以下の通り、効果が高く効率の良い候補者A～候補者Fは25人となった。

優先順位(重複受診者、頻回受診者、重複服薬者)

Ⅲ.優先順位				
↑高 効果 ↓低	最新6カ月レセプトのうち 5～6カ月 重複・頻回・重複服薬に 該当する患者	候補者A 8人	候補者C 3人	候補者 としない
	最新6カ月レセプトのうち 3～4カ月 重複・頻回・重複服薬に 該当する患者	候補者B 10人	候補者D 1人	
	最新6カ月レセプトのうち 2カ月 重複・頻回・重複服薬に 該当する患者 (ただし直近2カ月レセに該当)	候補者E 2人	候補者F 1人	
	その他の 重複・頻回・重複服薬患者			263人
	60歳以上	50～59歳	50歳未満	
←良 効率 悪→				
効果が高く効率の良い候補者A～候補者Fの患者数			25人	

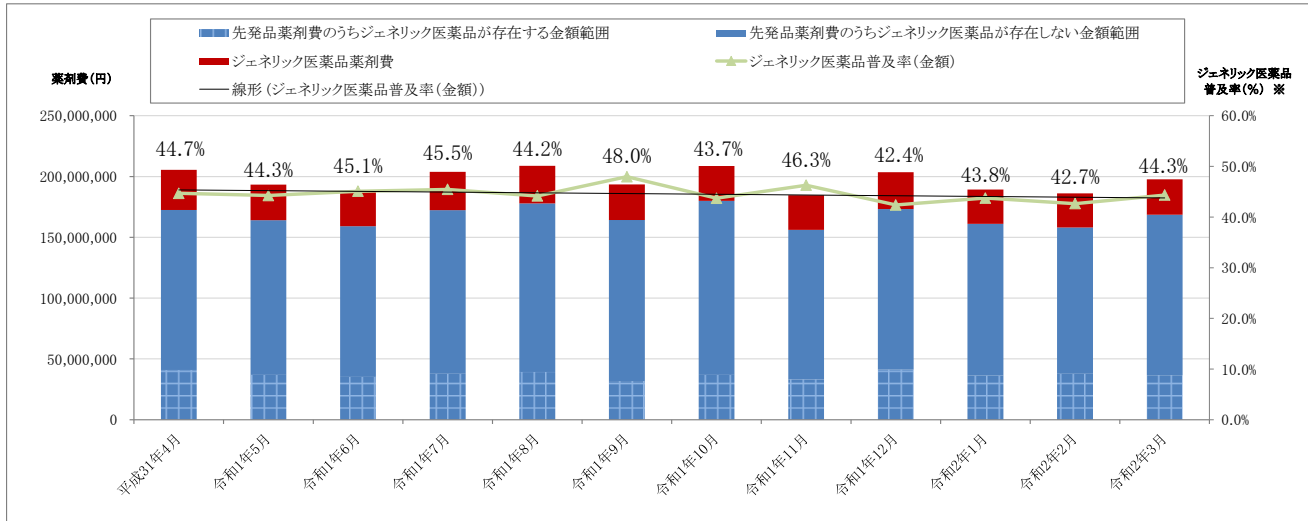
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…令和2年3月31日時点。

(9) ジェネリック医薬品普及率に係る分析

先発医薬品からジェネリック医薬品への切り替えを患者に促し薬剤費の削減を図る。ジェネリック医薬品への切り替えは複数の疾病に対して行うことができるため、多くの患者に対してアプローチできる利点がある。

以下に、平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)のジェネリック医薬品普及率(金額ベース・数量ベース)を示す。現在、ジェネリック医薬品普及率は44.5%(金額ベース)、72.7%(数量ベース)である。

ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)

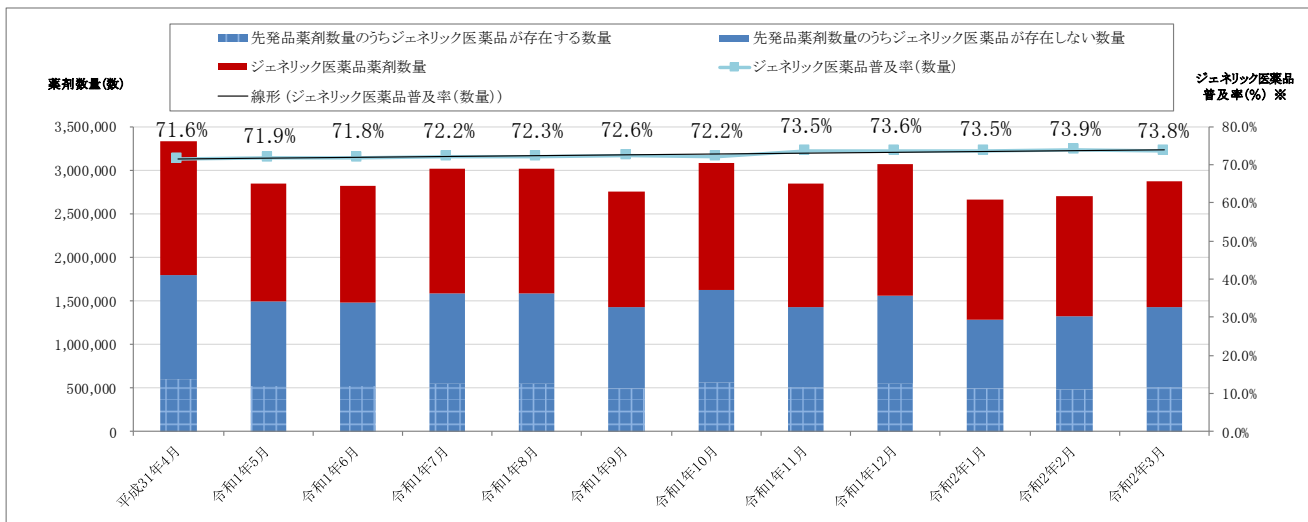


データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤費/(ジェネリック医薬品薬剤費+先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲)

ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)



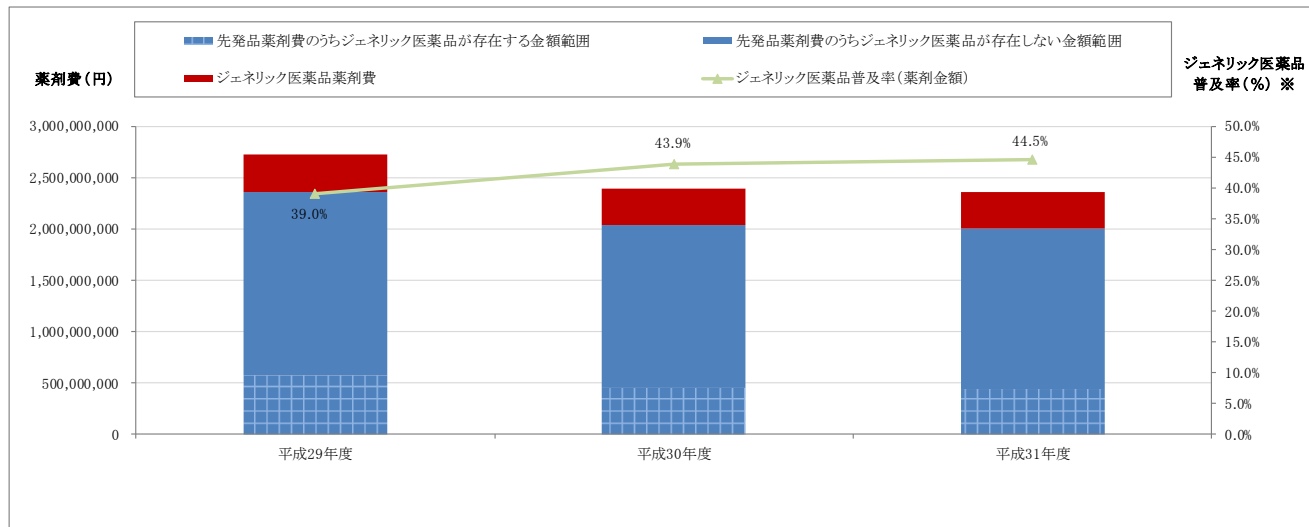
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤数量/(ジェネリック医薬品薬剤数量+先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量)

平成29年度から平成31年度における、ジェネリック医薬品普及率(金額ベース・数量ベース)を年度別に示す。平成31年度ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)44.5%は、平成29年度39.0%より5.5ポイント上昇しており、平成31年度ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)72.7%は、平成29年度64.1%より8.6ポイント上昇している。

年度別 ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)

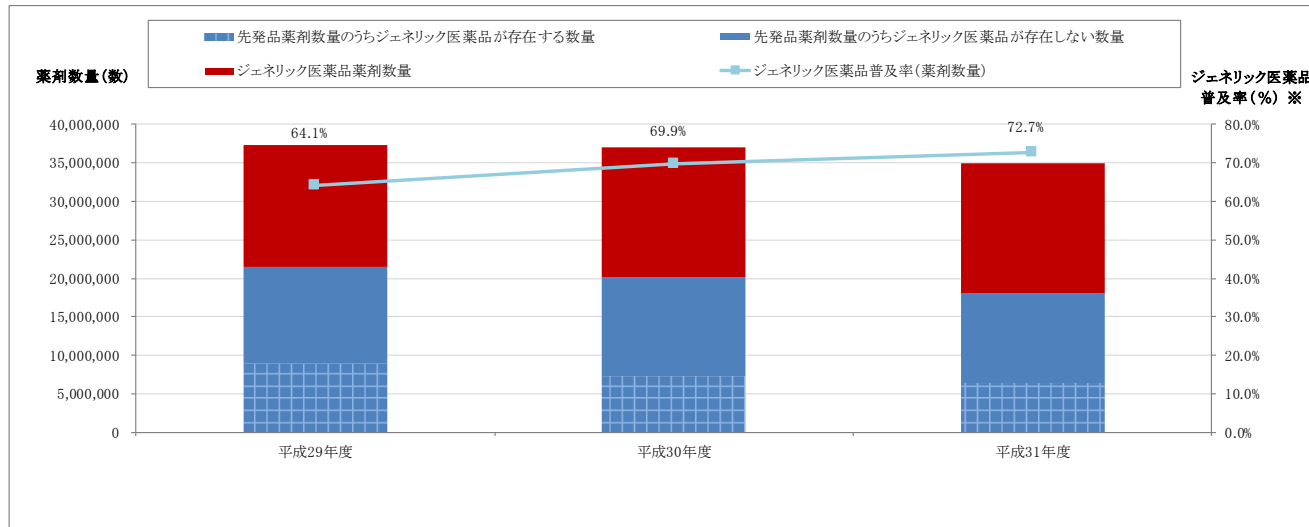


データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤費/(ジェネリック医薬品薬剤費+先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲)

年度別 ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)



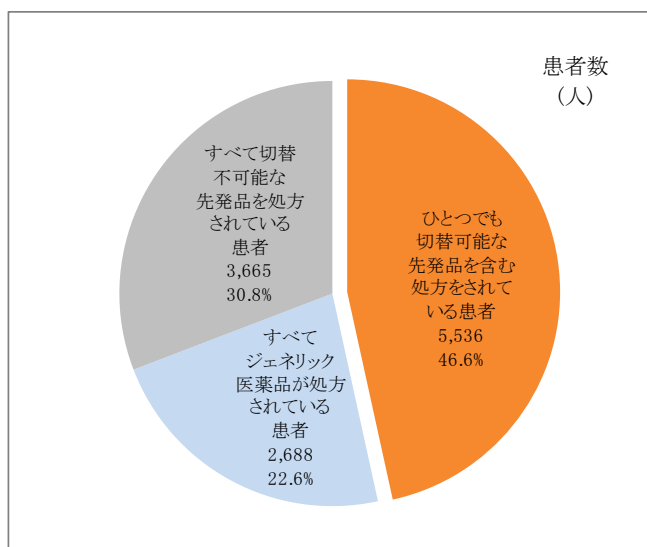
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成29年4月～令和2年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

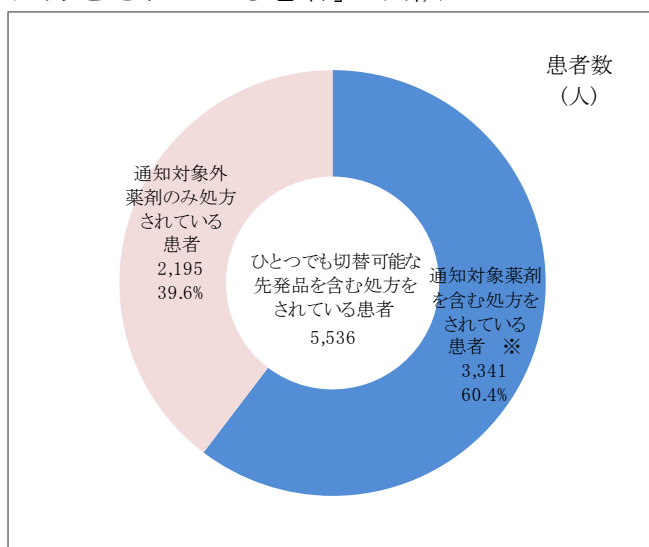
※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤数量/(ジェネリック医薬品薬剤数量+先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量)

次に、令和2年3月診療分のレセプトで薬剤処方状況別の患者数を以下に示す。患者数は11,889人(入院レセプトのみの患者は除く)で、このうちひとつでもジェネリック医薬品に切り替え可能な先発品を含む処方をされている患者は5,536人で患者数全体の46.6%を占める。さらにこのうちデータ分析会社基準の通知対象薬剤のみに絞り込むと、3,341人がジェネリック医薬品切り替え可能な薬剤を含む処方をされている患者となり、ひとつでもジェネリック医薬品に切り替え可能な先発品を含む処方をされている患者の60.4%を占める。

ジェネリック医薬品への切り替えポテンシャル(患者数ベース)



「ひとつでも切替可能な先発品を含む処方をされている患者」の内訳



データ化範囲(分析対象)…入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は令和2年3月診療分(1カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

※通知対象薬剤を含む処方をされている患者…データ分析会社通知対象薬剤基準による(ジェネリック医薬品が存在しても、入院、処置に使用した医薬品及び、がん・精神疾患・短期処方ものは含まない)。

※構成比…小数第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

(10) 薬剤併用禁忌に係る分析

薬剤の相互作用は、効果の増強または減弱、副作用などを生じさせ、時に患者に重大な影響を与える可能性がある。通常、薬剤師がお薬手帳等で薬剤の相互作用等を確認するが、患者がお薬手帳を持たず、さらに処方箋発行医療機関と処方する調剤薬局も異なる場合、すでに処方された薬と新たに処方される薬とで併用禁忌の状態になる可能性がある。

現在、平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)の対象者延べ人数は782人、実人数は505人である。

薬剤併用禁忌対象者数

	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月	令和2年1月	令和2年2月	令和2年3月
薬剤併用禁忌対象者数(人)※	56	60	61	60	52	56	72	70	87	88	71	49
12カ月間の延べ人数											782 人	
12カ月間の実人数											505 人	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)

資格確認日…令和2年3月31日時点。

※薬剤併用禁忌対象者…1カ月間に併用禁忌とされる薬剤を処方された人を対象とする。

主な併用禁忌の組み合わせを以下に示す。

実人数(人)	505
件数合計(件)	1,150

薬剤併用禁忌 医薬品リスト

No.	(A) 剤型名	(A) 医薬品 コード	(A) 医薬品名	(B) 剤型名	(B) 医薬品 コード	(B) 医薬品名	件数
1	内服	620002023	カロナール錠200 200mg	内服	620160801	トーフチーム配合顆粒	156
2	内服	621498101	カプロデN配合錠	内服	620002023	カロナール錠200 200mg	66
3	内服	620002023	カロナール錠200 200mg	内服	620161401	ビーエイ配合錠	53
4	内服	620002023	カロナール錠200 200mg	内服	620160501	PL配合顆粒	47
5	内服	621498101	カプロデN配合錠	内服	620161401	ビーエイ配合錠	33
6	内服	622028401	インヴェガ錠9mg	内服	620005628	リスベリドン錠3mg「アメル」	30
7	内服	622028401	インヴェガ錠9mg	内服	620008163	リスベリドン内用液分包装2mg「アメル」 0.1%2mL	29
8	内服	611170692	バルネチール錠100 100mg	内服	620145314	ハロベリドン錠3mg「ヨシトミ」	25
9	内服	611170692	バルネチール錠100 100mg	内服	611170713	コントミン糖衣錠12.5mg	21
10	内服	611170692	バルネチール錠100 100mg	内服	611170743	コントミン糖衣錠50mg	21
11	内服	620000033	カロナール錠300 300mg	内服	620161401	ビーエイ配合錠	17
12	内服	620002023	カロナール錠200 200mg	内服	622652301	トアラセット配合錠「日医工」	15
13	内服	611170692	バルネチール錠100 100mg	内服	622502201	オランザピン錠10mg「明治」	15
14	内服	621220702	スルトブリド塩酸塩錠100mg「ヨシトミ」	内服	610453151	レボミン錠25mg	14
15	内服	621498101	カプロデN配合錠	内服	620160501	PL配合顆粒	12
16	内服	620008614	ケーサプライ錠600mg	内服	620005824	セララ錠25mg	12
17	内服	622556801	アセトアミノフェン錠200mg「マルイシ」	内服	622666801	トアラセット配合錠「オーハラ」	11
18	内服	621498101	カプロデN配合錠	内服	622381201	カロナール錠500 500mg	11
19	内服	621220702	スルトブリド塩酸塩錠100mg「ヨシトミ」	内服	622504001	オランザピンOD錠10mg「ヨシトミ」	11
20	内服	621220802	スルトブリド塩酸塩錠200mg「ヨシトミ」	内服	611170325	セルナミン錠(50mg)	11
21	内服	621220802	スルトブリド塩酸塩錠200mg「ヨシトミ」	内服	620005616	リスベリドン錠2mg「アメル」	11
22	内服	621981002	スルトブリド塩酸塩錠50mg「ヨシトミ」	内服	611170325	セルナミン錠(50mg)	11
23	内服	621981002	スルトブリド塩酸塩錠50mg「ヨシトミ」	内服	620005616	リスベリドン錠2mg「アメル」	11
24	外用	620518102	ボスミン外用液0.1%	外用	660421117	ホクナリンテープ2mg	11
25	内服	620002023	カロナール錠200 200mg	内服	620160601	サラザック配合顆粒	10
26	内服	621220702	スルトブリド塩酸塩錠100mg「ヨシトミ」	内服	622028301	インヴェガ錠6mg	10
27	内服	621220702	スルトブリド塩酸塩錠100mg「ヨシトミ」	内服	620145202	ハロベリドン錠2mg「ヨシトミ」	10
28	内服	621220702	スルトブリド塩酸塩錠100mg「ヨシトミ」	内服	620000170	リスバダール錠3mg	10
29	内服	621220702	スルトブリド塩酸塩錠100mg「ヨシトミ」	内服	610462014	リスバダール内用液1mg/mL 0.1%	10
30	内服	621220702	スルトブリド塩酸塩錠100mg「ヨシトミ」	内服	610453151	レボミン錠5mg	10
31	内服	620002023	カロナール錠200 200mg	内服	622081101	トラムセット配合錠	9
32	外用	620518102	ボスミン外用液0.1%	外用	621829601	アドエア250ディスカス60吸入用 60プリスター	9
33	内服	621558101	SG配合顆粒	内服	622081101	トラムセット配合錠	8
34	内服	620000033	カロナール錠300 300mg	内服	620160501	PL配合顆粒	8
35	内服	621220802	スルトブリド塩酸塩錠200mg「ヨシトミ」	内服	620131601	レボメプロマジン錠25mg「ツルハラ」	8
36	内服	621981002	スルトブリド塩酸塩錠50mg「ヨシトミ」	内服	620131601	レボメプロマジン錠25mg「ツルハラ」	8
37	内服	620160801	トーフチーム配合顆粒	内服	622081101	トラムセット配合錠	8
38	内服	620161401	ビーエイ配合錠	内服	622556801	アセトアミノフェン錠200mg「マルイシ」	8
39	外用	620518102	ボスミン外用液0.1%	外用	660421116	ホクナリンテープ1mg	8
40	内服	620160501	PL配合顆粒	内服	621558101	SG配合顆粒	7
41	内服	622028301	インヴェガ錠6mg	内服	620005604	リスベリドン錠1mg「アメル」	7
42	内服	622028301	インヴェガ錠6mg	内服	621975402	リスベリドン内用液1mg/mL「MEEK」 0.1%	7
43	内服	620002023	カロナール錠200 200mg	内服	620160301	ペレックス配合顆粒	6
44	内服	622281101	タクロリムス錠1.5mg「トーフ」	内服	620266132	スピロラクトン錠25mg「日医工」	6
45	外用	620518102	ボスミン外用液0.1%	外用	621950801	シムビコートタービュヘイラー60吸入	6
46	内服	622556801	アセトアミノフェン錠200mg「マルイシ」	内服	621498101	カプロデN配合錠	5
47	内服	620002022	カロナール細粒20%	内服	620161401	ビーエイ配合錠	5
48	内服	620000033	カロナール錠300 300mg	内服	622661701	トアラセット配合錠「杏林」	5
49	内服	622381201	カロナール錠500 500mg	内服	620161401	ビーエイ配合錠	5
50	内服	622081101	トラムセット配合錠	内服	620160501	PL配合顆粒	5

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
 対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。
 資格確認日…令和2年3月31日時点。
 ※リストは51件以上省略

(11) 服薬情報に係る分析

薬剤の多剤服薬は、副作用が起りやすく様々なリスクがある。特に高齢者に起りやすい副作用にはふらつき・転倒、物忘れがある。転倒による骨折をきっかけに寝たきりになったり、うつ、せん妄、食欲低下、便秘、排尿障害等が起りやすくなる。

本分析では、服薬状況を把握し適切な服薬を促すことを目的に、対象となる患者の特定を行う。薬剤種類数別対象者数は以下の通りである。複数医療機関から内服薬が長期(14日以上)処方されており、その長期処方の内服薬が6種類以上の対象者は1,266人である。

薬剤種類数別対象者数

年齢階層		対象者数(人)								合計
		～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～	
被保険者数(人)		5,738	1,384	1,622	1,510	1,653	3,023	5,795	8,259	28,984
薬剤種類数	2種類	26	4	10	5	7	23	53	74	202
	3種類	27	7	17	12	7	43	98	133	344
	4種類	25	11	12	12	14	31	101	152	358
	5種類	18	3	11	10	20	34	116	144	356
	6種類	16	7	8	6	8	31	91	134	301
	7種類	9	5	13	15	15	29	77	114	277
	8種類	4	5	4	2	11	14	56	88	184
	9種類	8	3	4	8	10	20	40	77	170
	10種類	3	3	1	3	3	14	29	40	96
	11種類	1	1	4	3	6	11	15	27	68
	12種類	4	2	2	5	2	7	9	15	46
	13種類	1	0	4	6	5	3	9	18	46
	14種類	0	0	3	2	2	1	6	6	20
	15種類	1	1	0	3	3	2	3	4	17
	16種類	2	1	1	0	1	2	1	5	13
	17種類	0	0	0	0	1	2	1	2	6
	18種類	0	0	2	1	2	0	0	1	6
	19種類	1	0	0	0	1	0	0	0	2
	20種類	0	2	1	0	1	0	0	4	8
	21種類以上	0	2	0	0	1	0	1	2	6
	合計		146	57	97	93	120	267	706	1,040



長期多剤服薬者数(人)※	1,266
--------------	-------

データ化範囲(分析対象)…入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は令和1年12月～令和2年3月診療分(4カ月分)。

長期(14日以上)処方されている内服薬を集計対象とする。

※長期多剤服薬者数…複数医療機関から内服薬が長期(14日以上)処方されており、その長期処方の内服薬が6種類以上の人数。

また、長期多剤服薬者1,266人が被保険者全体に占める割合は4.4%、長期服薬者全体に占める割合は50.1%である。

長期多剤服薬者の状況

		～39歳	40歳 ～44歳	45歳 ～49歳	50歳 ～54歳	55歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 ～69歳	70歳～	合計
A	被保険者数(人)	5,738	1,384	1,622	1,510	1,653	3,023	5,795	8,259	28,984
B	長期服薬者数(人)※	146	57	97	93	120	267	706	1,040	2,526
C	長期多剤服薬者数(人)※	50	32	47	54	72	136	338	537	1,266
C/A	被保険者数に占める 長期多剤服薬者割合(%)	0.9%	2.3%	2.9%	3.6%	4.4%	4.5%	5.8%	6.5%	4.4%
C/B	長期服薬者数に占める 長期多剤服薬者割合(%)	34.2%	56.1%	48.5%	58.1%	60.0%	50.9%	47.9%	51.6%	50.1%

データ化範囲(分析対象)…入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は令和1年12月～令和2年3月診療分(4カ月分)。

長期(14日以上)処方されている内服薬を集計対象とする。

※長期服薬者数…複数医療機関から内服薬が長期(14日以上)処方されている人数。

※長期多剤服薬者数…複数医療機関から内服薬が長期(14日以上)処方されており、その長期処方の内服薬が6種類以上の人数。

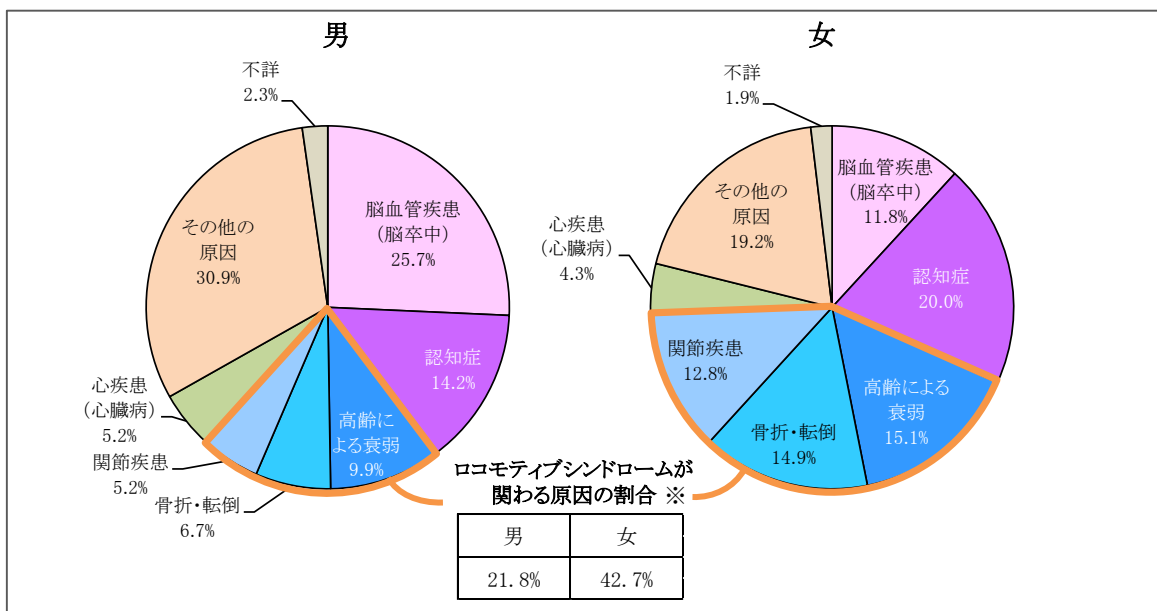
(12) ロコモティブシンドロームに係る分析

ロコモティブシンドロームは日本整形外科学会が平成19年に提唱した概念で、筋肉・骨・関節・軟骨・椎間板といった運動器の障害により、歩行や日常生活に何らかの障害をきたしている状態、または、そうなるリスクが高い状態をいう。和名は「運動器症候群」である。自立度が低下し、要介護状態となる危険性が高い。

増え続ける要介護人口の歯止めとして、ロコモティブシンドローム対策の必要性は極めて高い。

① ロコモティブシンドロームの現状

[全国] 性別にみた介護が必要となった主な原因の構成



出典:「国民生活基礎調査」厚生労働省 平成28年

※「高齢による衰弱」は、ロコモティブシンドローム原因疾患であるサルコペニアが原因のひとつであり、運動器障害との関連があることからロコモティブシンドロームが関わる原因に加えている。

[全国] 要介護度別にみた介護が必要となった主な原因(上位3位)

要介護度	第1位		第2位		第3位	
総数	認知症	18.0	脳血管疾患(脳卒中)	16.6	高齢による衰弱	13.3
要支援者	関節疾患	17.2	高齢による衰弱	16.2	骨折・転倒	15.2
要支援1	関節疾患	20.0	高齢による衰弱	18.4	脳血管疾患(脳卒中)	11.5
要支援2	骨折・転倒	18.4	関節疾患	14.7	脳血管疾患(脳卒中)	14.6
要介護者	認知症	24.8	脳血管疾患(脳卒中)	18.4	高齢による衰弱	12.1
要介護1	認知症	24.8	高齢による衰弱	13.6	脳血管疾患(脳卒中)	11.9
要介護2	認知症	22.8	脳血管疾患(脳卒中)	17.9	高齢による衰弱	13.3
要介護3	認知症	30.3	脳血管疾患(脳卒中)	19.8	高齢による衰弱	12.8
要介護4	認知症	25.4	脳血管疾患(脳卒中)	23.1	骨折・転倒	12.0
要介護5	脳血管疾患(脳卒中)	30.8	認知症	20.4	骨折・転倒	10.2

出典:「国民生活基礎調査」厚生労働省 平成28年

②ロコモティブシンドロームの原因疾患と患者の実態

筑西市国民健康保険におけるロコモティブシンドローム原因疾患のレセプトが存在する患者数を示す。40歳以上の男女が対象者である。

条件設定による指導対象者の特定(ロコモティブシンドローム)

I.条件設定による指導対象者の特定

原因疾患のレセプトが存在し、候補者となった患者数

5,183人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。対象年齢は40歳以上。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

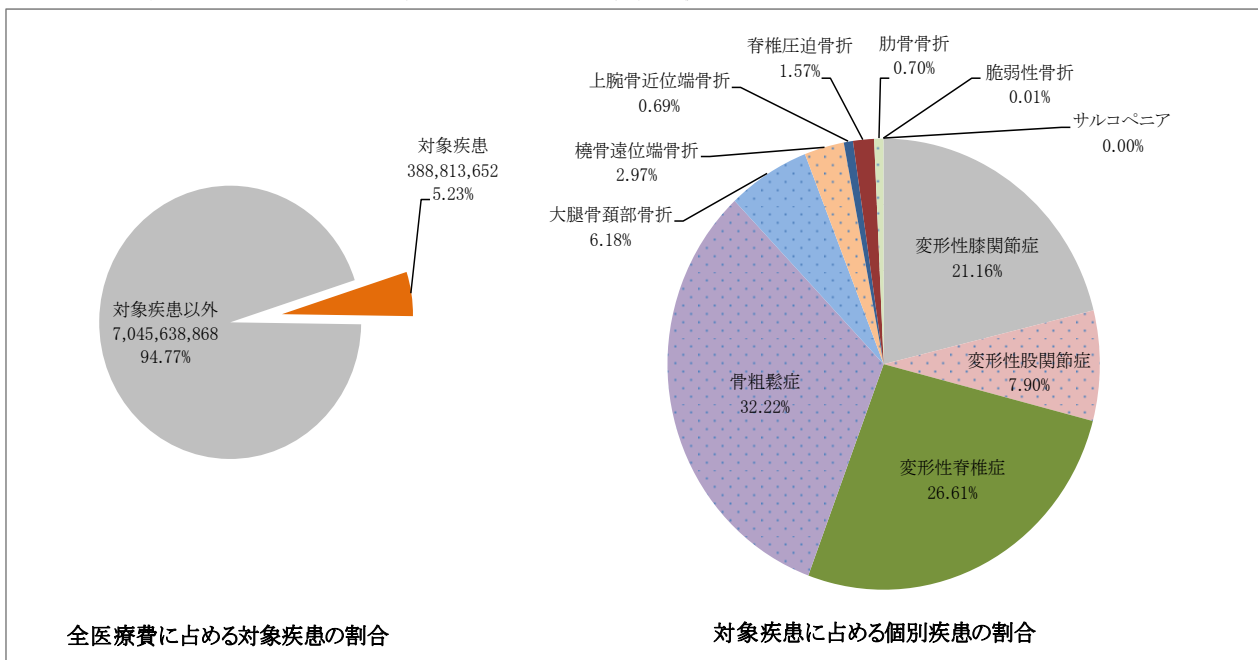
※ロコモティブシンドローム原因疾患は「ロコモティブシンドローム診療ガイド2010(日本整形外科学会 編)」に基づき、株式会社データホライズンにて以下関連疾病を選定。

※原因疾患…変形性膝関節症、変形性股関節症、変形性脊椎症(頸椎症、腰部脊柱管狭窄症)、骨粗鬆症、骨折(大腿部頸部(近位部)骨折、橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折、脊椎(圧迫)骨折、肋骨骨折、脆弱性骨折)、サルコペニア

※サルコペニア…筋肉量が低下し、筋力または身体能力が低下した状態。

ロコモティブシンドローム原因疾患別医療費をグラフにて示す。医療費総計の約5.23%をロコモティブシンドローム原因疾患が占め、中には要支援及び要介護の主な原因である「関節疾患」「骨折・転倒」に関連する疾病が多く含まれる。

ロコモティブシンドローム原因疾患別医療費の状況



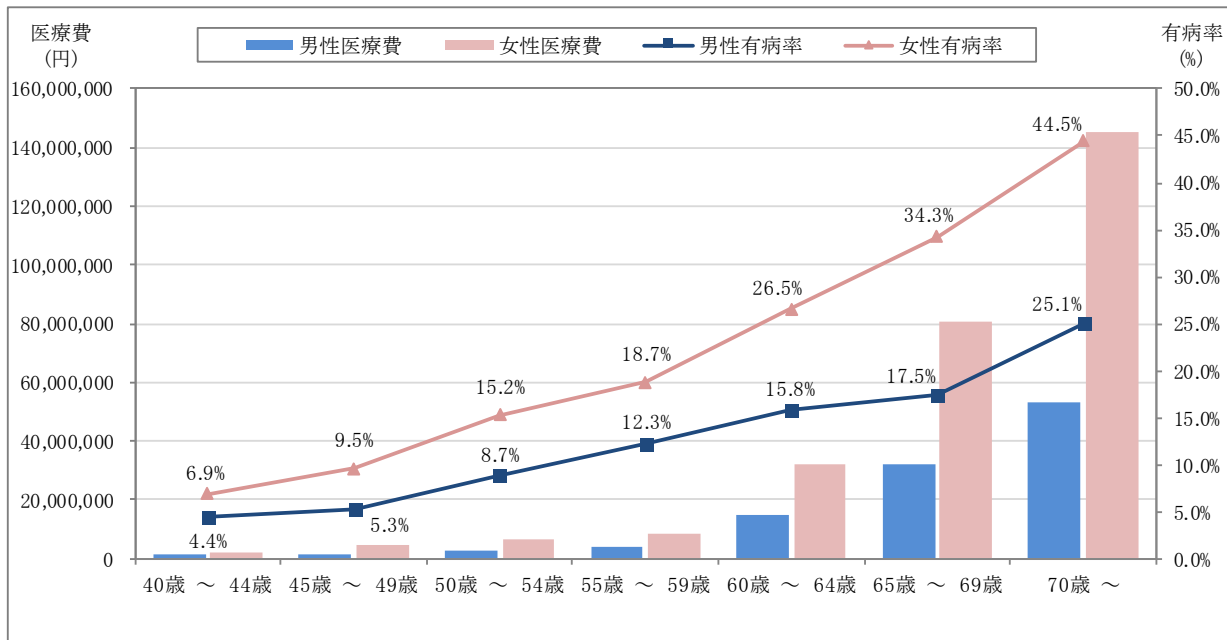
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。対象年齢は40歳以上。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

年齢階層別・男女別のロコモティブシンドローム原因疾患有病率と原因疾患医療費を以下に示す。加齢が進むにつれて患者数が増え医療費が急速に増大する傾向にある。

年齢階層別・男女別 ロコモティブシンドローム原因疾患 有病率と医療費



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。対象年齢は40歳以上。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

5. 分析結果に基づく健康課題の把握

(1) 分析結果

平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)における分析結果と平成29年度から平成31年度における分析結果を以下にまとめた。

筑西市国民健康保険の抱える課題は、生活習慣病及び新生物への対策が課題であると言える。

① 疾病大分類

【平成31年度】

医療費では循環器系の疾患が第2位、内分泌、栄養及び代謝疾患が第3位、患者数では内分泌、栄養及び代謝疾患が第2位と生活習慣病が上位を占めていた。新生物<腫瘍>についても医療費では第1位、患者一人当たり医療費では第2位と順位が高い。また、患者一人当たり医療費の第1位である周産期に発生した病態、第3位の精神及び行動の障害については、福祉部門・母子部門へ情報提供し、連携を取っていく。

医療費が高い疾病		医療費	構成比
1位	新生物<腫瘍>	1,304,524,591円	16.0%
2位	循環器系の疾患	1,124,086,519円	13.8%
3位	内分泌、栄養及び代謝疾患	897,415,936円	11.0%

患者数が多い疾病		患者数
1位	呼吸器系の疾患	12,683人
2位	内分泌、栄養及び代謝疾患	12,542人
3位	消化器系の疾患	12,050人

患者一人当たりの医療費が高額な疾病		患者一人当たりの医療費
1位	周産期に発生した病態	257,935円
2位	新生物<腫瘍>	181,411円
3位	精神及び行動の障害	163,774円

【平成29年度～平成31年度】

平成29年度～平成31年度の疾病大分類について、医療費が高い疾病をみると、順位に変動はあるものの、新生物<腫瘍>、循環器系の疾患、内分泌、栄養及び代謝疾患が上位を占めている。

医療費が高い疾病			医療費	構成比
平成29年度	1位	循環器系の疾患	1,324,220,300円	15.2%
	2位	新生物<腫瘍>	1,274,907,664円	14.6%
	3位	内分泌、栄養及び代謝疾患	978,076,188円	11.2%
平成30年度	1位	新生物<腫瘍>	1,297,273,704円	15.8%
	2位	循環器系の疾患	1,207,361,933円	14.7%
	3位	内分泌、栄養及び代謝疾患	923,457,230円	11.2%
平成31年度	1位	新生物<腫瘍>	1,304,524,591円	16.0%
	2位	循環器系の疾患	1,124,086,519円	13.8%
	3位	内分泌、栄養及び代謝疾患	897,415,936円	11.0%

②疾病中分類

【平成31年度】

大分類を細分化し、中分類で分析を行った結果、糖尿病が医療費と患者数で第1位、高血圧性疾患が医療費で第3位、患者数で第2位であった。

医療費が高い疾病		医療費	構成比
1位	糖尿病	479,650,987円	5.9%
2位	その他の悪性新生物<腫瘍>	442,827,051円	5.4%
3位	高血圧性疾患	439,362,980円	5.4%

患者数が多い疾病		患者数
1位	糖尿病	9,130人
2位	高血圧性疾患	8,946人
3位	その他の消化器系の疾患	7,783人

患者一人当たりの医療費が高額な疾病		患者一人当たりの医療費
1位	白血病	1,315,569円
2位	腎不全	519,228円
3位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	389,986円

【平成29年度～平成31年度】

平成29年度～平成31年度の疾病中分類について、医療費が高い疾病をみると、順位に変動はあるものの、糖尿病、その他の悪性新生物<腫瘍>、高血圧性疾病が上位を占めている。

医療費が高い疾病			医療費	構成比
平成29年度	1位	高血圧性疾患	532,709,165円	6.1%
	2位	糖尿病	503,384,304円	5.8%
	3位	その他の悪性新生物<腫瘍>	438,377,426円	5.0%
平成30年度	1位	糖尿病	495,591,184円	6.0%
	2位	その他の悪性新生物<腫瘍>	473,332,843円	5.8%
	3位	高血圧性疾患	464,939,322円	5.7%
平成31年度	1位	糖尿病	479,650,987円	5.9%
	2位	その他の悪性新生物<腫瘍>	442,827,051円	5.4%
	3位	高血圧性疾患	439,362,980円	5.4%

③高額(5万点以上)レセプトの件数と割合、疾病傾向

平成29年度～平成31年度の高額(5万点以上)レセプトの件数と割合について、発生件数の割合は0.6%と変動はなかったものの、医療費全体における割合は増加しており、平成29年度は27.9%、平成30年度は28.4%、平成31年度は29.8%であった。

平成29年度	高額レセプト件数	2,484件
	高額レセプト件数割合	0.6%
	高額レセプト医療費割合	27.9%
平成30年度	高額レセプト件数	2,405件
	高額レセプト件数割合	0.6%
	高額レセプト医療費割合	28.4%
平成31年度	高額レセプト件数	2,472件
	高額レセプト件数割合	0.6%
	高額レセプト医療費割合	29.8%

高額レセプト発生患者の疾病傾向について、平成29年度～平成31年度の患者一人当たりの医療費が高い疾病をみると、すべての年度で腎不全が第5位となっている。

高額レセプト発生患者の疾病傾向 患者一人当たりの医療費順(中分類)			患者一人当たりの医療費
平成 29 年度	1位	貧血	13,643,140円
	2位	白血病	7,566,052円
	3位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	7,111,580円
	4位	くも膜下出血	6,394,013円
	5位	腎不全	6,175,913円
平成 30 年度	1位	貧血	10,566,800円
	2位	熱傷及び腐食	9,322,600円
	3位	皮膚炎及び湿疹	6,943,605円
	4位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	6,314,500円
	5位	腎不全	5,576,093円
平成 31 年度	1位	白血病	6,610,047円
	2位	てんかん	5,696,756円
	3位	血管性及び詳細不明の認知症	5,283,510円
	4位	皮膚炎及び湿疹	4,968,150円
	5位	腎不全	4,931,633円

次に、高額レセプト発生患者において、平成29年度～平成31年度の患者数が多い疾病をみると、すべての年度でその他の悪性新生物＜腫瘍＞（主に前立腺がん）が第1位であった。また、脳梗塞が平成29年度、平成30年度で第4位、平成31年度で第5位となっている。

高額レセプト発生患者の疾病傾向 患者数順(中分類)		患者数	患者一人当たり の医療費	
平成 29 年度	1位	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	111人	3,362,225円
	2位	骨折	59人	1,907,106円
	3位	虚血性心疾患	56人	2,699,676円
	4位	脳梗塞	52人	2,424,471円
	5位	その他の心疾患	50人	2,998,675円
平成 30 年度	1位	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	120人	3,683,633円
	2位	骨折	66人	1,977,984円
	3位	その他の心疾患	56人	2,870,804円
	4位	脳梗塞	46人	2,913,700円
	5位	気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	45人	4,525,155円
平成 31 年度	1位	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	109人	3,418,943円
	2位	骨折	69人	2,177,288円
	3位	気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	49人	4,732,242円
	4位	関節症	46人	2,829,844円
	5位	その他の心疾患	45人	2,831,789円
	5位	脳梗塞	45人	2,730,962円

④特定健康診査及びレセプトデータによる分析

平成31年度の特定健康診査とレセプトデータによる分析の結果、生活習慣病の状態不明者は6,590人であった。

生活習慣病状態不明者	6,590人
------------	--------

⑤健診異常値放置の状況

平成31年度の健診異常値放置者は、1,067人であった。

健診異常値放置者	1,067人
----------	--------

⑥生活習慣病治療中断者の状況

平成31年度の生活習慣病治療中断者は、141人であった。

生活習慣病治療中断者	141人
------------	------

⑦人工透析患者の状況

平成31年度の人工透析患者は79人で、そのうち、49人がⅡ型糖尿病が起因であった。

人工透析患者	79人
(Ⅱ型糖尿病起因患者)	49人

⑧脳梗塞・心筋梗塞の実態

平成31年度の脳梗塞患者は1,357人、脳内出血患者は364人、くも膜下出血患者は69人、心筋梗塞患者は748人存在した。

脳梗塞	1,357人
脳内出血	364人
くも膜下出血	69人
心筋梗塞	748人

⑨医療機関受診状況

平成31年度の医療機関受診状況に問題のある被保険者を分析した結果、多受診の重複受診者が193人、頻回受診者が395人、重複服薬者が419人存在した。

また、長期多剤服薬者は1,266人であった。

重複受診者	193人
頻回受診者	395人
重複服薬者	419人
長期多剤服薬者	1,266人

⑩ジェネリック医薬品普及率(数量ベース 医科・調剤レセプト)

数量ベースのジェネリック医薬品の普及率は、平成29年度が64.1%、平成30年度が69.9%、平成31年度が72.7%であった。直近の令和2年3月の普及率は、73.8%である。

	平成29年度	平成30年度	平成31年度
ジェネリック医薬品普及率	64.1%	69.9%	72.7%

⑪ロコモティブシンドロームの実態

平成31年度のロコモティブシンドロームの原因疾患を持つ40歳以上の患者は、5,183人であった。

ロコモティブシンドロームの原因疾患を持つ患者	5,183人
------------------------	--------

(2) 分析結果に基づく課題とその対策

分析結果からみた課題と対策

課題と対策	対策となる事業
<p>◆特定健康診査受診率及び特定保健指導実施率 生活習慣病患者が多数存在し、医療費も多額な状況である。特に糖尿病と高血圧性疾患は患者が多く、それらが重症化した心疾患や腎不全の患者も多いため、医療費が高額化している。また、平成31年度の特定健康診査の受診率は37.0%、保健指導の実施率は7.8%で、さらなる受診率向上を図り、必要な人に特定保健指導を行うことにより生活習慣病を予防していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査の受診勧奨 ・特定保健指導の実施
<p>◆糖尿病性腎症重症化予防 人工透析に至ってしまった患者の60%以上がⅡ型糖尿病が起因である(平成31年度 79人中49人)。また疾病中分類の分析では糖尿病が2年連続で医療費が高い疾病の第1位となっている。糖尿病は進行すると腎症に至り透析が必要になる。腎症以外の合併症も併発し、医療費が高額になると同時に患者のQOLの低下が問題となる。そこで早期に保健指導を行い生活習慣を改善することで、腎症の悪化を遅延させることができる考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病性腎症重症化予防
<p>◆高血圧症患者 高血圧性疾患の患者が多く、疾病中分類の分析では2年連続で医療費の高い疾病の第3位となっている。また重症化した脳卒中や心筋梗塞の患者も多く存在し、医療費も高額化している。早期に保健指導を行い生活習慣を改善することで、重症化を予防する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高血圧症重症化予防
<p>◆重複・頻回受診者、重複服薬者 重複受診者、頻回受診者、重複服薬者が多数存在している(平成31年度 重複受診者193人、頻回受診者395人、重複服薬者419人)。それらの患者を正しい受診行動に導く指導が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受診行動適正化指導
<p>◆ジェネリック医薬品の普及率 直近の普及率(数量ベース)は、73.8%で、国が定める目標(80%以上)と比較して低いため、切り替え勧奨を行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリック医薬品差額通知
<p>◆服薬の状況 多数の長期多剤服薬者が存在する(平成31年度 1,266人)。多剤服薬は副作用が起こりやすく様々なリスクがあるため、適正な服薬を促す必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬情報通知
<p>◆ロコモティブシンドロームの現状 ロコモティブシンドロームの原因疾患となる疾病を持つ人が多く存在している(平成31年度 5,183人)。要介護状態の人を増やさないために、健康教室など、啓発活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロコモティブシンドローム予防事業

第3章 保健事業実施計画

1. 各事業の目的と概要一覧

第二期データヘルス計画(後期)にて、実施する事業一覧を以下に示す。

事業名	事業目的	事業概要
特定健康診査 受診勧奨事業 【医療保険課】	特定健康診査の受診率向上	特定健康診査を受けていない者を対象者とし特定健康診査の受診を促す。
人間ドック健診費 助成事業 【医療保険課】	生活習慣病予防と特定健康診査受診率向上	40歳以上の被保険者の人間ドック健診利用者に検診費用の助成を行い、特定健康診査の受診率向上を図っていく。
特定保健指導事業 【健康増進課】	生活習慣病該当者及び予備群の減少	特定健康診査の結果から特定保健指導対象者を特定し、生活習慣や検査値が改善されるように、専門職による支援を面接や電話、手紙等で行う。
糖尿病性腎症 重症化予防事業 【健康増進課】 【医療保険課】	糖尿病性腎症患者の病期進行阻止	特定健康診査の検査値から対象者を特定し、通知及び家庭訪問による受診勧奨や生活改善を目指した教室を開催する。
高血圧症 重症化予防事業 【健康増進課】	高血圧症患者の重症化予防	特定健康診査の検査値から対象者を特定し、通知及び家庭訪問による受診勧奨や個別保健指導を行う。
受診行動適正化 指導事業 (重複・頻回受診、 重複服薬) 【医療保険課】	重複・頻回受診者数、 重複服薬者数の減少	レセプトデータから、医療機関への不適切な受診が確認できる対象者、また重複して服薬している対象者を特定し、適正な医療機関へのかかり方について、専門職による指導を行う。
ジェネリック 医薬品差額通知事業 【医療保険課】	ジェネリック医薬品の普及 率向上	レセプトデータから、ジェネリック医薬品の使用率が低く、ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の対象者を特定する。通知書を対象者に送付することで、ジェネリック医薬品への切り替えを促す。

実施内容 平成30年度～令和5年度	平成29年度 実績値	目標値	
		アウトプット	アウトカム
受診勧奨対象者を特定し、その対象者に対して適切な受診勧奨通知書を行う。医師会・医療機関との連携により治療中の人への健診受診勧奨を実施する。	特定健康診査 受診率 32.4%	対象者への通知率 100%	特定健康診査受診率 60%
短期人間ドック・脳ドック・併診ドックの健診費用を助成する。またドック受診者の特定保健指導を実施し、生活習慣病の予防を図る。	801名受診。 キャンセル待ち11名 (平成30年3月8日現在)	事業のPR	助成希望者に対する 助成率 100%
指導対象者に対して適切な保健指導を行う。指導後に健康診査データより検査値の推移を確認する。	実施中	対象者の指導実施率 の 向上	指導完了者の生活習慣 改善率 50% 指導実施率 60%
指導対象者に対して適切な保健指導を行う。指導後に健康診査データ、レセプトデータより検査値の推移、定期的な通院の有無等を確認する。	実施中	対象者の指導実施率 50%以上	指導完了者の生活習慣 改善率 50% 指導完了者の検査値 改善率 50%
特定健康診査の値が収縮期血圧160mmHg以上、または拡張期血圧が100mmHg以上の未治療者に対し、個人通知(一次支援)、及び家庭訪問等の個別面接(二次支援)による受診勧奨及び保健指導を行う。指導後健康診査データ、レセプトデータより検査値の推移、定期的な通院の有無等を確認する。	実施中	対象者の指導実施率 50%以上	指導完了者の生活習慣 改善率 50% 指導完了者の検査値 改善率 50%
指導対象者に対して適切な保健指導を行う。指導後に対象者の受診行動が適切となっているかを確認する。	【対象者】 重複受診 7人 頻回受診 12人	対象者の指導実施率 50%以上	指導完了者の受診行動 適正化 50% 指導完了者の医療費 50%減少 重複・頻回受診者、重複 服薬者 20%減少
ジェネリック医薬品差額通知書を作成し、郵送する。対象者特定方法や効果検証方法、実施後の効果を考慮し、継続を検討する。	年2回通知 ・9月 551人 ・3月 370人	対象者への通知率 100%	ジェネリック医薬品 普及率(数量ベース) 80%

2. 全体スケジュール

各事業におけるスケジュールについて以下に示す。

事業名	第二期データヘルス計画					
	前期			後期		
	平成 30年度	平成 31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
特定健康診査 受診勧奨事業	実施			P	D	
			評価		CA	
人間ドック健診費 助成事業	実施			P	D	
			評価		CA	
特定保健指導事業	実施			P	D	
			評価		CA	
糖尿病性腎症 重症化予防事業	実施			P	D	
			評価		CA	
高血圧症 重症化予防事業	実施			P	D	
			評価		CA	
受診行動適正化 指導事業 (重複・頻回受診、重複服薬)	実施			P	D	
			評価		CA	
ジェネリック 医薬品差額通知事業	実施			P	D	
			評価		CA	

3. 各事業の実施内容と評価方法

本計画(第二期データヘルス計画)における実施事業及び評価方法は以下の通りである。

(1) 特定健康診査受診勧奨事業

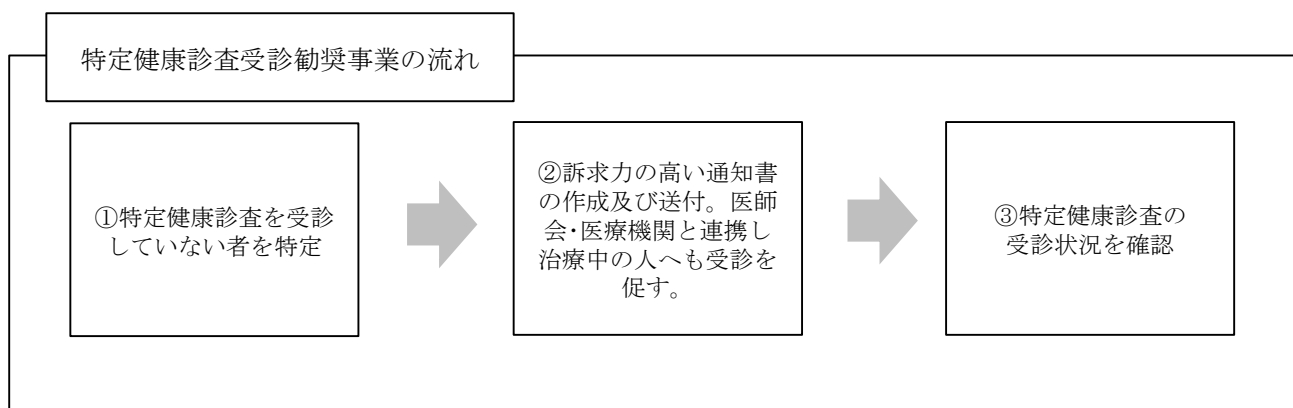
【事業目的】

特定健康診査の受診率向上

【事業概要】

特定健康診査を受診していない者を対象者とし特定健康診査の受診を促す。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者への通知率 100%	特定健康診査受診率 60%	特定健康診査受診率を確認する。

(2) 人間ドック健診費助成事業

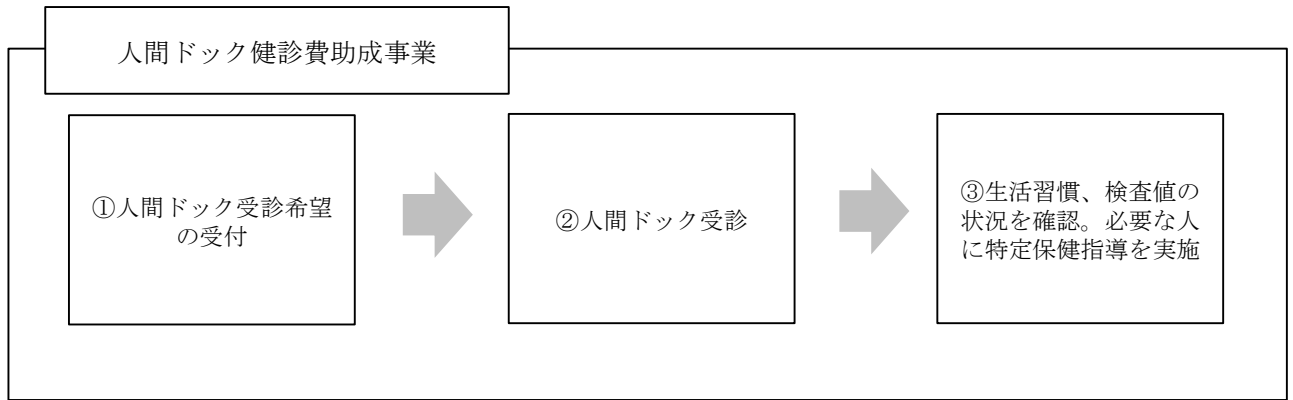
【事業目的】

生活習慣病予防と特定健康診査受診率向上

【事業概要】

40歳以上の被保険者の人間ドック健診利用者に健診費用の助成を行い、特定健康診査の受診率向上を図る。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標	評価方法
事業のPR	助成希望者に対する助成率 100%	希望者人数の確認

(3) 特定保健指導事業

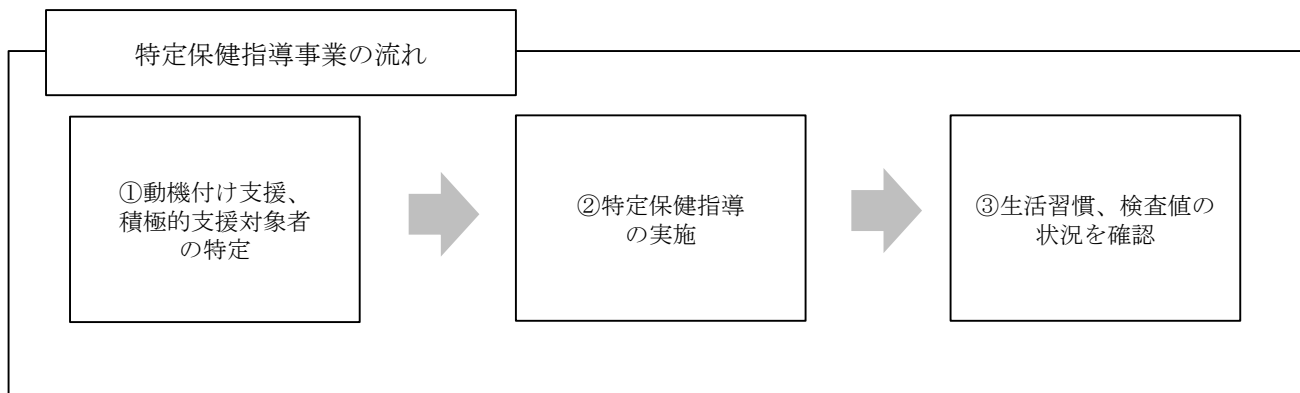
【事業目的】

生活習慣病該当者及び予備群の減少

【事業概要】

特定健康診査の結果から特定保健指導対象者を特定し、生活習慣や検査値が改善されるように、専門職による支援を面接や電話、手紙等で行う。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標	評価方法
対象者の指導実施率の向上	短期 指導完了者の生活習慣改善率 50%	指導前後の健康診査データから生活習慣の改善状況を確認する。
	中長期 指導完了者の生活習慣改善率 60%	特定保健指導率を確認する。

(4) 糖尿病性腎症重症化予防事業

【事業目的】

糖尿病性腎症患者の病期進行阻止

【事業概要】

特定健康診査の検査値から対象者を特定し、通知及び家庭訪問による受診勧奨や生活改善を目指した教室を開催する。

【実施内容】

糖尿病性腎症重症化
予防事業の流れ

①健康診査データ及び
レセプトデータから
対象者を特定



②通知・家庭訪問による
受診勧奨。教室の実施。



③生活習慣、検査値の
改善状況を確認。医療
機関受診状況を確認。

【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者の指導実施率 50%以上	指導完了者の生活習慣改善率 50% 指導完了者の検査値改善率 50%	指導後の結果から生活習慣や検査値の改善状況を確認する。

(5) 高血圧症重症化予防事業

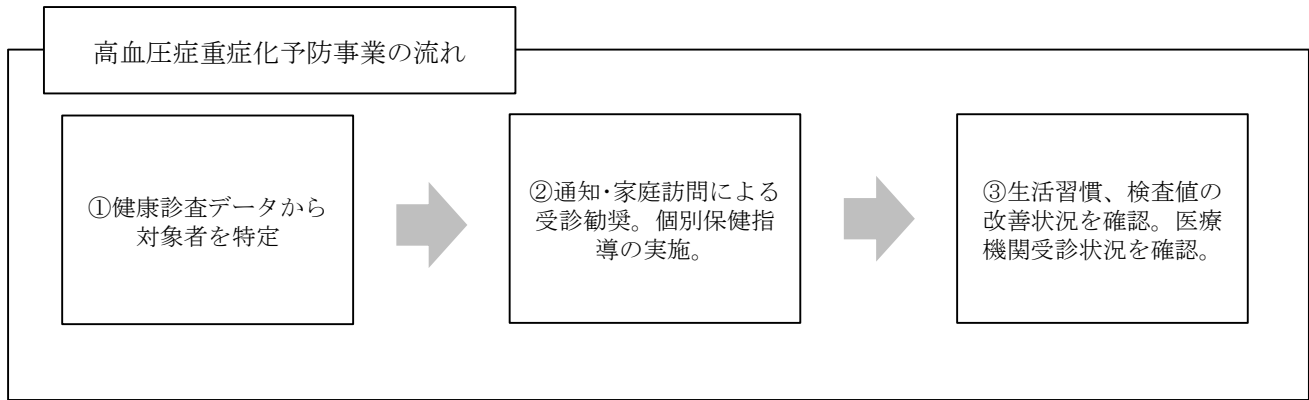
【事業目的】

高血圧症患者の重症化予防

【事業概要】

特定健康診査の検査値から対象者を特定し、通知及び家庭訪問による受診勧奨や個別保健指導を行う。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者の指導実施率 50%以上	指導完了者の生活習慣改善率 50% 指導完了者の検査値改善率 50%	指導後の結果から生活習慣や検査値の改善状況を確認する。

(6) 受診行動適正化指導事業(重複・頻回受診、重複服薬)

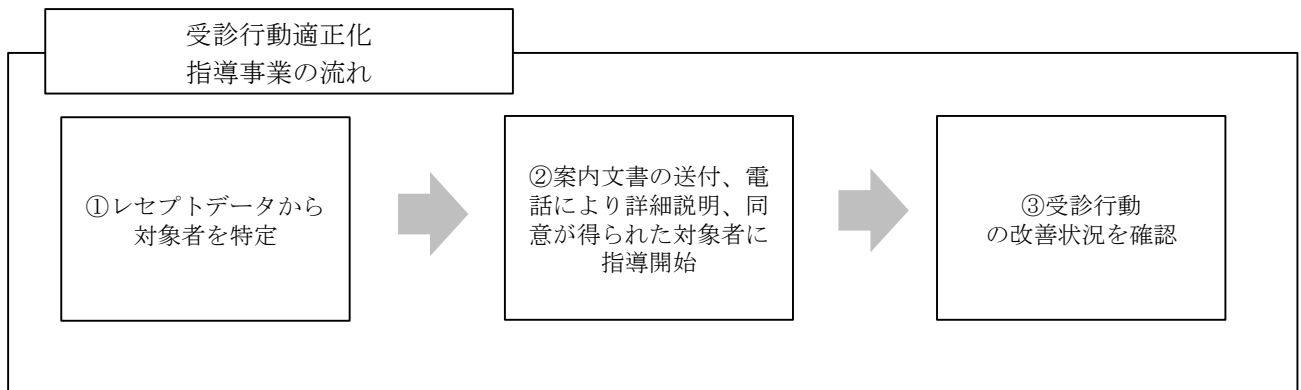
【事業目的】

重複・頻回受診者数、重複服薬者数の減少

【事業概要】

レセプトデータから、医療機関への不適切な受診が確認できる対象者、また重複して服薬している対象者を特定し、適正な医療機関へのかかり方について、専門職による指導を行う。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者の指導実施率 50%以上	短期 指導完了者の受診行動適正化 50% 指導完了者の医療費 50%減少	指導後の医療機関受診状況を確認する。
	中長期 重複・頻回受診者、重複服薬者 20%減少	多受診対象者数の推移により確認する。

(7) ジェネリック医薬品差額通知事業

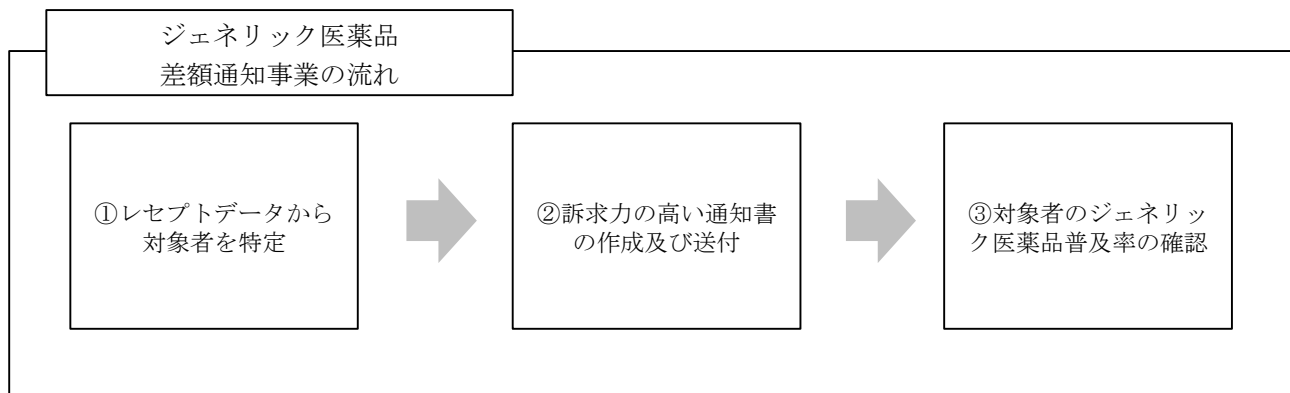
【事業目的】

ジェネリック医薬品の普及率向上

【事業概要】

レセプトデータから、ジェネリック医薬品の使用率が低く、ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の対象者を特定する。通知書を対象者に送付することで、ジェネリック医薬品への切り替えを促す。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者への通知率 100%	ジェネリック医薬品普及率(数量ベース) 80%	ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)推移により確認する。

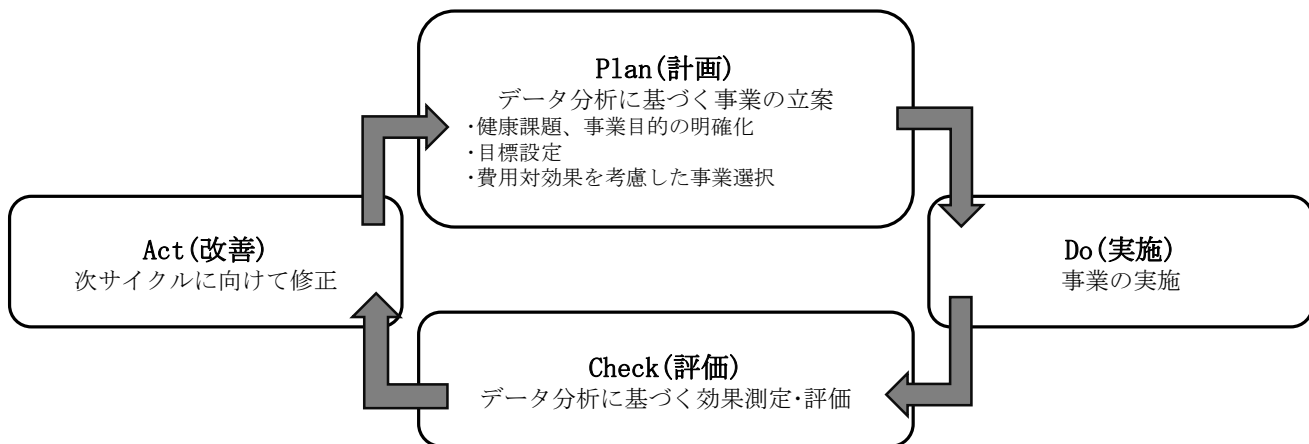
第4章 その他

1. データヘルス計画の見直し

(1) 評価

本計画の目的及び目標の達成状況については、毎年度評価を行うこととする。また、中間期間等計画期間の途中で進捗確認・中間評価を行い、必要に応じて実施体制・目標値等の見直しを行う。最終年度においては、次の期の計画策定を円滑に行うため、上半期に仮評価を行うこととする。

評価・見直しに当たっては、他保険者と連携して行い、国民健康保険団体連合会に設置される支援・評価委員会に指導・助言を受けるものとする。



厚生労働省 保険局「データヘルス計画 作成の手引き」(平成26年12月)より

(2) 評価時期

本計画の評価については、各事業のスケジュールに基づき実施する。

2. 計画の公表・周知

本計画は、広報、ホームページ等で公表するとともに、本実施計画をあらゆる機会を通じて周知・啓発を図る。また、目標の達成状況等の公表に努め、本計画の円滑な実施等について広く意見を求めるものとする。

3. 個人情報の取り扱い

個人情報の取り扱いについては、「個人情報の保護に関する法律」「国民健康保険組合における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」「個人情報保護条例」「情報セキュリティポリシー」に基づき管理する。また、業務を外部に委託する際も同様に取り扱われるよう委託契約書に定めるものとする。

4. 地域包括ケアに係る取組及びその他の留意事項

高齢化の状況、地理的条件など、地域のおかれた現状によって必要とされる保健事業や対策も異なると考えられることから、地域包括ケアの充実を図り、地域の実態把握・課題分析を被保険者も含めた関係者間で共有し、連携して事業に取り組む。

參考資料

地区分析

1. 大分類による疾病別医療費地区別統計

平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトより、疾病項目毎に医療費統計を地区別に示す。

下館	関城	明野	協和	その他
----	----	----	----	-----

【下館】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人当たりの医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	121,168,273	2.8%	12	16,104	13	3,802	10	31,870	14
II. 新生物<腫瘍>	746,945,880	17.3%	1	16,628	12	3,994	9	187,017	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	32,852,968	0.8%	15	4,720	17	1,190	16	27,608	15
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	489,545,408	11.3%	3	80,362	2	6,815	1	71,834	9
V. 精神及び行動の障害	267,581,764	6.2%	6	20,576	8	1,699	14	157,494	3
VI. 神経系の疾患	261,071,448	6.0%	8	34,946	6	3,122	11	83,623	7
VII. 眼及び付属器の疾患	192,899,041	4.5%	10	18,213	10	4,623	6	41,726	12
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	20,720,899	0.5%	17	5,295	16	1,538	15	13,473	21
IX. 循環器系の疾患	578,050,047	13.4%	2	80,622	1	6,221	4	92,919	5
X. 呼吸器系の疾患	243,211,077	5.6%	9	38,087	5	6,750	2	36,031	13
X I. 消化器系の疾患	※ 342,949,998	7.9%	5	66,802	3	6,616	3	51,836	11
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	88,681,310	2.1%	13	20,342	9	4,372	7	20,284	18
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	405,855,772	9.4%	4	50,809	4	5,447	5	74,510	8
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	263,350,462	6.1%	7	17,929	11	3,021	12	87,173	6
X V. 妊娠、分娩及び産じょく	※ 13,696,617	0.3%	18	290	19	103	19	132,977	4
X VI. 周産期に発生した病態	※ 8,774,916	0.2%	19	75	21	39	21	224,998	1
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	4,667,407	0.1%	20	788	18	247	18	18,896	19
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	84,366,376	2.0%	14	21,537	7	4,092	8	20,617	17
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	132,352,780	3.1%	11	7,763	14	2,336	13	56,658	10
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	23,542,290	0.5%	16	5,610	15	1,021	17	23,058	16
X X II. 特殊目的用コード	3,558	0.0%	22	10	22	6	22	593	22
分類外	837,949	0.0%	21	149	20	46	20	18,216	20
合計	4,323,126,240			206,964		12,687		340,752	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下館	関城	明野	協和	その他
----	----	----	----	-----

【関城】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を

網掛け

表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人当たりの医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	35,650,121	3.1%	12	3,971	13	1,039	10	34,312	14
II. 新生物<腫瘍>	167,318,794	14.5%	2	4,244	12	1,057	9	158,296	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	4,452,515	0.4%	16	1,272	16	346	15	12,869	19
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	129,150,338	11.2%	3	21,489	2	1,795	1	71,950	6
V. 精神及び行動の障害	83,637,634	7.3%	6	5,296	8	428	14	195,415	1
VI. 神経系の疾患	77,259,170	6.7%	7	8,448	6	784	12	98,545	4
VII. 眼及び付属器の疾患	53,122,201	4.6%	10	5,249	9	1,184	6	44,867	10
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	6,134,308	0.5%	15	1,116	17	325	16	18,875	17
IX. 循環器系の疾患	170,664,873	14.8%	1	22,937	1	1,720	4	99,224	3
X. 呼吸器系の疾患	57,766,745	5.0%	8	10,103	5	1,790	2	32,272	15
X I. 消化器系の疾患 ※	88,465,244	7.7%	5	16,987	3	1,726	3	51,254	9
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	29,164,868	2.5%	13	4,654	11	1,181	7	24,695	16
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	119,972,048	10.4%	4	13,822	4	1,468	5	81,725	5
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	57,646,252	5.0%	9	4,735	10	844	11	68,301	7
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	767,169	0.1%	19	55	19	20	19	38,358	12
X VI. 周産期に発生した病態 ※	215,122	0.0%	20	9	20	5	20	43,024	11
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	2,029,510	0.2%	18	144	18	59	18	34,398	13
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20,164,454	1.8%	14	5,573	7	1,095	8	18,415	18
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	43,161,777	3.8%	11	2,151	14	659	13	65,496	8
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	3,427,818	0.3%	17	1,758	15	272	17	12,602	20
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	11,769	0.0%	21	9	20	2	21	5,885	21
合計	1,150,182,730			54,180		3,247		354,229	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12ヵ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下館	関城	明野	協和	その他
----	----	----	----	-----

【明野】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人当たりの医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	44,025,759	3.4%	12	3,827	13	1,012	9	43,504	12
II. 新生物<腫瘍>	188,085,177	14.3%	1	4,326	12	1,021	8	184,217	1
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	23,171,084	1.8%	14	1,654	16	368	15	62,965	9
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	140,446,710	10.7%	3	23,120	2	1,905	2	73,725	7
V. 精神及び行動の障害	79,324,466	6.0%	8	5,422	8	470	14	168,775	2
VI. 神経系の疾患	105,875,368	8.1%	5	9,501	6	879	11	120,450	3
VII. 眼及び付属器の疾患	59,792,055	4.6%	10	6,523	7	1,277	6	46,822	11
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	6,176,555	0.5%	16	1,268	17	332	16	18,604	17
IX. 循環器系の疾患	185,887,763	14.2%	2	24,098	1	1,836	3	101,246	5
X. 呼吸器系の疾患	67,227,747	5.1%	9	10,245	5	1,916	1	35,088	13
X I. 消化器系の疾患 ※	86,717,647	6.6%	6	16,325	3	1,730	4	50,126	10
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	26,523,116	2.0%	13	5,103	9	1,139	7	23,286	15
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	135,109,800	10.3%	4	14,526	4	1,561	5	86,553	6
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	84,747,405	6.5%	7	4,528	11	743	12	114,061	4
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	668,340	0.1%	19	53	19	21	19	31,826	14
X VI. 周産期に発生した病態 ※	144,913	0.0%	20	23	21	16	20	9,057	21
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	1,065,061	0.1%	18	199	18	75	18	14,201	18
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	21,842,337	1.7%	15	5,060	10	1,007	10	21,691	16
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	52,447,856	4.0%	11	2,699	14	741	13	70,780	8
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	2,859,544	0.2%	17	2,374	15	314	17	9,107	20
X X II. 特殊目的用コード	3,005	0.0%	22	6	22	5	22	601	22
分類外	108,232	0.0%	21	43	20	9	21	12,026	19
合計	1,312,249,940			59,204		3,590		365,529	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12ヵ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下館	関城	明野	協和	その他
----	----	----	----	-----

【協和】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人当たりの医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	41,028,066	3.3%	12	4,779	11	1,155	8	35,522	15
II. 新生物<腫瘍>	194,535,299	15.5%	1	4,147	13	1,066	10	182,491	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	15,430,612	1.2%	15	1,670	16	357	16	43,223	13
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	131,784,175	10.5%	3	20,590	2	1,905	2	69,178	10
V. 精神及び行動の障害	76,154,019	6.1%	7	5,815	8	474	14	160,662	3
VI. 神経系の疾患	74,445,022	5.9%	8	9,977	6	964	11	77,225	9
VII. 眼及び付属器の疾患	48,707,991	3.9%	11	5,322	10	1,291	6	37,729	14
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	5,436,560	0.4%	19	1,450	17	429	15	12,673	20
IX. 循環器系の疾患	185,257,413	14.8%	2	21,092	1	1,750	4	105,861	6
X. 呼吸器系の疾患	64,764,860	5.2%	9	10,136	5	1,957	1	33,094	16
X I. 消化器系の疾患 ※	86,896,354	6.9%	5	16,051	3	1,803	3	48,195	12
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	25,344,576	2.0%	13	5,727	9	1,245	7	20,357	18
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	125,302,749	10.0%	4	14,583	4	1,573	5	79,658	8
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	77,018,310	6.1%	6	4,439	12	776	13	99,250	7
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	2,174,631	0.2%	20	59	19	20	19	108,732	5
X VI. 周産期に発生した病態 ※	9,390,717	0.7%	17	25	21	14	20	670,766	1
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	10,906,633	0.9%	16	302	18	75	18	145,422	4
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	23,219,473	1.9%	14	6,578	7	1,140	9	20,368	17
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	49,061,300	3.9%	10	2,886	14	781	12	62,819	11
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5,576,787	0.4%	18	1,835	15	276	17	20,206	19
X X II. 特殊目的用コード	3,055	0.0%	22	3	22	2	22	1,528	22
分類外	81,858	0.0%	21	31	20	9	21	9,095	21
合計	1,252,520,460			57,039		3,678		340,544	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12ヵ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

下館	関城	明野	協和	その他
----	----	----	----	-----

【その他】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人当たりの医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	3,290,622	3.4%	10	449	8	151	3	21,792	15
II. 新生物<腫瘍>	7,639,441	7.9%	5	138	14	53	14	144,140	5
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	730,547	0.8%	19	115	15	29	15	25,191	13
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	6,489,305	6.7%	6	708	5	122	5	53,191	7
V. 精神及び行動の障害	10,501,247	10.9%	3	1,098	3	87	12	120,704	6
VI. 神経系の疾患	21,569,425	22.4%	1	1,245	2	100	9	215,694	4
VII. 眼及び付属器の疾患	1,580,307	1.6%	15	224	12	106	7	14,909	19
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	174,456	0.2%	20	66	16	27	16	6,461	21
IX. 循環器系の疾患	4,226,423	4.4%	8	624	6	93	10	45,445	9
X. 呼吸器系の疾患	10,904,828	11.3%	2	1,082	4	270	1	40,388	11
X I. 消化器系の疾患 ※	6,070,549	6.3%	7	1,297	1	175	2	34,689	12
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	2,965,759	3.1%	11	566	7	145	4	20,454	16
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,617,074	1.7%	14	447	9	105	8	15,401	18
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	1,632,713	1.7%	13	404	10	88	11	18,554	17
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	849,649	0.9%	17	37	17	16	17	53,103	8
X VI. 周産期に発生した病態 ※	819,480	0.9%	18	3	21	1	21	819,480	2
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	7,808,130	8.1%	4	35	18	7	18	1,115,447	1
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2,532,433	2.6%	12	404	10	109	6	23,233	14
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	3,472,465	3.6%	9	192	13	81	13	42,870	10
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	1,443,496	1.5%	16	31	19	6	19	240,583	3
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	29,391	0.0%	21	4	20	2	20	14,696	20
合計	96,347,740			3,995		498		193,469	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12ヵ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

2. 中分類による疾病別医療費地区別統計

疾病分類表における中分類単位で地区毎に集計し、医療費が高額な上位10疾病を以下に示す。

下館	関城	明野	協和	その他
----	----	----	----	-----

【下館】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)		医療費(円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数(人)
1	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	263,891,454	6.1%	1,546
2	0402	糖尿病	262,168,679	6.1%	5,080
3	0901	高血圧性疾患	233,274,965	5.4%	4,764
4	1113	その他の消化器系の疾患	180,990,961	4.2%	4,277
5	0606	その他の神経系の疾患	167,824,647	3.9%	2,850
6	1402	腎不全	165,147,310	3.8%	304
7	0403	脂質異常症	157,879,780	3.7%	3,840
8	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	133,752,735	3.1%	506
9	0205	気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	128,693,374	3.0%	460
10	0903	その他の心疾患	124,780,705	2.9%	2,169

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

【関城】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)		医療費(円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数(人)
1	0901	高血圧性疾患	71,832,404	6.2%	1,345
2	0402	糖尿病	66,929,073	5.8%	1,332
3	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	55,474,298	4.8%	472
4	1113	その他の消化器系の疾患	50,732,658	4.4%	1,105
5	0606	その他の神経系の疾患	47,412,648	4.1%	719
6	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	44,187,273	3.8%	128
7	0403	脂質異常症	40,864,879	3.6%	963
8	1402	腎不全	40,494,479	3.5%	191
9	0903	その他の心疾患	35,555,764	3.1%	642
10	1302	関節症	34,100,392	3.0%	429

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

下館	関城	明野	協和	その他
----	----	----	----	-----

【明野】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)		医療費(円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数(人)
1	0402	糖尿病	77,783,256	5.9%	1,350
2	0901	高血圧性疾患	73,185,349	5.6%	1,429
3	1402	腎不全	65,340,800	5.0%	59
4	0606	その他の神経系の疾患	62,504,740	4.8%	804
5	1113	その他の消化器系の疾患	51,654,067	3.9%	1,124
6	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	46,484,054	3.5%	403
7	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	46,119,315	3.5%	119
8	0403	脂質異常症	40,673,627	3.1%	1,060
9	0903	その他の心疾患	40,144,108	3.1%	538
10	1302	関節症	37,122,516	2.8%	464

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

【協和】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)		医療費(円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数(人)
1	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	74,816,519	6.0%	406
2	0402	糖尿病	71,783,597	5.7%	1,310
3	0901	高血圧性疾患	59,553,638	4.8%	1,363
4	1402	腎不全	54,053,485	4.3%	71
5	0903	その他の心疾患	52,230,539	4.2%	607
6	1113	その他の消化器系の疾患	48,271,094	3.9%	1,168
7	0606	その他の神経系の疾患	40,616,903	3.2%	886
8	0205	気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	38,689,876	3.1%	129
9	0403	脂質異常症	36,600,744	2.9%	1,017
10	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	36,409,971	2.9%	127

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

下館	関城	明野	協和	その他
----	----	----	----	-----

【その他】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)	医療費(円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に対して占める割合)	患者数(人)
1	0604 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	13,290,451	13.8%	9
2	1702 その他の先天奇形, 変形及び染色体異常	7,793,902	8.1%	6
3	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	4,987,895	5.2%	39
4	0603 てんかん	4,621,485	4.8%	36
5	0404 その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	4,240,096	4.4%	58
6	1113 その他の消化器系の疾患	3,757,270	3.9%	109
7	1011 その他の呼吸器系の疾患	3,031,903	3.1%	82
8	0606 その他の神経系の疾患	3,029,181	3.1%	81
9	0205 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	2,576,425	2.7%	5
10	1800 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2,532,433	2.6%	109

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

疾病分類表における中分類単位で地区毎に集計し、患者数が多い上位10疾病を以下に示す。

下館	関城	明野	協和	その他
----	----	----	----	-----

【下館】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)		医療費(円)	患者数(人) ※	構成比(%) (患者数全体に対して占める割合)
1	0402	糖尿病	262,168,679	5,080	40.0%
2	0901	高血圧性疾患	233,274,965	4,764	37.6%
3	1113	その他の消化器系の疾患	180,990,961	4,277	33.7%
4	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	84,366,376	4,092	32.3%
5	0403	脂質異常症	157,879,780	3,840	30.3%
6	0703	屈折及び調節の障害	12,729,911	3,450	27.2%
7	0704	その他の眼及び付属器の疾患	111,102,432	3,308	26.1%
8	1105	胃炎及び十二指腸炎	48,386,572	3,159	24.9%
9	1202	皮膚炎及び湿疹	36,916,536	3,095	24.4%
10	1003	その他の急性上気道感染症	20,958,734	2,941	23.2%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

【関城】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)		医療費(円)	患者数(人) ※	構成比(%) (患者数全体に対して占める割合)
1	0901	高血圧性疾患	71,832,404	1,345	41.4%
2	0402	糖尿病	66,929,073	1,332	41.0%
3	1113	その他の消化器系の疾患	50,732,658	1,105	34.0%
4	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20,164,454	1,095	33.7%
5	0403	脂質異常症	40,864,879	963	29.7%
6	1105	胃炎及び十二指腸炎	13,413,468	904	27.8%
7	1202	皮膚炎及び湿疹	9,596,566	895	27.6%
8	0703	屈折及び調節の障害	2,929,670	875	26.9%
9	0704	その他の眼及び付属器の疾患	27,924,461	829	25.5%
10	1003	その他の急性上気道感染症	5,182,066	751	23.1%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

下館	関城	明野	協和	その他
----	----	----	----	-----

【明野】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)	医療費(円)	患者数(人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0901 高血圧性疾患	73,185,349	1,429	39.8%
2	0402 糖尿病	77,783,256	1,350	37.6%
3	1113 その他の消化器系の疾患	51,654,067	1,124	31.3%
4	0403 脂質異常症	40,673,627	1,060	29.5%
5	1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	21,842,337	1,007	28.1%
6	0703 屈折及び調節の障害	3,271,633	919	25.6%
7	0704 その他の眼及び付属器の疾患	31,689,107	912	25.4%
8	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	6,158,294	902	25.1%
9	1202 皮膚炎及び湿疹	10,910,482	809	22.5%
10	0606 その他の神経系の疾患	62,504,740	804	22.4%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

【協和】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)	医療費(円)	患者数(人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	0901 高血圧性疾患	59,553,638	1,363	37.1%
2	0402 糖尿病	71,783,597	1,310	35.6%
3	1113 その他の消化器系の疾患	48,271,094	1,168	31.8%
4	1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	23,219,473	1,140	31.0%
5	0403 脂質異常症	36,600,744	1,017	27.7%
6	0703 屈折及び調節の障害	3,278,574	936	25.4%
7	1202 皮膚炎及び湿疹	12,564,440	904	24.6%
8	0704 その他の眼及び付属器の疾患	28,588,118	900	24.5%
9	0606 その他の神経系の疾患	40,616,903	886	24.1%
10	1105 胃炎及び十二指腸炎	12,567,955	878	23.9%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

下館	関城	明野	協和	その他
----	----	----	----	-----

【その他】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)	医療費(円)	患者数(人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	1003 その他の急性上気道感染症	861,993	122	24.5%
2	1113 その他の消化器系の疾患	3,757,270	109	21.9%
2	1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2,532,433	109	21.9%
4	1006 アレルギー性鼻炎	999,734	105	21.1%
5	1202 皮膚炎及び湿疹	1,913,701	98	19.7%
6	1005 急性気管支炎及び急性細気管支炎	706,186	94	18.9%
7	1002 急性咽頭炎及び急性扁桃炎	440,598	83	16.7%
8	1011 その他の呼吸器系の疾患	3,031,903	82	16.5%
8	1105 胃炎及び十二指腸炎	1,365,416	82	16.5%
10	0606 その他の神経系の疾患	3,029,181	81	16.3%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成31年4月～令和2年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

年度別 特定健康診査結果分析

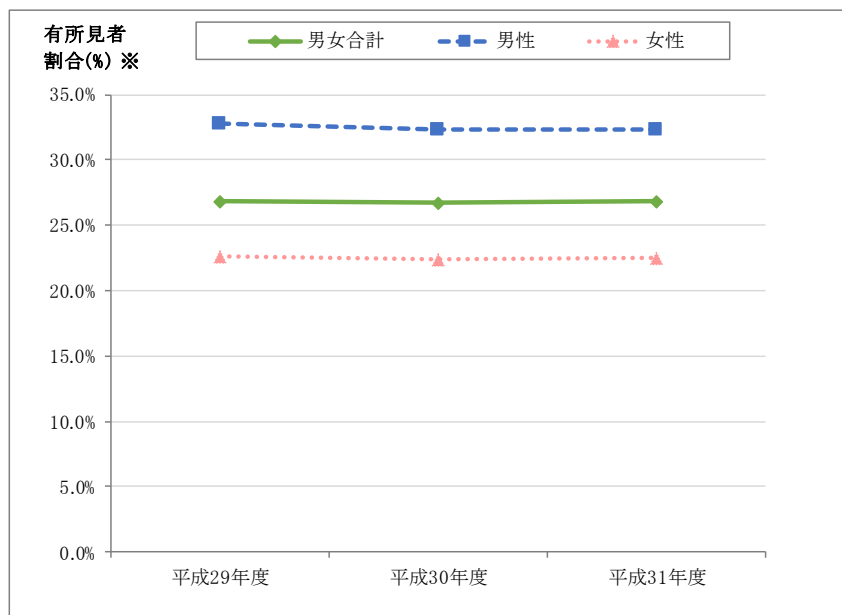
1. 有所見者割合

平成29年度から平成31年度の特定健康診査受診者における有所見者割合を年度別に示す。

年度別 有所見者割合 (BMI)

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	対象者数(人) ※	6,446	6,621	6,995
	有所見者数(人) ※	1,733	1,768	1,880
	有所見者割合(%) ※	26.9%	26.7%	26.9%
男性	対象者数(人) ※	2,728	2,878	3,122
	有所見者数(人) ※	893	929	1,010
	有所見者割合(%) ※	32.7%	32.3%	32.4%
女性	対象者数(人) ※	3,718	3,743	3,873
	有所見者数(人) ※	840	839	870
	有所見者割合(%) ※	22.6%	22.4%	22.5%

年度別 有所見者割合 (BMI)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※対象者数 …健診検査値が記録されている人数。

※有所見者数 …保健指導判定値を超えている人数。

※有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合。

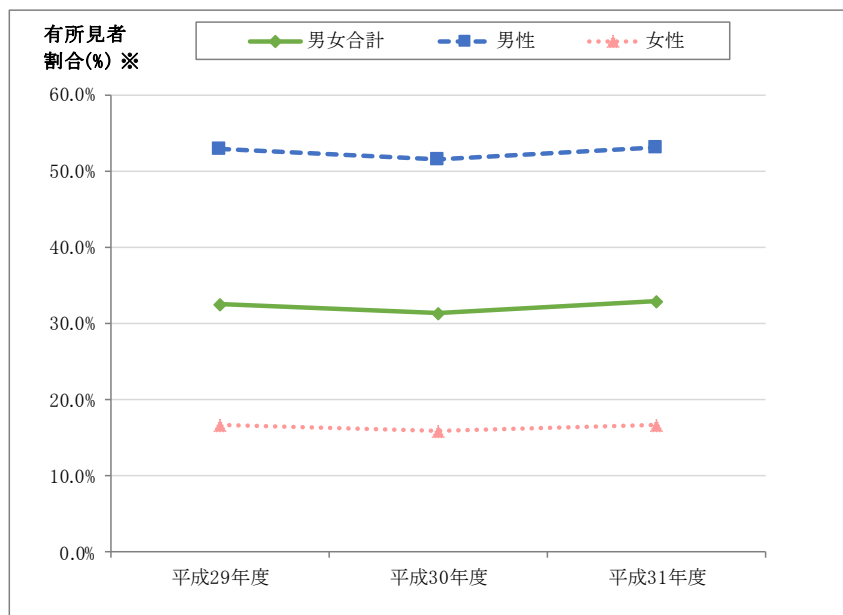
保健指導判定値により有所見を判定する。

BMI:25以上

年度別 有所見者割合(腹囲)

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	対象者数(人) ※	6,005	6,621	6,995
	有所見者数(人) ※	1,952	2,074	2,303
	有所見者割合(%) ※	32.5%	31.3%	32.9%
男性	対象者数(人) ※	2,637	2,878	3,122
	有所見者数(人) ※	1,392	1,482	1,658
	有所見者割合(%) ※	52.8%	51.5%	53.1%
女性	対象者数(人) ※	3,368	3,743	3,873
	有所見者数(人) ※	560	592	645
	有所見者割合(%) ※	16.6%	15.8%	16.7%

年度別 有所見者割合(腹囲)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※対象者数 …健診検査値が記録されている人数。

※有所見者数 …保健指導判定値を超えている人数。

※有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合。

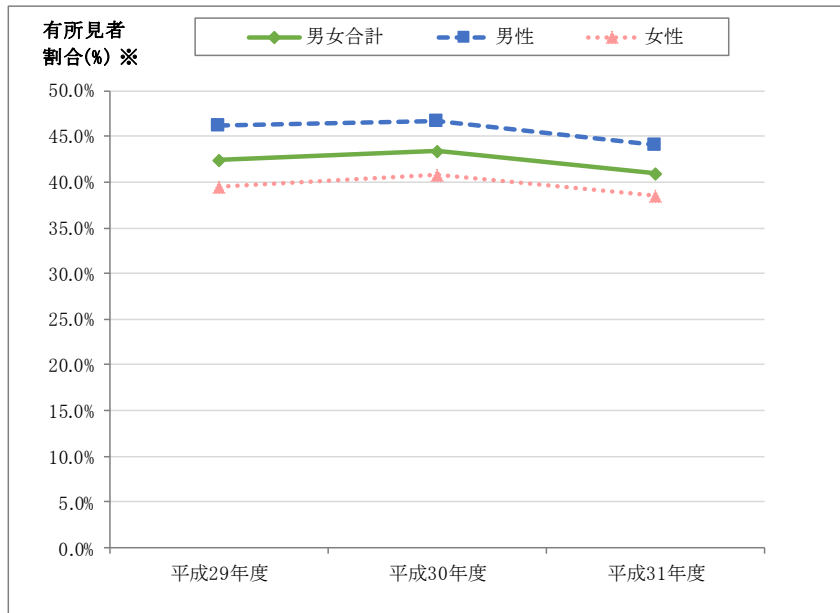
保健指導判定値により有所見を判定する。

腹囲:男性85cm以上、女性90cm以上

年度別 有所見者割合(収縮期血圧)

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	対象者数(人) ※	6,447	6,621	6,995
	有所見者数(人) ※	2,732	2,873	2,865
	有所見者割合(%) ※	42.4%	43.4%	41.0%
男性	対象者数(人) ※	2,728	2,878	3,122
	有所見者数(人) ※	1,262	1,344	1,374
	有所見者割合(%) ※	46.3%	46.7%	44.0%
女性	対象者数(人) ※	3,719	3,743	3,873
	有所見者数(人) ※	1,470	1,529	1,491
	有所見者割合(%) ※	39.5%	40.8%	38.5%

年度別 有所見者割合(収縮期血圧)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※対象者数 …健診検査値が記録されている人数。

※有所見者数 …保健指導判定値を超えている人数。

※有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合。

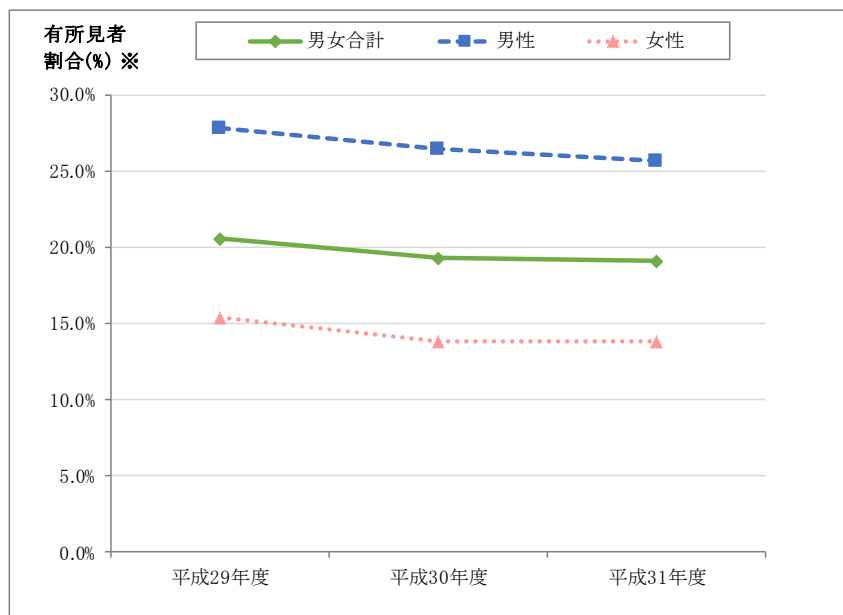
保健指導判定値により有所見を判定する。

収縮期血圧:130mmHg以上

年度別 有所見者割合 (拡張期血圧)

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	対象者数(人) ※	6,447	6,621	6,995
	有所見者数(人) ※	1,328	1,280	1,337
	有所見者割合(%) ※	20.6%	19.3%	19.1%
男性	対象者数(人) ※	2,728	2,878	3,122
	有所見者数(人) ※	758	762	802
	有所見者割合(%) ※	27.8%	26.5%	25.7%
女性	対象者数(人) ※	3,719	3,743	3,873
	有所見者数(人) ※	570	518	535
	有所見者割合(%) ※	15.3%	13.8%	13.8%

年度別 有所見者割合 (拡張期血圧)



データ化範囲 (分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※対象者数 …健診検査値が記録されている人数。

※有所見者数 …保健指導判定値を超えている人数。

※有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合。

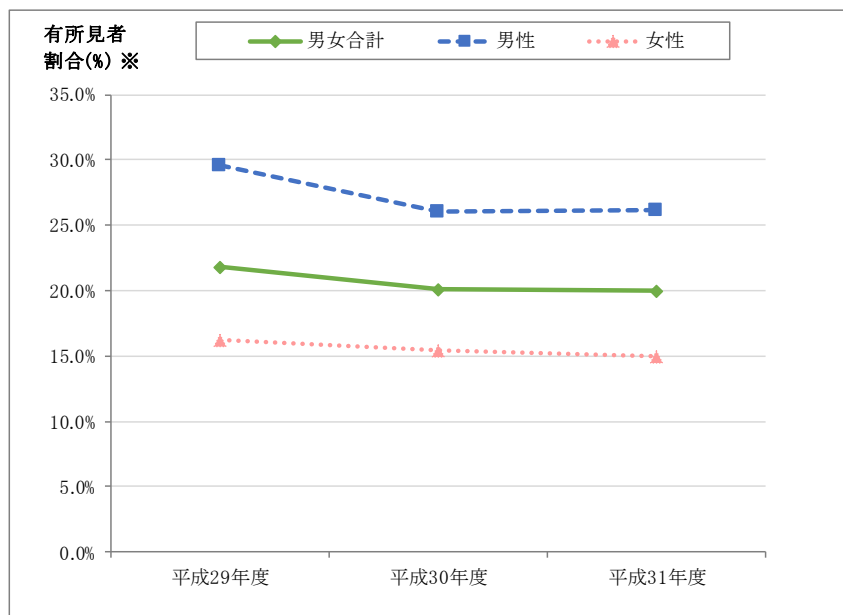
保健指導判定値により有所見を判定する。

拡張期血圧:85mmHg以上

年度別 有所見者割合(中性脂肪)

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	対象者数(人) ※	6,447	6,621	6,995
	有所見者数(人) ※	1,409	1,328	1,396
	有所見者割合(%) ※	21.9%	20.1%	20.0%
男性	対象者数(人) ※	2,728	2,878	3,122
	有所見者数(人) ※	807	749	815
	有所見者割合(%) ※	29.6%	26.0%	26.1%
女性	対象者数(人) ※	3,719	3,743	3,873
	有所見者数(人) ※	602	579	581
	有所見者割合(%) ※	16.2%	15.5%	15.0%

年度別 有所見者割合(中性脂肪)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※対象者数 …健診検査値が記録されている人数。

※有所見者数 …保健指導判定値を超えている人数。

※有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合。

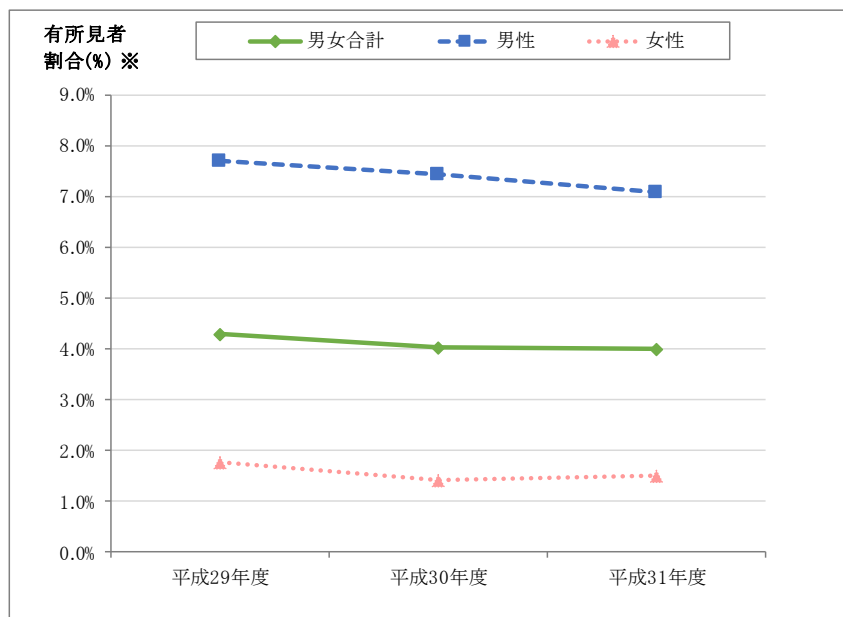
保健指導判定値により有所見を判定する。

中性脂肪:150mg/dl以上

年度別 有所見者割合 (HDLコレステロール)

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	対象者数(人) ※	6,447	6,621	6,995
	有所見者数(人) ※	276	267	279
	有所見者割合(%) ※	4.3%	4.0%	4.0%
男性	対象者数(人) ※	2,728	2,878	3,122
	有所見者数(人) ※	210	214	221
	有所見者割合(%) ※	7.7%	7.4%	7.1%
女性	対象者数(人) ※	3,719	3,743	3,873
	有所見者数(人) ※	66	53	58
	有所見者割合(%) ※	1.8%	1.4%	1.5%

年度別 有所見者割合 (HDLコレステロール)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※対象者数 …健診検査値が記録されている人数。

※有所見者数 …保健指導判定値を超えている人数。

※有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合。

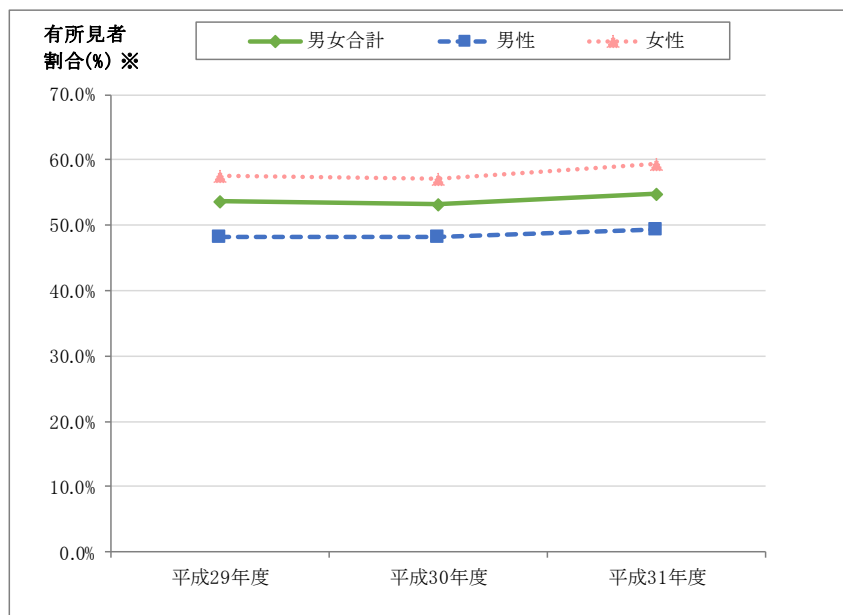
保健指導判定値により有所見を判定する。

HDLコレステロール:39mg/dl以下

年度別 有所見者割合 (LDLコレステロール)

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	対象者数(人) ※	6,447	6,621	6,995
	有所見者数(人) ※	3,457	3,526	3,842
	有所見者割合(%) ※	53.6%	53.3%	54.9%
男性	対象者数(人) ※	2,728	2,878	3,122
	有所見者数(人) ※	1,316	1,385	1,542
	有所見者割合(%) ※	48.2%	48.1%	49.4%
女性	対象者数(人) ※	3,719	3,743	3,873
	有所見者数(人) ※	2,141	2,141	2,300
	有所見者割合(%) ※	57.6%	57.2%	59.4%

年度別 有所見者割合 (LDLコレステロール)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※対象者数 …健診検査値が記録されている人数。

※有所見者数 …保健指導判定値を超えている人数。

※有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合。

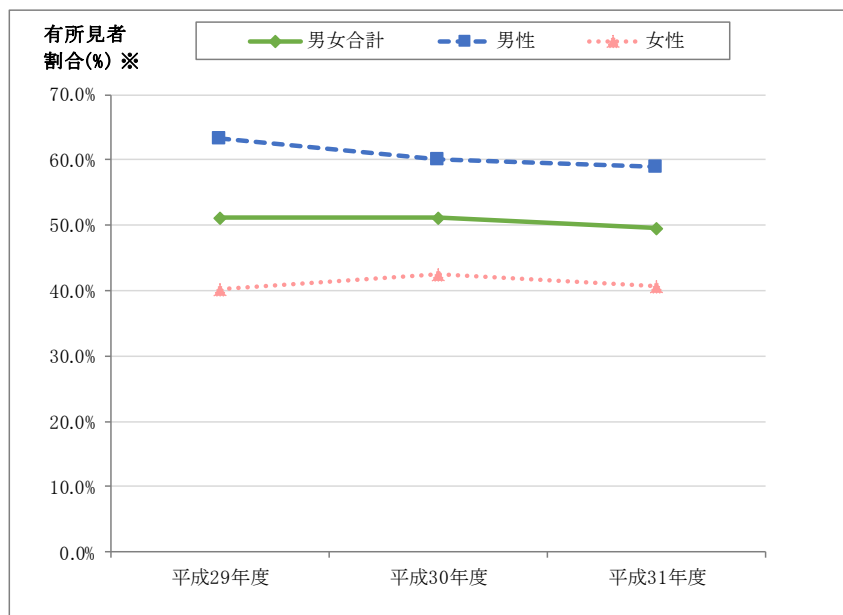
保健指導判定値により有所見を判定する。

LDLコレステロール:120mg/dl以上

年度別 有所見者割合(空腹時血糖)

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	対象者数(人) ※	1,523	1,653	1,896
	有所見者数(人) ※	781	847	940
	有所見者割合(%) ※	51.3%	51.2%	49.6%
男性	対象者数(人) ※	731	817	922
	有所見者数(人) ※	462	491	543
	有所見者割合(%) ※	63.2%	60.1%	58.9%
女性	対象者数(人) ※	792	836	974
	有所見者数(人) ※	319	356	397
	有所見者割合(%) ※	40.3%	42.6%	40.8%

年度別 有所見者割合(空腹時血糖)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※対象者数 …健診検査値が記録されている人数。

※有所見者数 …保健指導判定値を超えている人数。

※有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合。

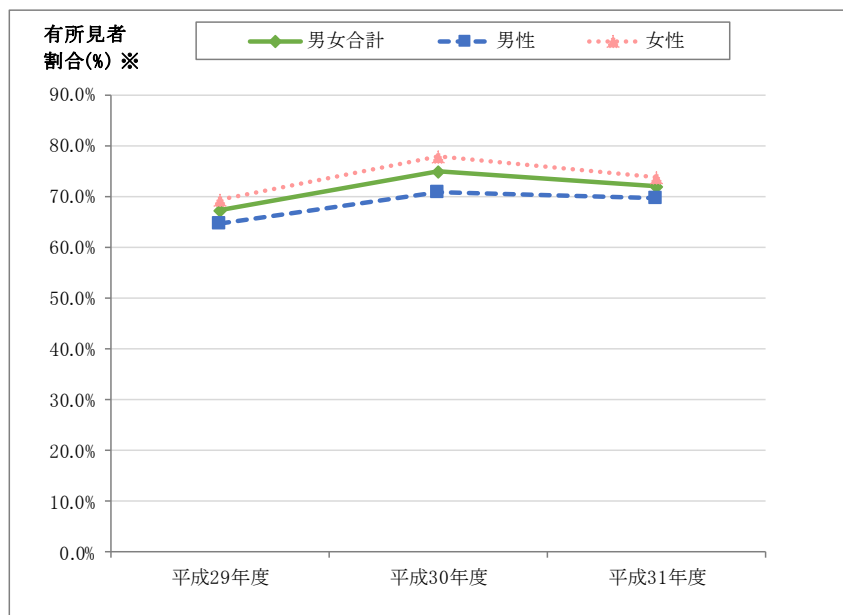
保健指導判定値により有所見を判定する。

空腹時血糖値:100mg/dl以上

年度別 有所見者割合 (HbA1c (NGSP))

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	対象者数(人) ※	6,433	6,608	6,911
	有所見者数(人) ※	4,336	4,947	4,965
	有所見者割合(%) ※	67.4%	74.9%	71.8%
男性	対象者数(人) ※	2,723	2,873	3,085
	有所見者数(人) ※	1,761	2,037	2,148
	有所見者割合(%) ※	64.7%	70.9%	69.6%
女性	対象者数(人) ※	3,710	3,735	3,826
	有所見者数(人) ※	2,575	2,910	2,817
	有所見者割合(%) ※	69.4%	77.9%	73.6%

年度別 有所見者割合 (HbA1c (NGSP))



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※対象者数 …健診検査値が記録されている人数。

※有所見者数 …保健指導判定値を超えている人数。

※有所見者割合…健診検査値が記録されている人のうち、保健指導判定値を超えている人の割合。

保健指導判定値により有所見を判定する。

HbA1c (NGSP) : 5.6%以上

2. 質問別回答状況

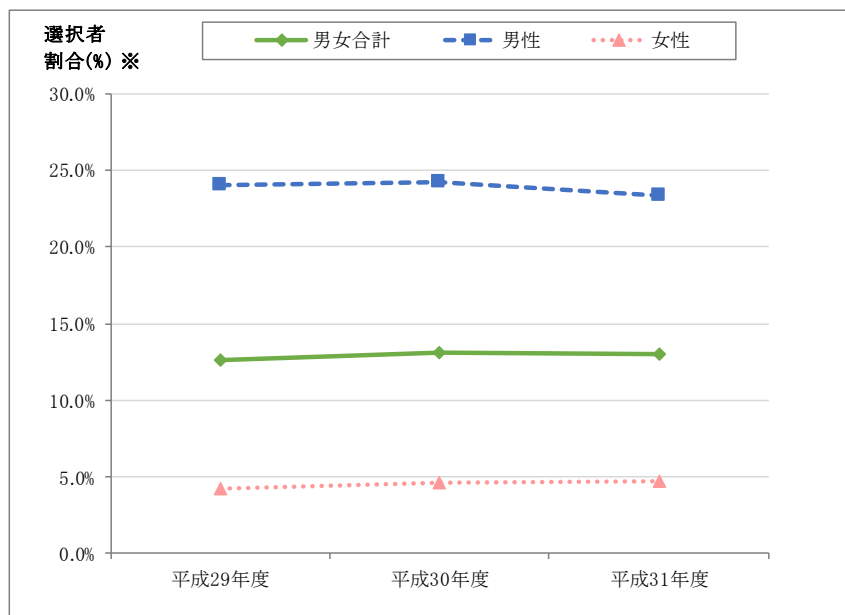
平成29年度から平成31年度の特定健康診査の質問票における喫煙習慣・運動習慣・咀嚼・食習慣・飲酒習慣・生活習慣に関する集計結果を年度別に示す。

①喫煙習慣

年度別「喫煙あり」の回答状況

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	質問回答者数(人) ※	6,447	6,621	6,995
	選択者数(人) ※	812	870	911
	選択者割合(%) ※	12.6%	13.1%	13.0%
男性	質問回答者数(人) ※	2,728	2,878	3,122
	選択者数(人) ※	655	697	729
	選択者割合(%) ※	24.0%	24.2%	23.4%
女性	質問回答者数(人) ※	3,719	3,743	3,873
	選択者数(人) ※	157	173	182
	選択者割合(%) ※	4.2%	4.6%	4.7%

年度別「喫煙あり」の回答状況



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…喫煙習慣の質問に回答した人数。

※選択者数…質問の選択肢を選択した人数。

※選択者割合…喫煙習慣の質問に回答した人のうち、「喫煙あり」を選択した人の割合。

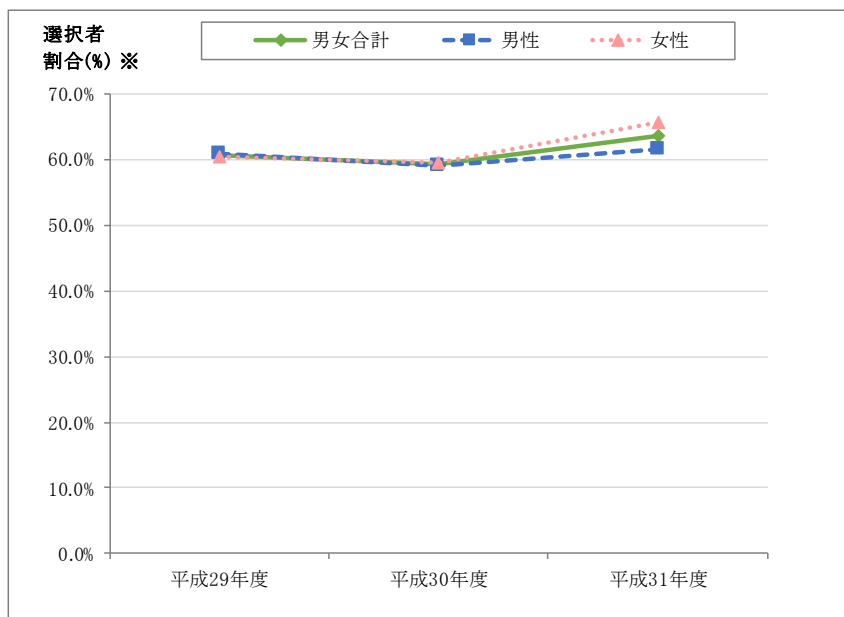
喫煙あり…「現在、たばこを習慣的に吸っている。」の質問に対し、「はい」の回答数を集計。

②運動習慣

年度別「1回30分以上の運動習慣なし」の回答状況

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	質問回答者数(人) ※	936	982	1,280
	選択者数(人) ※	568	582	814
	選択者割合(%) ※	60.7%	59.3%	63.6%
男性	質問回答者数(人) ※	494	517	660
	選択者数(人) ※	301	305	407
	選択者割合(%) ※	60.9%	59.0%	61.7%
女性	質問回答者数(人) ※	442	465	620
	選択者数(人) ※	267	277	407
	選択者割合(%) ※	60.4%	59.6%	65.6%

年度別「1回30分以上の運動習慣なし」の回答状況



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…運動習慣の質問に回答した人数。

※選択者数…質問の選択肢を選択した人数。

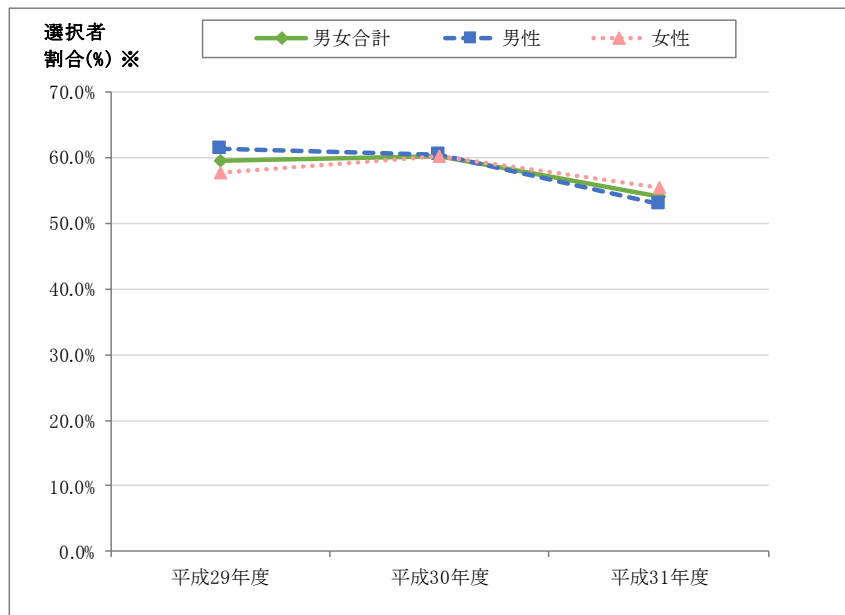
※選択者割合…運動習慣の質問に回答した人のうち、「1回30分以上の運動習慣なし」を選択した人の割合。

1回30分以上の運動習慣なし…「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上かつ1年以上実施。」の質問に対し、「いいえ」の回答数を集計。

年度別「1日1時間以上の身体活動なし」の回答状況

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	質問回答者数(人) ※	936	982	1,280
	選択者数(人) ※	558	592	693
	選択者割合(%) ※	59.6%	60.3%	54.1%
男性	質問回答者数(人) ※	494	517	660
	選択者数(人) ※	303	312	349
	選択者割合(%) ※	61.3%	60.3%	52.9%
女性	質問回答者数(人) ※	442	465	620
	選択者数(人) ※	255	280	344
	選択者割合(%) ※	57.7%	60.2%	55.5%

年度別「1日1時間以上の身体活動なし」の回答状況



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…運動習慣の質問に回答した人数。

※選択者数 …質問の選択肢を選択した人数。

※選択者割合 …運動習慣の質問に回答した人のうち、「1日1時間以上の身体活動なし」を選択した人の割合。

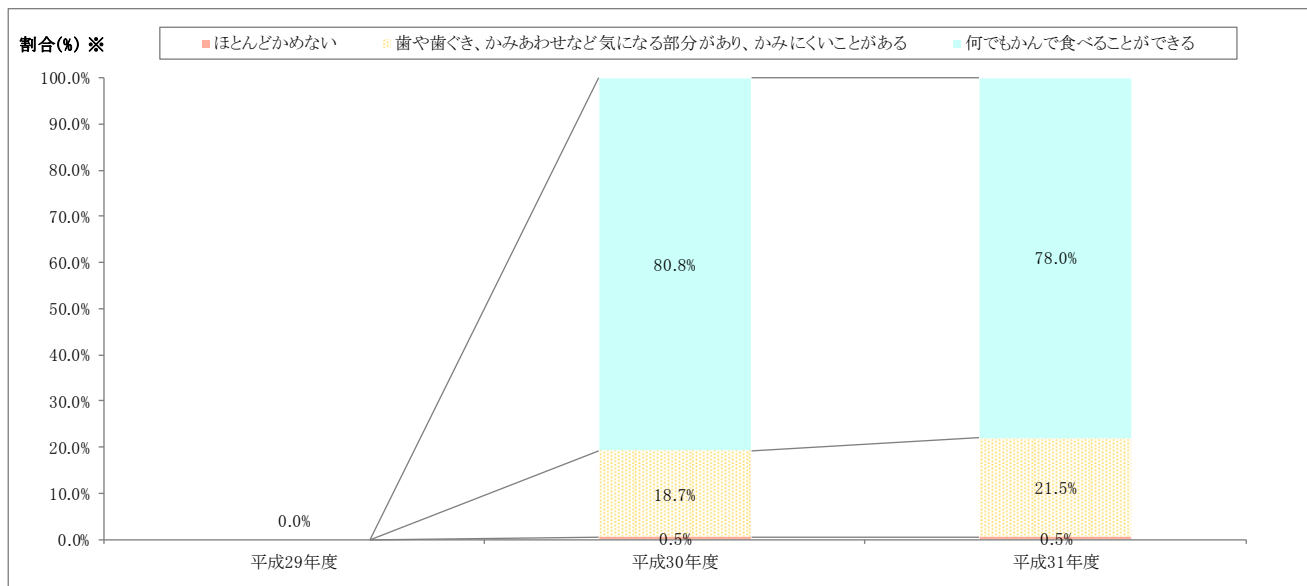
1日1時間以上の身体活動なし…「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施。」の質問に対し、「いいえ」の回答数を集計。

③咀嚼

年度別 咀嚼の回答状況(全体)

年度	質問回答者数(人) ※	ほとんどかめない		歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある		何でもかんで食べることができる	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
平成30年度	982	5	0.5%	184	18.7%	793	80.8%
平成31年度	1,279	6	0.5%	275	21.5%	998	78.0%

年度別 咀嚼の回答状況(全体)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…食事をかんで食べる時の状態に回答した人数。

※選択者数…食事をかんで食べる時の状態の選択肢を選択した人数。

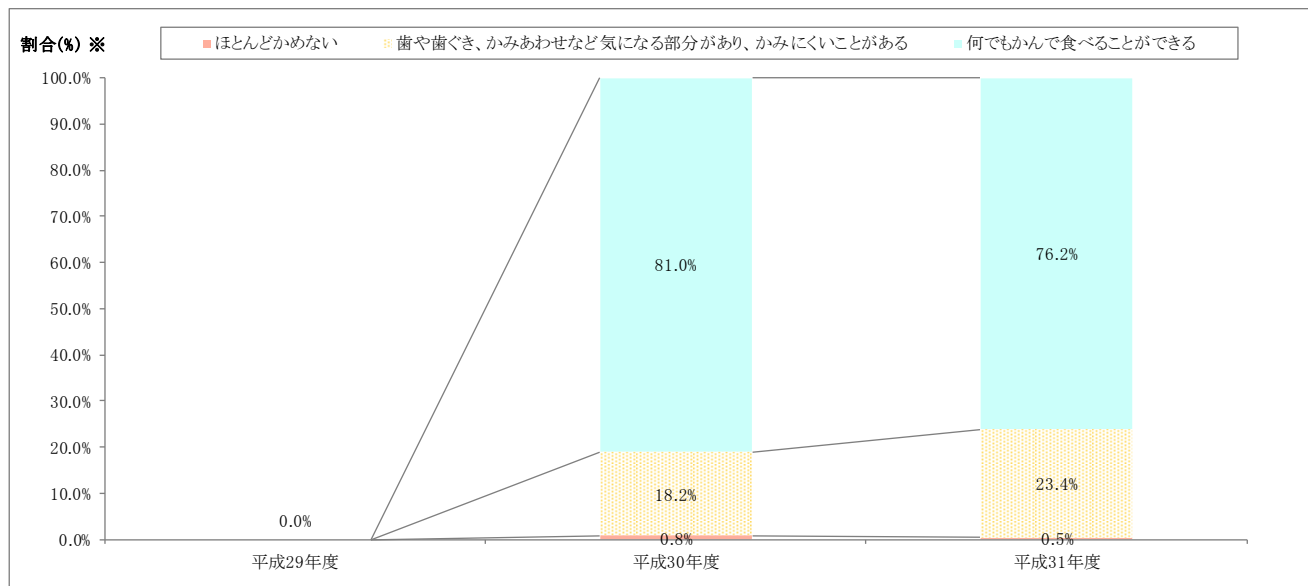
※割合…食事をかんで食べる時の状態に回答した人で、各選択肢を選択した人の割合。

咀嚼…「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。」の質問に対する回答数を集計。

年度別 咀嚼の回答状況(男性)

年度	質問回答者数(人) ※	ほとんどかめない		歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある		何でもかんで食べることができる	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
平成30年度	517	4	0.8%	94	18.2%	419	81.0%
平成31年度	659	3	0.5%	154	23.4%	502	76.2%

年度別 咀嚼の回答状況(男性)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…食事をかんで食べる時の状態に回答した人数。

※選択者数…食事をかんで食べる時の状態の選択肢を選択した人数。

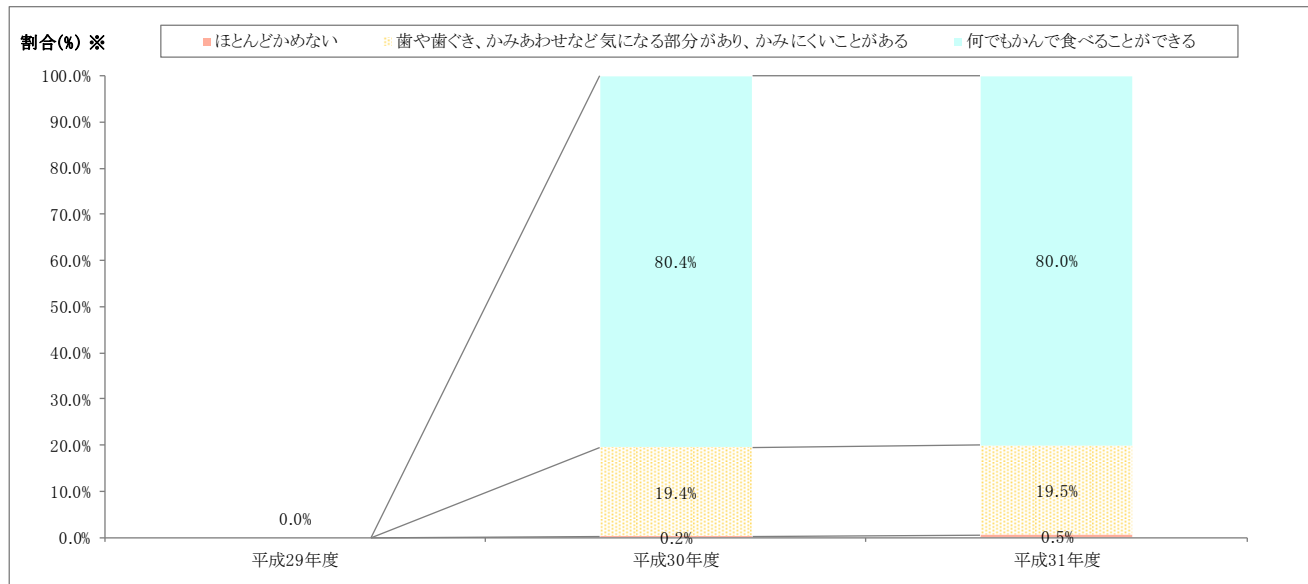
※割合…食事をかんで食べる時の状態に回答した人で、各選択肢を選択した人の割合。

咀嚼…「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。」の質問に対する回答数を集計。

年度別 咀嚼の回答状況(女性)

年度	質問回答者数(人) ※	ほとんどかめない		歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある		何でもかんで食べることができる	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
平成30年度	465	1	0.2%	90	19.4%	374	80.4%
平成31年度	620	3	0.5%	121	19.5%	496	80.0%

年度別 咀嚼の回答状況(女性)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…食事をかんで食べる時の状態に回答した人数。

※選択者数…食事をかんで食べる時の状態の選択肢を選択した人数。

※割合…食事をかんで食べる時の状態に回答した人で、各選択肢を選択した人の割合。

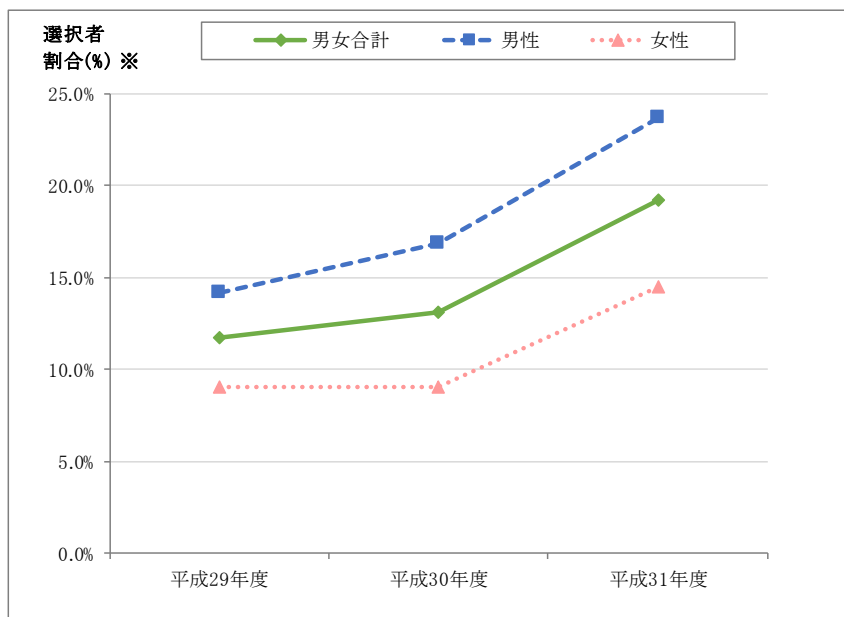
咀嚼…「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。」の質問に対する回答数を集計。

④食習慣

年度別「週3回以上就寝前に夕食」の回答状況

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	質問回答者数(人) ※	936	982	1,278
	選択者数(人) ※	110	129	246
	選択者割合(%) ※	11.8%	13.1%	19.2%
男性	質問回答者数(人) ※	494	517	659
	選択者数(人) ※	70	87	156
	選択者割合(%) ※	14.2%	16.8%	23.7%
女性	質問回答者数(人) ※	442	465	619
	選択者数(人) ※	40	42	90
	選択者割合(%) ※	9.0%	9.0%	14.5%

年度別「週3回以上就寝前に夕食」の回答状況



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…食習慣の質問に回答した人数。

※選択者数…質問の選択肢を選択した人数。

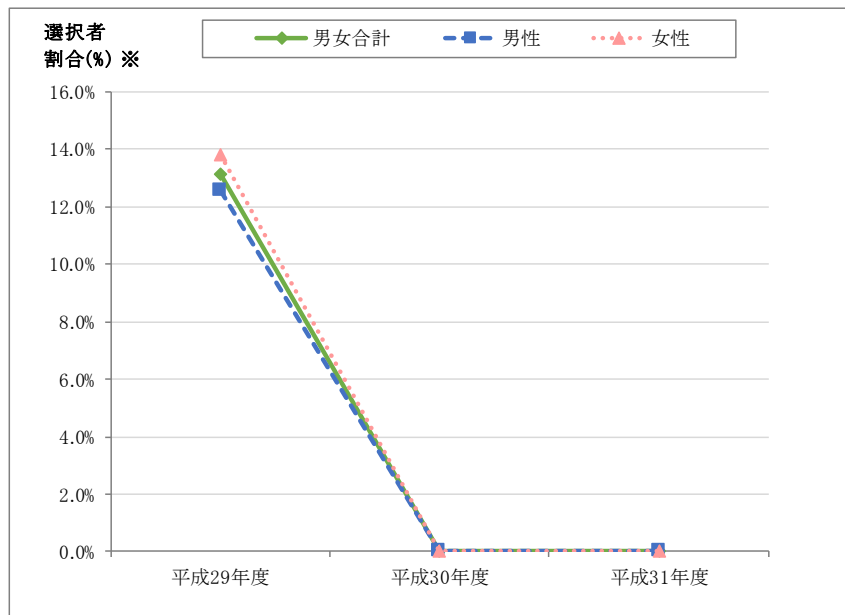
※選択者割合…食習慣の質問に回答した人のうち、「週3回以上就寝前に夕食」を選択した人の割合。

週3回以上就寝前に夕食…「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある。」の質問に対し、「はい」の回答数を集計。

年度別「週3回以上夕食後に間食」の回答状況

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
男女合計	質問回答者数(人) ※	935	0	0
	選択者数(人) ※	123	0	0
	選択者割合(%) ※	13.2%	0.0%	0.0%
男性	質問回答者数(人) ※	494	0	0
	選択者数(人) ※	62	0	0
	選択者割合(%) ※	12.6%	0.0%	0.0%
女性	質問回答者数(人) ※	441	0	0
	選択者数(人) ※	61	0	0
	選択者割合(%) ※	13.8%	0.0%	0.0%

年度別「週3回以上夕食後に間食」の回答状況



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…食習慣の質問に回答した人数。

※選択者数…質問の選択肢を選択した人数。

※選択者割合…食習慣の質問に回答した人のうち、「週3回以上夕食後に間食」を選択した人の割合。

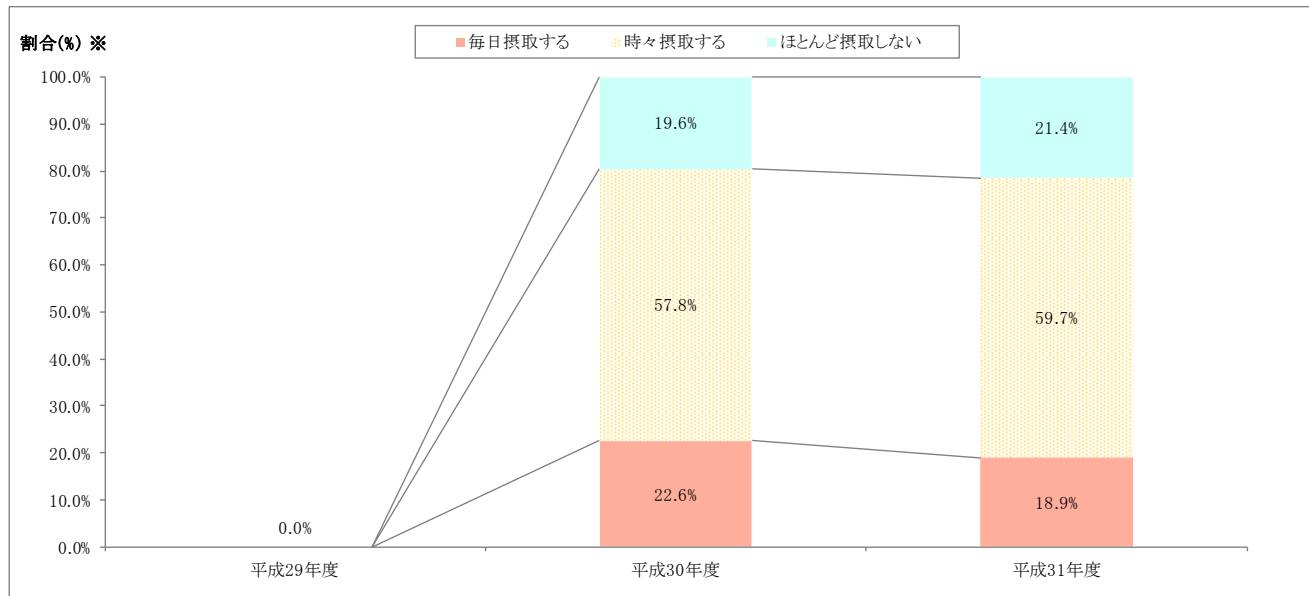
週3回以上夕食後に間食…「夕食後に間食(3食以外の夜食)をとることが週に3回以上ある。」の質問に対し、「はい」の回答数を集計。

※平成30年度以降で廃止された質問項目。

年度別 間食の回答状況(全体)

年度	質問回答者数(人) ※	毎日摂取する		時々摂取する		ほとんど摂取しない	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
平成30年度	982	222	22.6%	568	57.8%	192	19.6%
平成31年度	1,280	242	18.9%	764	59.7%	274	21.4%

年度別 間食の回答状況(全体)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…朝昼夕の3食以外の間食や甘い飲み物に回答した人数。

※選択者数 …朝昼夕の3食以外の間食や甘い飲み物の選択肢を選択した人数。

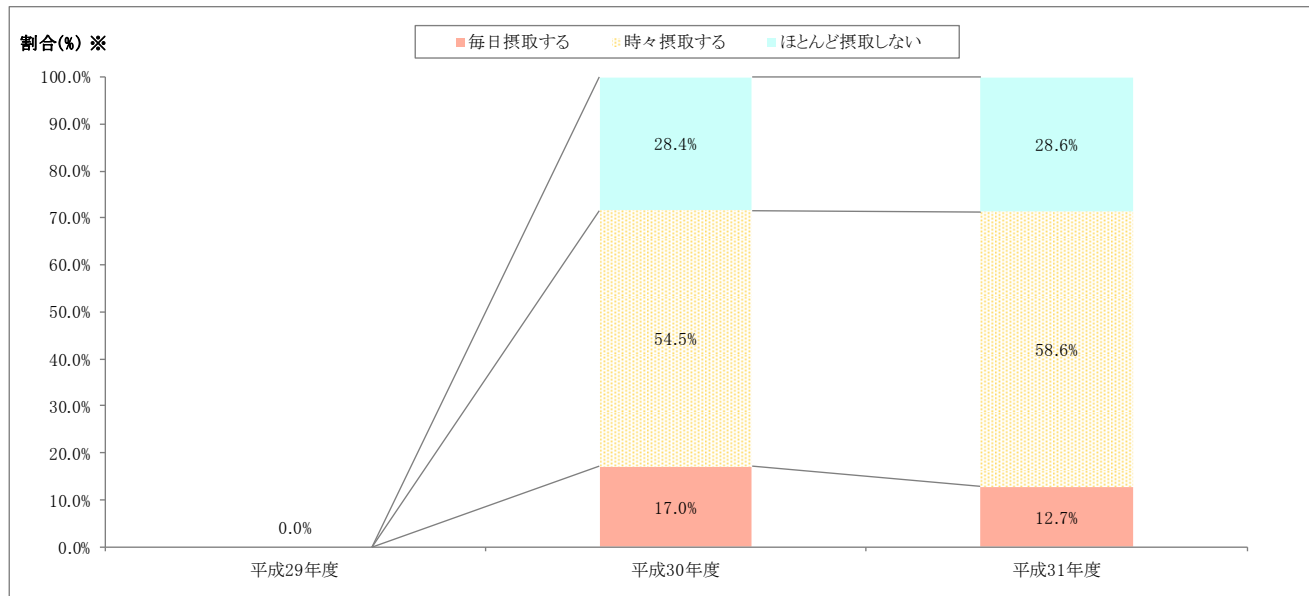
※割合 …朝昼夕の3食以外の間食や甘い飲み物に回答した人で、各選択肢を選択した人の割合。

間食…「朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか。」の質問に対する回答数を集計。

年度別 間食の回答状況(男性)

年度	質問回答者数(人) ※	毎日摂取する		時々摂取する		ほとんど摂取しない	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
平成30年度	517	88	17.0%	282	54.5%	147	28.4%
平成31年度	660	84	12.7%	387	58.6%	189	28.6%

年度別 間食の回答状況(男性)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…朝昼夕の3食以外の間食や甘い飲み物に回答した人数。

※選択者数 …朝昼夕の3食以外の間食や甘い飲み物の選択肢を選択した人数。

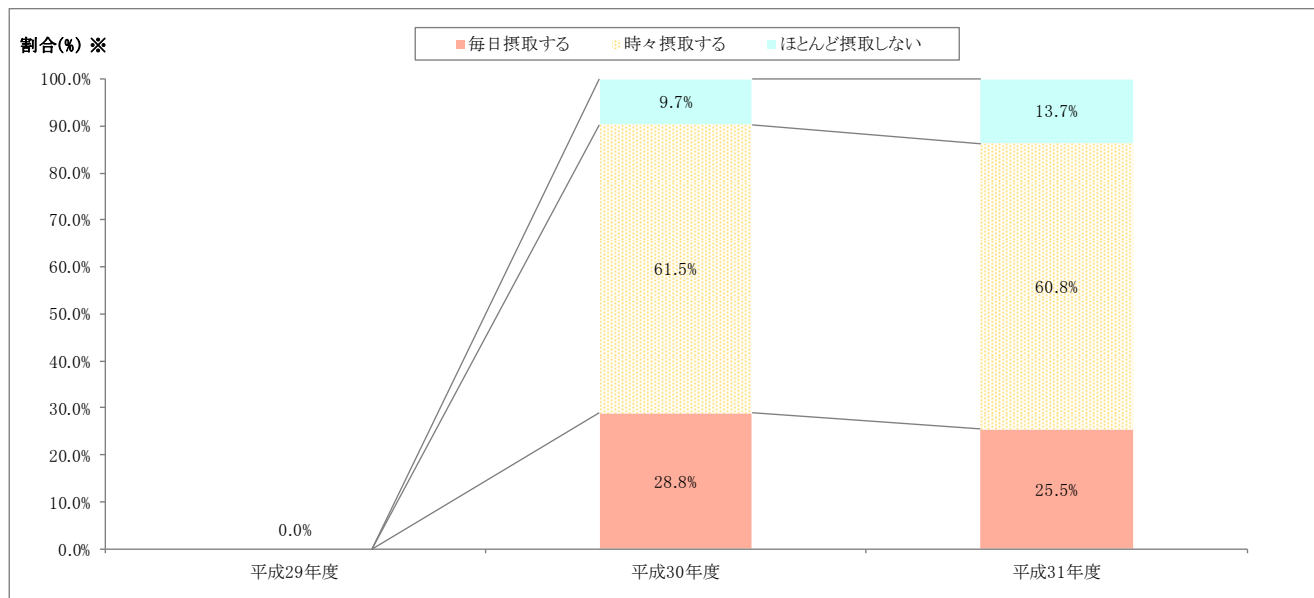
※割合 …朝昼夕の3食以外の間食や甘い飲み物に回答した人で、各選択肢を選択した人の割合。

間食…「朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか。」の質問に対する回答数を集計。

年度別 間食の回答状況(女性)

年度	質問回答者数(人) ※	毎日摂取する		時々摂取する		ほとんど摂取しない	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
平成30年度	465	134	28.8%	286	61.5%	45	9.7%
平成31年度	620	158	25.5%	377	60.8%	85	13.7%

年度別 間食の回答状況(女性)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…朝昼夕の3食以外の間食や甘い飲み物に回答した人数。

※選択者数 …朝昼夕の3食以外の間食や甘い飲み物の選択肢を選択した人数。

※割合 …朝昼夕の3食以外の間食や甘い飲み物に回答した人で、各選択肢を選択した人の割合。

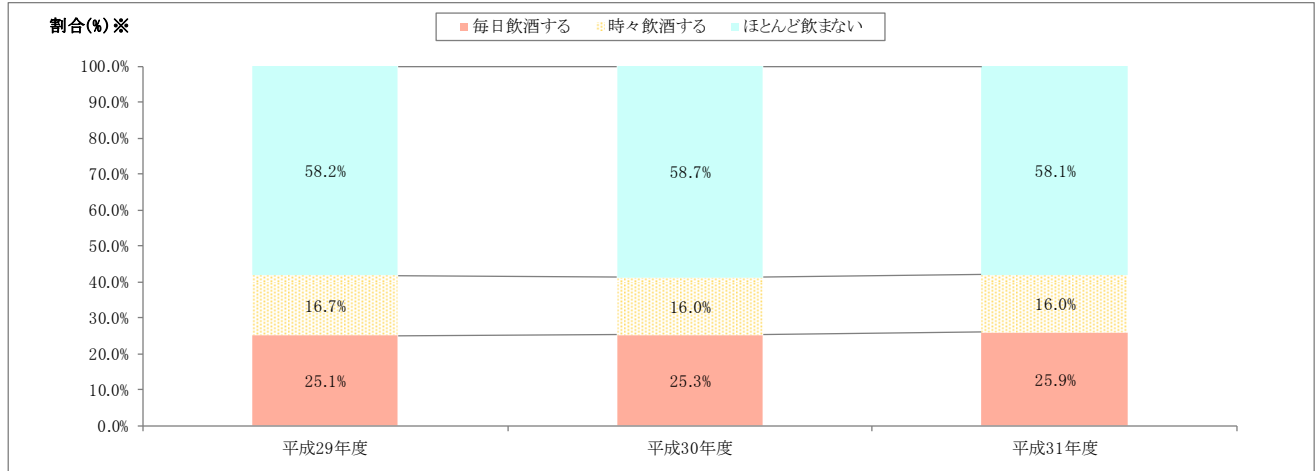
間食…「朝昼夕の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか。」の質問に対する回答数を集計。

⑤飲酒習慣

年度別 飲酒頻度の回答状況(全体)

年度	質問回答者数(人) ※	毎日飲酒する		時々飲酒する		ほとんど飲まない	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	6,447	1,618	25.1%	1,075	16.7%	3,754	58.2%
平成30年度	6,621	1,673	25.3%	1,061	16.0%	3,887	58.7%
平成31年度	6,995	1,815	25.9%	1,119	16.0%	4,061	58.1%

年度別 飲酒頻度の回答状況(全体)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…飲酒習慣の質問に回答した人数。

※選択者数 …飲酒習慣の選択肢を選択した人数。

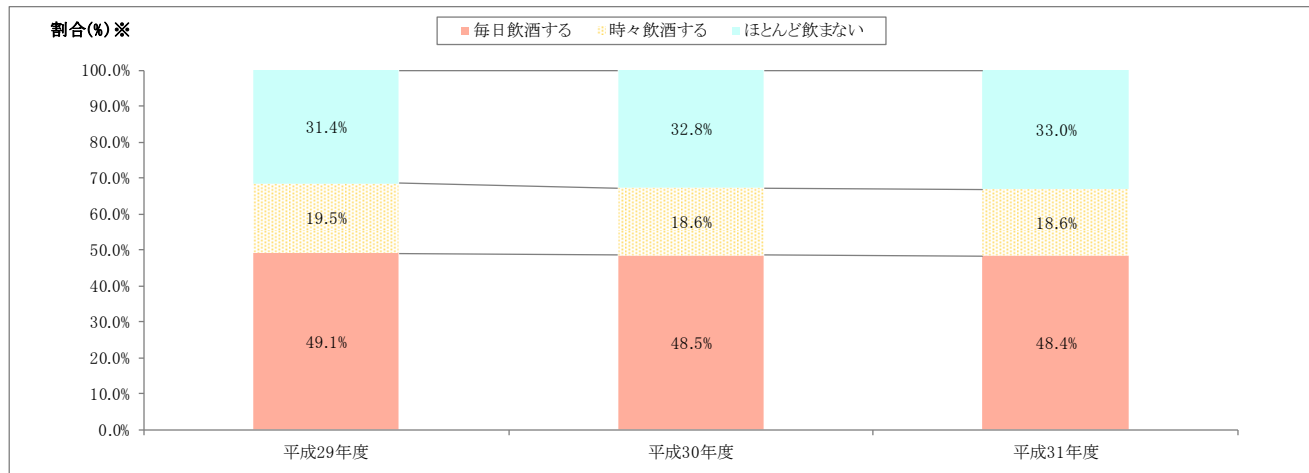
※割合 …飲酒習慣の質問に回答した人のうち、各選択肢を選択した人の割合。

飲酒頻度…「お酒(日本酒・焼酎・ビール・洋酒など)を飲む頻度」の質問に対する回答数を集計。

年度別 飲酒頻度の回答状況(男性)

年度	質問回答者数(人) ※	毎日飲酒する		時々飲酒する		ほとんど飲まない	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	2,728	1,339	49.1%	532	19.5%	857	31.4%
平成30年度	2,878	1,397	48.5%	536	18.6%	945	32.8%
平成31年度	3,122	1,510	48.4%	581	18.6%	1,031	33.0%

年度別 飲酒頻度の回答状況(男性)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…飲酒習慣の質問に回答した人数。

※選択者数 …飲酒習慣の選択肢を選択した人数。

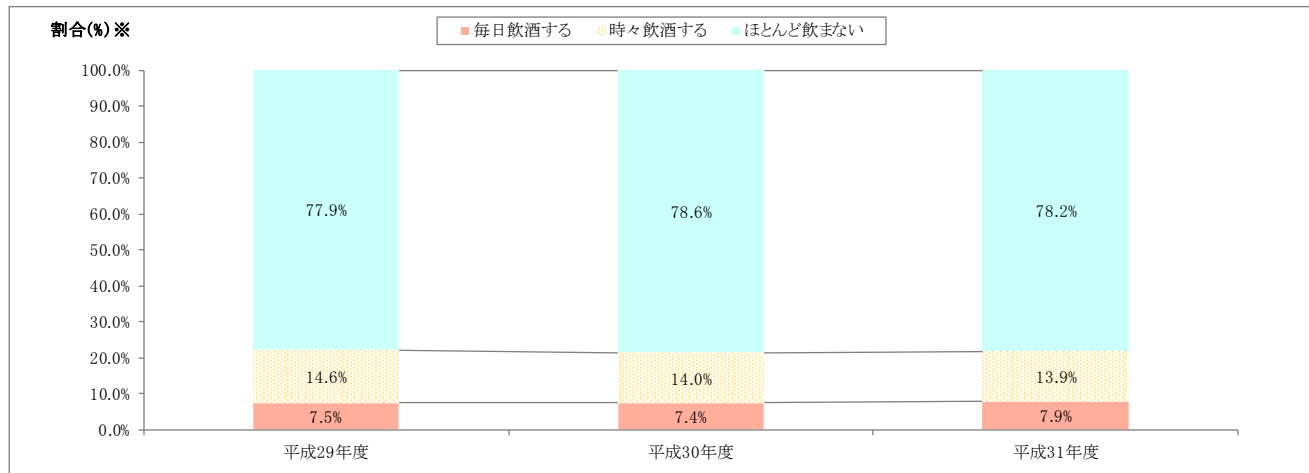
※割合 …飲酒習慣の質問に回答した人のうち、各選択肢を選択した人の割合。

飲酒頻度…「お酒(日本酒・焼酎・ビール・洋酒など)を飲む頻度」の質問に対する回答数を集計。

年度別 飲酒頻度の回答状況(女性)

年度	質問回答者数(人) ※	毎日飲酒する		時々飲酒する		ほとんど飲まない	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	3,719	279	7.5%	543	14.6%	2,897	77.9%
平成30年度	3,743	276	7.4%	525	14.0%	2,942	78.6%
平成31年度	3,873	305	7.9%	538	13.9%	3,030	78.2%

年度別 飲酒頻度の回答状況(女性)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…飲酒習慣の質問に回答した人数。

※選択者数 …飲酒習慣の選択肢を選択した人数。

※割合 …飲酒習慣の質問に回答した人のうち、各選択肢を選択した人の割合。

飲酒頻度…「お酒(日本酒・焼酎・ビール・洋酒など)を飲む頻度」の質問に対する回答数を集計。

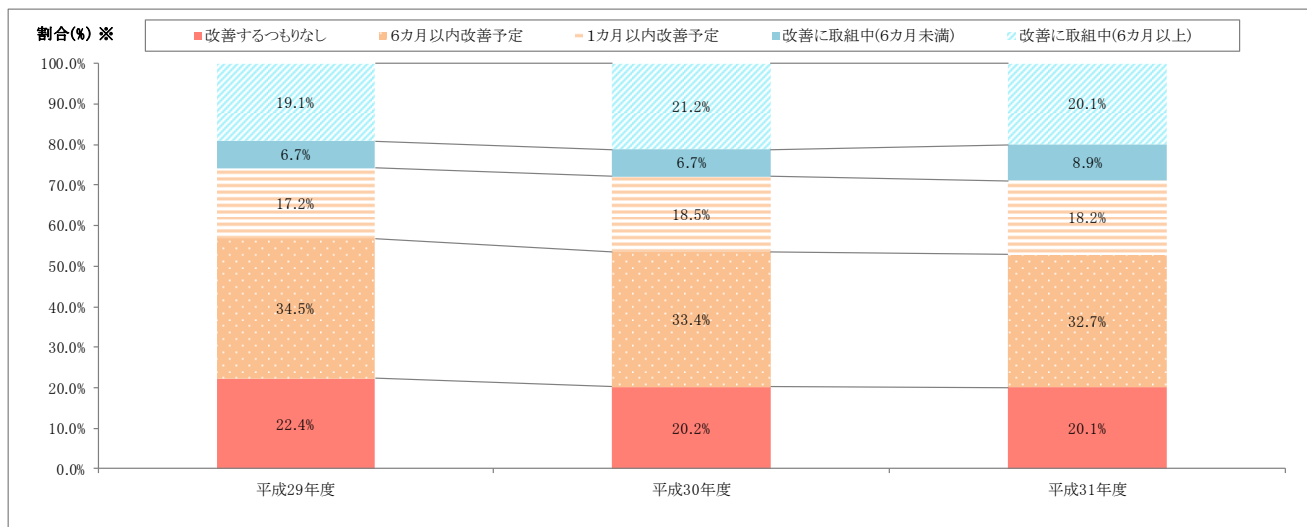
⑥生活習慣

年度別 生活習慣の改善の意思の回答状況(全体)

年度	質問回答者数(人) ※	改善するつもりなし		6カ月以内改善予定		1カ月以内改善予定	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	935	209	22.4%	323	34.5%	161	17.2%
平成30年度	982	198	20.2%	328	33.4%	182	18.5%
平成31年度	1,276	257	20.1%	417	32.7%	232	18.2%

年度	質問回答者数(人) ※	改善に取り組中(6カ月未満)		改善に取り組中(6カ月以上)	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	935	63	6.7%	179	19.1%
平成30年度	982	66	6.7%	208	21.2%
平成31年度	1,276	114	8.9%	256	20.1%

年度別 生活習慣の改善の意思の回答状況(全体)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…生活習慣の質問に回答した人数。

※選択者数…生活習慣の選択肢を選択した人数。

※割合…生活習慣の質問に回答した人のうち、各選択肢を選択した人の割合。

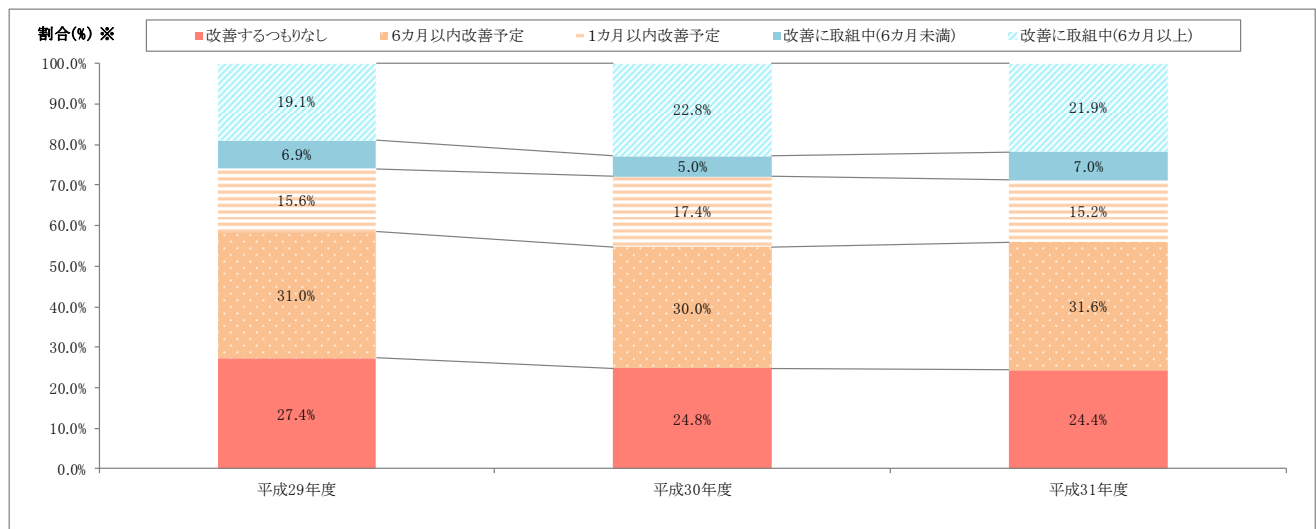
生活習慣の改善の意思…「運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか。」の質問に対する回答数を集計。

年度別 生活習慣の改善の意思の回答状況(男性)

年度	質問回答者数(人) ※	改善するつもりなし		6カ月以内改善予定		1カ月以内改善予定	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	493	135	27.4%	153	31.0%	77	15.6%
平成30年度	517	128	24.8%	155	30.0%	90	17.4%
平成31年度	659	161	24.4%	208	31.6%	100	15.2%

年度	質問回答者数(人) ※	改善に取り組中(6カ月未満)		改善に取り組中(6カ月以上)	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	493	34	6.9%	94	19.1%
平成30年度	517	26	5.0%	118	22.8%
平成31年度	659	46	7.0%	144	21.9%

年度別 生活習慣の改善の意思の回答状況(男性)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…生活習慣の質問に回答した人数。

※選択者数…生活習慣の選択肢を選択した人数。

※割合…生活習慣の質問に回答した人のうち、各選択肢を選択した人の割合。

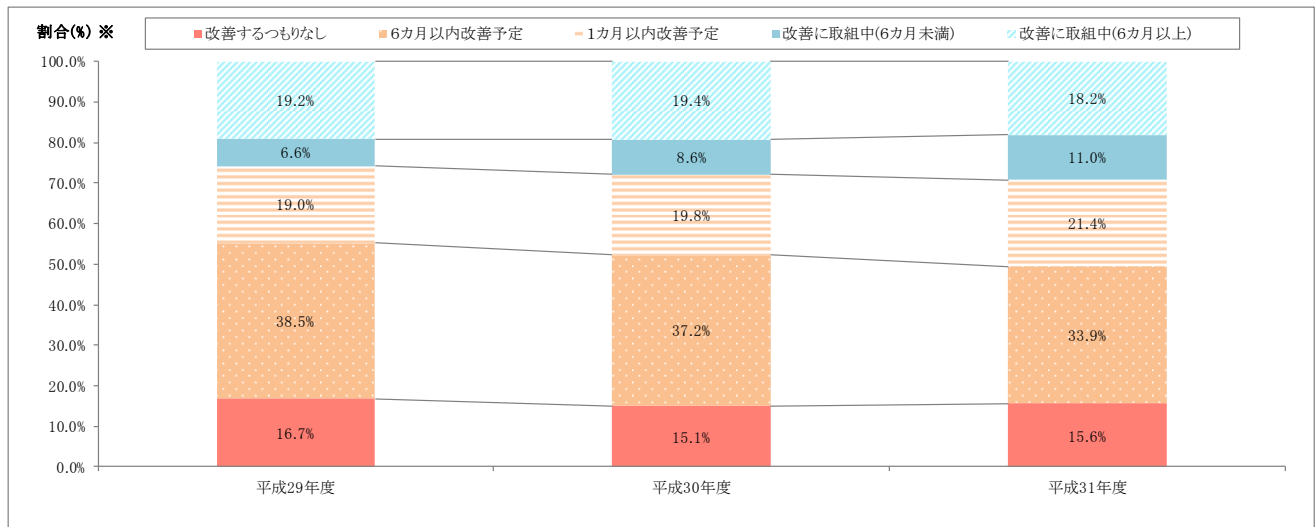
生活習慣の改善の意思…「運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか。」の質問に対する回答数を集計。

年度別 生活習慣の改善の意思の回答状況(女性)

年度	質問回答者数(人) ※	改善するつもりなし		6カ月以内改善予定		1カ月以内改善予定	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	442	74	16.7%	170	38.5%	84	19.0%
平成30年度	465	70	15.1%	173	37.2%	92	19.8%
平成31年度	617	96	15.6%	209	33.9%	132	21.4%

年度	質問回答者数(人) ※	改善に取り組中(6カ月未満)		改善に取り組中(6カ月以上)	
		選択者数(人) ※	割合(%) ※	選択者数(人) ※	割合(%) ※
平成29年度	442	29	6.6%	85	19.2%
平成30年度	465	40	8.6%	90	19.4%
平成31年度	617	68	11.0%	112	18.2%

年度別 生活習慣の改善の意思の回答状況(女性)



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成29年4月～令和2年3月健診分(36カ月分)。

資格確認日…各年度末時点。

※質問回答者数…生活習慣の質問に回答した人数。

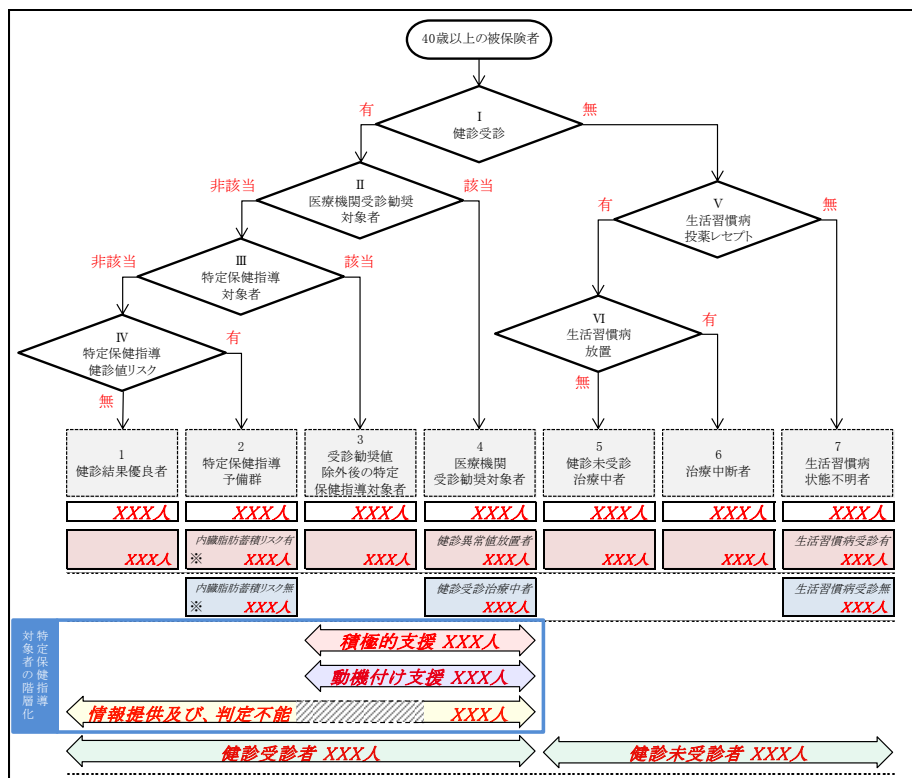
※選択者数…生活習慣の選択肢を選択した人数。

※割合…生活習慣の質問に回答した人のうち、各選択肢を選択した人の割合。

生活習慣の改善の意思…「運動や食生活等の生活習慣を改善してみようと思いますか。」の質問に対する回答数を集計。

1. 「指導対象者群分析」のグループ分けの見方

特定健康診査及びレセプトによる指導対象者群分析



【フロー説明】

- I 健診受診 … 健診受診の有無を判定。
- II 医療機関受診勧奨対象者 … 健診値(血糖、血圧、脂質)のいずれかが、厚生労働省が定めた受診勧奨判定値を超えて受診勧奨対象者に該当するか判定。
- III 特定保健指導対象者 … 厚生労働省が定めた「標準的な健診・保健指導プログラム【平成30年度版】」に沿って、特定保健指導対象者に該当するか判定。
- IV 特定保健指導健診値リスク … 厚生労働省が定めた保健指導判定値により、健診値(血糖、血圧、脂質)のリスクの有無を判定。判定に喫煙は含めない。
- V 生活習慣病投薬レセプト … 生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)に関する、投薬の有無を判定。
- VI 生活習慣病放置 … 生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)を治療している患者で、一定期間の受診状況により生活習慣病放置の有無を判定。

【グループ別説明】

健診受診あり

1. 健診結果優良者 … 保健指導判定値(血糖、血圧、脂質)に該当しない者。
2. 特定保健指導予備群 … 保健指導判定値(血糖、血圧、脂質)に該当しているが、その他の条件(服薬有り等)により保健指導対象者でない者。
 内臓脂肪蓄積リスク有 … 「2. 特定保健指導予備群」のうち、服薬が有るため特定保健指導対象者にならなかった者。
 内臓脂肪蓄積リスク無 … 「2. 特定保健指導予備群」のうち、内臓脂肪蓄積リスク(腹囲・BMI)がないため特定保健指導対象者にならなかった者。
3. 受診勧奨値除外後の特定保健指導対象者 … 受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)に該当していない特定保健指導対象者。
4. 医療機関受診勧奨対象者 … 受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)に該当する者。
 健診異常値放置者 … 「4. 医療機関受診勧奨対象者」のうち、健診受診後に生活習慣病に関する医療機関受診がない者。
 健診受診治療中者 … 「4. 医療機関受診勧奨対象者」のうち、健診受診後に生活習慣病に関する医療機関受診がある者。または健診受診後生活習慣病に関する医療機関受診はないが、健診受診後間もないため医療機関受診の意志がない「健診異常値放置者」と判断できない者。

健診受診なし

5. 健診未受診治療中者 … 生活習慣病治療中の者。
6. 治療中断者 … 過去に生活習慣病の治療をしていたが、生活習慣病に関する医療機関受診が一定期間ない者。
7. 生活習慣病状態不明者 … 生活習慣病の投薬治療をしていない者。
 生活習慣病受診有 … 「7. 生活習慣病状態不明者」のうち、生活習慣病に関する医療機関受診がある者。
 生活習慣病受診無 … 「7. 生活習慣病状態不明者」のうち、生活習慣病に関する医療機関受診がない者。

2. 用語解説集

用語		説明
ア行	HDLコレステロール	余分なコレステロールを回収して肝臓に運び、動脈硬化を抑える。善玉コレステロール。
	LDLコレステロール	肝臓で作られたコレステロールを全身へ運ぶ役割を担っており、増えすぎると動脈硬化を起こして心筋梗塞や脳梗塞を発症させる。悪玉コレステロール。
カ行	空腹時血糖	空腹時に血液中にあるブドウ糖の量を示している。検査値が高いと糖尿病の疑いがある。
	血圧(収縮期・拡張期)	血管にかかる圧力のこと。心臓が血液を送り出すときに示す最大血圧を収縮期血圧、全身から戻った血液が心臓にたまっているときに示す最小血圧を拡張期血圧という。
	高齢化率	65歳以上の高齢者が総人口に占める割合。
サ行	ジェネリック医薬品	先発医薬品と治療学的に同等であるものとして製造販売が承認され、一般的に研究開発に要する費用が低く抑えられることから、先発医薬品に比べて薬価が安い医薬品。
	疾病分類	「疾病、傷害及び死因の統計分類」の「ICD-10(2013年版)準拠 疾病分類表」を使用。
	腎不全	腎臓の機能が低下し、老廃物を十分排泄できなくなったり、体内に不要なものや体にとって有害なものがたまっている状態。
	積極的支援	特定健康診査の結果により、生活習慣病の発症リスクがより高い者に対して行われる保健指導。「動機付け支援」の内容に加え、対象者が主体的に生活習慣の改善を継続できるよう、面接、電話等を用いて、3カ月以上の定期的・継続的な支援を行う。
タ行	中性脂肪	体を動かすエネルギー源となる物質であるが、蓄積することにより、肥満の原因になる。
	動機付け支援	特定健康診査の結果により、生活習慣病の発症リスクが高い者に対して行われる保健指導。医師・保健師・管理栄養士等による個別、またはグループ面接により、対象者に合わせた行動計画の策定と保健指導が行われる。初回の保健指導終了後、対象者は行動計画を実践し、3カ月経過後に面接、電話等で結果の確認と評価を行う。
	特定健康診査	平成20年4月から開始された、生活習慣予防のためのメタボリックシンドロームに着目した健康診査のこと。特定健診。40歳～74歳の医療保険加入者を対象とする。
	特定保健指導	特定健康診査の結果により、生活習慣病の発症リスクが高く、生活改善により生活習慣病の予防効果が期待できる人に対して行う保健指導のこと。特定保健指導対象者の選定方法により「動機付け支援」「積極的支援」に該当した人に対し実施される。
ナ行	日本再興戦略	日本産業再興プラン・戦略市場創造プラン・国際展開戦略の3つのアクションプランを軸とする。データヘルス計画に関する内容は、戦略市場創造プランの【テーマ1：国民の「健康寿命」の延伸】の中に「予防・健康管理の推進に関する新たな仕組みづくり」の一つとして示されている。
ハ行	HbA1c	ブドウ糖と血液中のヘモグロビンが結びついたもので、過去1～2カ月の平均的な血糖の状態を示す検査に使用される。
マ行	メタボリックシンドローム	内臓脂肪型肥満に高血圧、高血糖、脂質代謝異常が組み合わさったり、心臓病や脳卒中などの動脈硬化性疾患を招きやすい状態。内臓脂肪型肥満(内臓肥満・腹部肥満)に加えて、血圧・血糖・脂質の基準のうち2つ以上に該当する状態を「メタボリックシンドローム」、1つのみ該当する状態を「メタボリックシンドローム予備群」という。
ヤ行	有所見	検査の結果、何らかの異常(検査基準値を上回っている等)が認められたことをいう。
ラ行	レセプト	診療報酬請求明細書の通称。

3. 疾病分類表(2013年版)

コード	疾病分類	主な疾病		
I. 感染症及び寄生虫症				
0101	腸管感染症	下痢症	急性胃腸炎	感染性胃腸炎
0102	結核	肺結核	結核性胸膜炎	潜在性結核感染症
0103	主として性的伝播様式をとる感染症	梅毒	クラミジア頸管炎	淋病
0104	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	尋常性疣贅	帯状疱疹	単純ヘルペス
0105	ウイルス性肝炎	B型肝炎	C型肝炎	C型慢性肝炎
0106	その他のウイルス性疾患	アデノウイルス感染症	流行性角結膜炎	RSウイルス感染症
0107	真菌症	足白癬	皮膚カンジダ症	爪白癬
0108	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	陳旧性肺結核	肺結核後遺症	小児麻痺後遺症
0109	その他の感染症及び寄生虫症	ヘリコバクター・ピロリ感染症	溶連菌感染症	敗血症
II. 新生物<腫瘍>				
0201	胃の悪性新生物<腫瘍>	胃癌	早期胃癌	胃体部癌
0202	結腸の悪性新生物<腫瘍>	大腸癌	S状結腸癌	上行結腸癌
0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	直腸癌	直腸S状部結腸癌	直腸癌術後再発
0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	肝癌	肝細胞癌	原発性肝癌
0205	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	肺癌	上葉肺癌	下葉肺癌
0206	乳房の悪性新生物<腫瘍>	乳癌	乳房上外側部乳癌	乳癌再発
0207	子宮の悪性新生物<腫瘍>	子宮体癌	子宮頸癌	子宮癌
0208	悪性リンパ腫	悪性リンパ腫	非ホジキンリンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
0209	白血病	成人T細胞白血病リンパ腫	白血病	慢性骨髄性白血病
0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌	膵癌	膀胱癌
0211	良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	子宮筋腫	脳腫瘍	肺腫瘍
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害				
0301	貧血	鉄欠乏性貧血	貧血	巨赤芽球性貧血
0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	播種性血管内凝固	血液凝固異常	血小板減少症
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患				
0401	甲状腺障害	甲状腺機能低下症	甲状腺機能亢進症	甲状腺腫
0402	糖尿病	糖尿病	2型糖尿病	糖尿病網膜症
0403	脂質異常症	高脂血症	高コレステロール血症	脂質異常症
0404	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	脱水症	高尿酸血症	卵巣機能不全
V. 精神及び行動の障害				
0501	血管性及び詳細不明の認知症	認知症	血管性認知症	老年精神病
0502	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	ニコチン依存症	アルコール依存症	急性アルコール中毒
0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	統合失調症	統合失調症様状態	幻覚妄想状態
0504	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	うつ病	うつ状態	躁うつ病
0505	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	不安神経症	神経症	心身症
0506	知的障害<精神遅滞>	知的障害	軽度知的障害	重度知的障害
0507	その他の精神及び行動の障害	摂食障害	器質性精神障害	せん妄

コード	疾病分類	主な疾病		
VI. 神経系の疾患				
0601	パーキンソン病	パーキンソン症候群	パーキンソン病	パーキンソン病 Y a h r 3
0602	アルツハイマー病	アルツハイマー型認知症	アルツハイマー病	アルツハイマー型老年認知症
0603	てんかん	てんかん	症候性てんかん	精神運動発作
0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	片麻痺	脳性麻痺	不全麻痺
0605	自律神経系の障害	自律神経失調症	神経調節性失神	自律神経障害
0606	その他の神経系の疾患	不眠症	片頭痛	睡眠時無呼吸症候群
VII. 眼及び付属器の疾患				
0701	結膜炎	アレルギー性結膜炎	結膜炎	慢性結膜炎
0702	白内障	白内障	加齢性白内障	後発白内障
0703	屈折及び調節の障害	近視性乱視	遠視性乱視	老視
0704	その他の眼及び付属器の疾患	ドライアイ	緑内障	眼精疲労
VIII. 耳及び乳様突起の疾患				
0801	外耳炎	外耳炎	外耳湿疹	急性外耳炎
0802	その他の外耳疾患	耳垢栓塞	耳介軟骨膜炎	耳瘻孔
0803	中耳炎	滲出性中耳炎	急性中耳炎	中耳炎
0804	その他の中耳及び乳様突起の疾患	耳管狭窄症	耳管機能低下	真珠腫性中耳炎
0805	メニエール病	メニエール病	メニエール症候群	内耳性めまい
0806	その他の内耳疾患	良性発作性頭位めまい症	末梢性めまい症	耳性めまい
0807	その他の耳疾患	感音難聴	難聴	耳鳴症
IX. 循環器系の疾患				
0901	高血圧性疾患	高血圧症	本態性高血圧症	高血圧性心疾患
0902	虚血性心疾患	狭心症	急性心筋梗塞	心筋梗塞
0903	その他の心疾患	心不全	不整脈	慢性心不全
0904	くも膜下出血	くも膜下出血	くも膜下出血後遺症	脳動脈瘤破裂
0905	脳内出血	脳出血	脳出血後遺症	視床出血
0906	脳梗塞	脳梗塞	脳梗塞後遺症	多発性脳梗塞
0907	脳動脈硬化（症）	脳動脈硬化症	動脈硬化性脳症	
0908	その他の脳血管疾患	内頸動脈狭窄症	頸動脈硬化症	脳血管障害
0909	動脈硬化（症）	閉塞性動脈硬化症	動脈硬化症	動脈硬化性網膜症
0911	低血圧（症）	起立性低血圧症	低血圧症	起立性調節障害
0912	その他の循環器系の疾患	深部静脈血栓症	末梢循環障害	慢性動脈閉塞症
X. 呼吸器系の疾患				
1001	急性鼻咽頭炎 [かぜ] <感冒>	感冒	急性鼻炎	急性鼻咽頭炎
1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	咽頭炎	急性咽頭炎	扁桃炎
1003	その他の急性上気道感染症	急性上気道炎	急性咽頭喉頭炎	急性副鼻腔炎
1004	肺炎	肺炎	急性肺炎	マイコプラズマ肺炎
1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	急性気管支炎	マイコプラズマ気管支炎	クループ性気管支炎

コード	疾病分類	主な疾病		
1006	アレルギー性鼻炎	アレルギー性鼻炎	花粉症	季節性アレルギー性鼻炎
1007	慢性副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎	副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎急性増悪
1008	急性又は慢性と明示されない気管支炎	気管支炎	気管気管支炎	びまん性気管支炎
1009	慢性閉塞性肺疾患	慢性気管支炎	肺気腫	慢性閉塞性肺疾患
1010	喘息	気管支喘息	喘息性気管支炎	気管支喘息発作
1011	その他の呼吸器系の疾患	インフルエンザ	呼吸不全	誤嚥性肺炎
X I. 消化器系の疾患				
1101	う蝕	う蝕	二次う蝕	う蝕第2度
1102	歯肉炎及び歯周疾患	歯周炎	歯肉炎	歯冠周囲炎
1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害	顎関節症	歯痛	顎関節炎
1104	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	胃潰瘍	十二指腸潰瘍	出血性胃潰瘍
1105	胃炎及び十二指腸炎	慢性胃炎	胃炎	急性胃炎
1106	痔核	内痔核	痔核	外痔核
1107	アルコール性肝疾患	アルコール性肝障害	アルコール性肝炎	アルコール性肝硬変
1108	慢性肝炎（アルコール性のものを除く）	慢性肝炎	活動性慢性肝炎	慢性肝炎増悪
1109	肝硬変（アルコール性のものを除く）	肝硬変症	原発性胆汁性肝硬変	非代償性肝硬変
1110	その他の肝疾患	肝機能障害	脂肪肝	肝障害
1111	胆石症及び胆のう炎	胆のう結石症	胆のう炎	総胆管結石
1112	膵疾患	膵炎	急性膵炎	慢性膵炎
1113	その他の消化器系の疾患	便秘症	逆流性食道炎	口内炎
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患				
1201	皮膚及び皮下組織の感染症	皮膚感染症	蜂窩織炎	膿疱疹性湿疹
1202	皮膚炎及び湿疹	湿疹	皮膚炎	アトピー性皮膚炎
1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮脂欠乏症	皮脂欠乏性湿疹	じんま疹
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患				
1301	炎症性多発性関節障害	関節リウマチ	痛風	関節炎
1302	関節症	変形性膝関節症	変形性関節症	変形性股関節症
1303	脊椎障害（脊椎症を含む）	腰部脊柱管狭窄症	変形性腰椎症	頸椎症
1304	椎間板障害	腰椎椎間板症	腰椎椎間板ヘルニア	頸椎椎間板ヘルニア
1305	頸腕症候群	頸肩腕症候群	頸肩腕障害	
1306	腰痛症及び坐骨神経痛	腰痛症	坐骨神経痛	筋筋膜性腰痛症
1307	その他の脊柱障害	腰椎すべり症	背部痛	頸部痛
1308	肩の傷害<損傷>	肩関節周囲炎	肩関節腱板炎	肩石灰性腱炎
1309	骨の密度及び構造の障害	骨粗鬆症	閉経後骨粗鬆症	脊椎骨粗鬆症
1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	筋肉痛	神経痛	関節痛
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患				
1401	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	腎炎	腎盂腎炎	水腎症
1402	腎不全	慢性腎不全	腎性貧血	腎不全

コード	疾病分類	主な疾病		
1403	尿路結石症	腎結石症	尿管結石症	尿路結石症
1404	その他の腎尿路系の疾患	膀胱炎	腎機能低下	尿路感染症
1405	前立腺肥大（症）	前立腺肥大症	前立腺症	
1406	その他の男性生殖器の疾患	慢性前立腺炎	前立腺炎	亀頭包皮炎
1407	月経障害及び閉経周辺期障害	更年期症候群	月経困難症	萎縮性陰炎
1408	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	子宮腔部びらん	細菌性陰炎	陰炎
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく				
1501	流産	稽留流産	異所性妊娠	絨毛性疾患
1502	妊娠高血圧症候群	妊娠高血圧症候群	重症妊娠高血圧症候群	子癇
1503	単胎自然分娩	自然頭位分娩	自然分娩	単胎自然分娩
1504	その他の妊娠, 分娩及び産じょく	切迫流産	子宮内感染症	血液型不適合
X VI. 周産期に発生した病態				
1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	子宮内胎児発育遅延	低出生体重児	早産児
1602	その他の周産期に発生した病態	新生児黄疸	胎児ジストレス	A B O 因子不適合
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常				
1701	心臓の先天奇形	心房中隔欠損症	心室中隔欠損症	先天性心疾患
1702	その他の先天奇形, 変形及び染色体異常	足底角化症	角皮症	毛孔性苔癬
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの				
1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	頭痛	嘔吐症	めまい症
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響				
1901	骨折	腰椎圧迫骨折	肋骨骨折	大腿骨頸部骨折
1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	脳挫傷	外傷性脳出血	硬膜下血腫
1903	熱傷及び腐食	熱傷	第2度熱傷	手熱傷
1904	中毒	刺虫症	蜂刺症	食中毒
1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	打撲傷	結膜異物	捻挫
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用				
2101	検査及び診査のための保健サービスの利用者	検診	健康診断	胃癌検診
2102	予防接種	予防接種		
2103	正常妊娠及び産じょくの管理並びに家族計画	妊娠	正常妊娠	多産婦
2104	歯の補てつ			
2105	特定の処置（歯の補てつを除く）及び保健ケアのための保健サービスの利用者	抜釘	気管切開口に対する手当て	骨髄移植ドナー
2106	その他の理由による保健サービスの利用者	白内障術後	ペースメーカ植え込み後	人工股関節置換術後
X X II. 特殊目的用コード				
2210	重症急性呼吸器症候群 [SARS]	重症急性呼吸器症候群		
2220	その他の特殊目的用コード			
分類外				
9999	分類外	ICD-10及び疾病分類に該当のない疾病		

4. 分析方法

データベースの作成方法及び分析方法は、株式会社データホライゾンの特許技術及び独自技術を用いる。

●医療費分解技術(特許第4312757号)

レセプトに記載されたすべての傷病名と診療行為(医薬品、検査、手術、処置、指導料等)を正しく結び付け、傷病名毎の医療費を算出する。

レセプトは傷病名毎に点数が振り分けられておらず、通常の統計資料は主傷病名で点数集計されており、また、治療中の傷病と治療済の傷病が併記されている。そのまま分析に使用すると「主傷病以外の傷病の医療費がゼロとなり、傷病名毎の医療費が正確には把握できない」「現在治療中の疾病が把握できない」等の問題がある。医療費分解技術を用いることで、これらの問題を解決し、疾病別に係る医療費を正確に把握できる。

●未コード化傷病名のコード化

レセプトに記載されている未コード化傷病名を、可能な限りコード化する。

レセプトは請求情報のため、傷病名が正確でない場合があり、現状10%程度の未コード化傷病名が含まれている。この問題を解決するため、マスタとの突合検索処理を行い、可能な限りコード化を行うことで、集計漏れを極力減らす。

医科レセプト

傷病名	(1) 本態性高血圧(主)		単位	数量	単価	数量	
	(2) 狭心症						
12 再診 時 明 外 13 特 60 糖 Hb 外 B- 尿- 外 血 生 80 短 一 長	(3) うつ病	(4) 高コレステロール血症					
	(5) 2型糖尿病	(6) 急性上気道炎					
	(7) アレルギー性鼻炎						
	調剤レセプト						
	No.	医薬品名・規格・用量・剤形・用法		単位	数量	単価	数量
	1	プラビックス錠75mg	1錠	66	28		
		カルネート錠2.5mg	1錠				
	カデュエット配合錠4番	1錠					
	トラゼンタ錠5mg	1錠					
	グリメシド錠1mg「NP」	1錠					
	【内服】1日1回朝食後服用						
2	ニコランマート錠5mg	3錠	2	28			
	【内服】1日3回食後服用						
3	エチカム錠0.5mg	2錠	1	28			
	【内服】1日1回就寝前服用						
4	スルピリド錠50mg「アメル」	2錠	27	28			
	エバデルS900 900mg	2包					
	安全性のため別包						
	【内服】1日2回朝夕食後服用						
決定点数					2,688		

①未コード化傷病名のコード化

未コード化傷病名を株式会社データホライゾン独自の辞書情報と突合検索処理しコード化する。

医科レセプトの記載		コード化	
(1)	本態性高血圧(主)	未コード化傷病名 ⇒ 8840107	本態性高血圧症
(2)	狭心症	4139007	狭心症
(3)	うつ病	2961003	うつ病
(4)	高コレステロール血症	2720004	高コレステロール血症
(5)	2型糖尿病	2500015	2型糖尿病
(6)	急性上気道炎	4659007	急性上気道炎
(7)	アレルギー性鼻炎	4779004	アレルギー性鼻炎

②医療費分解後グルーピング

レセプトに記載された全傷病名に対し、適応のある医薬品や診療行為を関連付け、医療費を分解後、傷病ごとにグルーピングする。

医科レセプトの記載		薬品	検査	診療行為	合計点数
(1)	本態性高血圧症(主)	184.3	25.2	266.5	476.0
(2)	狭心症	963.6	4.7	61.0	1,029.3
(3)	うつ病	63.7	0.3	11.0	75.0
(4)	高コレステロール血症	858.1	4.1	57.2	919.4
(5)	2型糖尿病	618.3	356.7	61.3	1,036.3
(6)	急性上気道炎	0.0	0.0	0.0	0.0
(7)	アレルギー性鼻炎	0.0	0.0	0.0	0.0
合計					3,536.0

●傷病管理システム(特許第5203481号)

レセプトに記載されている傷病識別情報、医薬品識別情報及び診療行為識別情報に基づき、傷病の重症度を判定する。

例えば糖尿病の重症度を判定することで、将来の重症化予測や特定した対象患者の病期に合わせた的確な指導を行うことが可能となる。株式会社データホライズンにおいて開発した傷病管理システムを用いて、糖尿病患者を階層化し特定する。

●レセプト分析システム及び分析方法(特許第5992234号)

中長期にわたるレセプトから特定の患者についてアクティブな傷病名とノンアクティブな傷病名を識別する。

レセプトに記載されている傷病名は、追記式のため、過去から現在までの傷病名が記載されており、その内、約4割が現在治療中でない傷病名といわれている。重症化予防や受診勧奨等、個別の保健事業の実施にあたっては、現在治療中の傷病名のみを取り出し、該当者を抽出する必要がある。前述の「医療費分解技術」では、当月の傷病名別にどのような医薬品や診療行為が使用されたのかは把握できた。しかし、傷病の種類によっては、中長期にわたる投薬や診療がなされるため、必ずしもその傷病名がアクティブかノンアクティブかを識別することが困難だったが、当特許技術で解決した。

●服薬情報提供装置、服薬情報提供方法、及びコンピュータプログラム(特許第6409113号)

多剤併用による薬物有害事象(ポリファーマシー)が大きな社会問題となるなか、お薬手帳が実現できなかった患者の全服薬情報を一元的に管理することが求められている。本特許を活用することで、今まで実現できなかった、医科・調剤レセプトから取得した患者ごとの全服薬情報を一元的に把握し、患者本人への啓発を促し、かかりつけ医やかかりつけ薬剤師への服薬情報提供を通してポリファーマシー解消のための服薬指導を支援することが可能となる。

●マスタの整備

マスタ(傷病名、医薬品、診療行為等レセプトに記載されるすべてを網羅したデータベース)を定期的にメンテナンスし最新状態に保つ。